新選 日本歴史五百題

鈴木乙治 八木金一郎 著

東京書肆 二一書房藏版

緒言

一、日本歴史問答體ノ書ハ世間其類極メテ多シ然レ𪜈問題ノ撰擇事實ノ記誠何レモ舊陋卑淺ニシテ要領ヲ缺ケルモノ多シ今日ノ如キ史學進歩ノ時ニ當リテハ試驗ノ方法並ニ問題モ益々發達シ來リテ在來ノ問答書ノ如キハ少シモ參考ノ資料ヲ供スルニ足ラサルヲ以テ是ニ於テカ國史中最必要適切ナル問題五百件ヲ精撰シ之ニ豊富ニシテ簡明ナル答案ヲ記述シ以テ本書ヲ成スニ至レリ

一、本書ハ中等教科程度ヲ標準トシ且廣ク官立府縣立學校及陸海軍各學校ニ於テ施行セシ試驗問題及文部省施行教員檢定問題並ニ各府縣施行ノ小學校教員檢定問題ニ參照シテ錄輯セルモノ多シ故ニ此等諸學校ヘ入學志願者ノ受驗用ノミナラズ教員志望者若クハ教員講習會用若クハ學生參考用トシテ適切ナルノミナラズ教員講習會用トシテハ無比ノ良友タルベキコトヲ信ス

一、歴史上ノ用語、故實、年代、地名、系譜等勉メテ解說並ニ注釋ヲ加ヘタレバ讀閱讀ノ際蓋便益尠カラザルヘシ

一、本書ノ如キ體裁ノ著ハ問題ノ撰擇最適切ニシテ豊富ナラサルヘカラス又答文ハ勉メテ簡明ヲ旨トシ要領ヲ悉セルモノナラザルヘカラス此二要素ヲ缺ク

特 61-29

トキハ問答書ノ値價ハ皆無ト謂フベシ編者ノ注意ト苦心トハ實ニ玆ニ在リハ

者レヲ諒セヨ之

目次

第一編　總論之部

(一) 國民ト國土トノ關係……一
(二) 地勢ト歷史トノ關係……一
(三) 建國ノ體制……二
(四) 皇位御繼承ノ法……二
(五) 天皇ニハ姓氏ナキノ理由……二
(六) 氏ト姓トノ別……二
(七) 三別(皇、神、蕃)ヲ問フ……二
(八) 天神地祇ノ別……三
(九) 御代數及御世數……三
(一〇) 日本國號ノ起因……三
(一一) 古來政權ノ移動……四

第二編　太古史之部(又神代ト稱ス)

(一二) 造化ノ三神……五
(一三) 神世七代……五
(一四) 天瓊矛ノ說明……五
(一五) 八尋殿ノ說明……五
(一六) 大八洲國……五
(一七) 大嘗會新嘗會ノ別……六
(一八) 天ツ日嗣ノ起源……六
(一九) 天壤無窮ノ神詔……六
(二〇) 三種神器ノ由來……七
(二一) 大國主命……七
(二二) 經津主武甕槌二神……七
(二三) 神代開化ノ度……七

第三編　上古史之部(自神武至皇極凡千三百餘年間)

(二四) 神武御東遷ノ目的……八
(二五) 東遷ノ御順路……八
(二六) 金鵄ノ靈……八
(二七) 橿原奠都ノ次第……九
(二八) 本邦紀元ト支那及西曆トノ比較……九
(二九) 八十梟帥、土蜘蛛、戸畔ノ說明九
(三〇) 神武御制定ノ職制及地方制…九
(三一) 國造及縣主ノ意義及職掌…一〇
(三二) 手研耳尊ノ奸謀……一〇
(三三) 八朝無爲ノ治……一〇
(三四) 鏡劍摸造ノ顚末……一〇
(三五) 四道將軍……一一
(三六) 弓弭調手未調……一一
(三七) 任那國名ノ起源……一一
(三八) 彦國葺命……一一
(三九) 豐城入彦及八綱田……一二
(四〇) 伊勢神宮ノ起リ……一二
(四一) 熊襲種族……一二
(四二) 熊襲討平ノ顚末……一二
(四三) 野見宿禰……一三
(四四) 日本武尊東征ノ顚末……一三
(四五) 草薙劍ノ由來……一三
(四六) 向火ノ說明……一三
(四七) 坂東ヲ吾嬬ト稱スル所以…一四
(四八) 御諸別王……一四
(四九) 子代ノ民及御名代ノ民……一四
(五〇) 成務帝國縣制定ノ次第……一四
(五一) 神武紀元ヨリ凡一千餘年間ニ國造增置ノ次第……一五
(五二) 君、別、直、稻置、村主ノ解…一五
(五三) 上古國造ノ裔現存セル者…一五
(五四) 大臣大連ノ始……一五
(五五) 大臣大連相並ヒテ朝ニ立ツノ始……一五
(五六) 上古海外トノ交通……一六
(五七) 委奴國王ノ金印……一六
(五八) 三韓ノ說明……一六
(五九) 神功征韓ノ源因……一六
(六〇) 三韓征服ノ結果……一七
(六一) 靡坂忍熊ノ亂……一七
(六二) 武內宿禰……一七
(六三) 文學ノ傳來……一七
(六四) 吳音ト漢音トノ沿革……一七
(六五) 阿直岐、王仁、弓月君、阿知使主ノ出自……一八
(六六) 東西史部ノ解……一八
(六七) 史官設置ノ始……一八
(六八) 仁德天皇ノ御聖德……一八
(六九) 難波高津宮……一九
(七〇) 世數ト代數トノ別ルヽ初例…一九
(七一) 探湯ノ說明……一九
(七二) 允恭帝姓氏ノ紊亂ヲ正セシ所以……一九
(七三) 上古族制ノ組織……二〇
(七四) 伴造ノ說明……二〇
(七五) 部曲及品部ノ民……二〇
(七六) 雄略朝工藝進步ノ狀況……二一
(七七) 三藏分立ノ次第……二一
(七八) 御讓位ノ初例……二一
(七九) 大伴金村……二二
(八〇) 任那日本府廢亡ノ次第……二二
(八一) 物部麤鹿火……二二
(八二) 佛敎ノ發生地及其傳來ノ次第……二三
(八三) 神佛兩敎ノ撞着ヲ生セシ理由……二三
(八四) 物部蘇我兩氏確執ノ眞想…二三

(八五) 佛敎弘布ノ迅速……二四
(八六) 佛敎ノ文學工藝ニ及セシ影響……二四
(八七) 本邦女皇ノ始及女帝ノ御名二四
(八八) 聖德太子……二四
(八九) 國際上支那ト交通ノ始……二五
(九〇) 支那遷代ノ大要……二五
(九一) 官爵頒布ノ始……二五
(九二) 蘇我氏ノ滅亡……二六
(九三) 中臣鎌足……二六
(九四) 大化ノ政新ヲ促スベキ內外ノ事情……二六
(九五) 南淵請安……二七
(九六) 高向玄理及僧旻……二七
(九七) 本邦和漢文ノ現存セル最古ノモノ……二七
(九八) 上古衣食住ノ一班……二七
(九九) 上古婚姻及葬送ノ法……二八
(一〇〇) 山陵ノ古制……二八
(一〇一) 上古ノ美術工藝……二八
(一〇二) 上古頭髮ノ狀……二九
(一〇三) 歌舞及樂器……二九

第四編　中古史之部

（大化改新ヨリ鎌倉幕府ノ創立マテ凡五百四十年間）

(一〇四) 年號ノ始……二九
(一〇五) 擬年號ノ事……三〇
(一〇六) 改元ノ事……三〇
(一〇七) 大化時代ト支那及西曆トノ比較……三〇
(一〇八) 大化改新ノ要項……三〇
(一〇九) 部曲田莊ノ說明……三一
(一一〇) 郡坊ノ制……三一
(一一一) 驛傳ノ制……三一
(一一二) 班田收授ノ法……三二
(一一三) 租庸調ノ制……三二
(一一四) 重祚ノ初例……三二
(一一五) 蝦夷征服ト阿部比羅夫……三三
(一一六) 三韓擲棄ノ次第……三三
(一一七) 踐祚ト卽位トノ別……三三
(一一八) 唐トノ修交始末……三四
(一一九) 愛國ヲ以テ褒賞ヲ得タルノ始……三四
(一二〇) 中興ノ英主及近江朝延ノ御代……三四
(一二一) 庚午年籍……三五
(一二二) 壬甲亂及弘文ノ諡號……三五
(一二三) 壬申亂源ト結果……三五
(一二四) 巡察使ノ始……三六
(一二五) 八等ノ姓……三六
(一二六) 律令修撰ノ沿革……三六
(一二七) 令義解……三七
(一二八) 格式ノ修撰……三七
(一二九) 律令格式ノ解……三七
(一三〇) 大寶官制ノ要……三八
(一三一) 則闕ノ官……三八
(一三二) 令外官及臨時官……三八
(一三三) 八省ノ職事……三八
(一三四) 彈正臺ノ職事……三九
(一三五) 唐朝官制ト大寶制トノ比較三九
(一三六) 四部官ノ說明……三九
(一三七) 敍任ノ制……四〇
(一三八) 位階ノ制……四〇
(一三九) 行ト守トノ解……四〇
(一四〇) 俸祿ノ制……四一
(一四一) 戶籍及稅法……四一
(一四二) 學制……四一

(一四三) 軍制……四二
(一四四) 刑法ノ制……四二
(一四五) 八虐六議ノ制……四二
(一四六) 僧道照及火葬ノ始……四三
(一四七) 淡海三船及御諡號ノ撰定……四三
(一四八) 太上天皇ノ初例……四三
(一四九) 奈良時代……四三
(一五〇) 古事記及風土記ノ修撰……四三
(一五一) 舍人親王傳……四四
(一五二) 六國史ノ說明……四四
(一五三) 藤原氏外戚專權ノ兆……四五
(一五四) 不比等ノ傳及四家……四五
(一五五) 奈良前後佛敎ノ興隆セシ所以……四五
(一五六) 僧玄肪ノ事歷……四六
(一五七) 僧行基ノ事歷……四六
(一五八) 奈良時代外國ヨリ渡來セシ高僧……四六
(一五九) 神佛同體ノ說……四六
(一六〇) 戒壇ノ說明……四七
(一六一) 奈良朝ノ文學……四七
(一六二) 奈良時代ノ美術工藝及正倉院……四七
(一六三) 按察使ノ始……四八
(一六四) 解由及勘解由使ノ說明……四八
(一六五) 出擧ノ法……四八
(一六六) 奈良時代都鄙ノ懸隔……四八
(一六七) 健兒ノ設置……四九
(一六八) 押領使ノ始及其職掌……四九
(一六九) 橘氏ノ出自及藤原氏トノ關係……四九
(一七〇) 和氣淸麿ノ出自及其忠烈……五〇
(一七一) 天長節ノ由來……五〇
(一七二) 平安奠都及其規模……五〇
(一七三) 蝦夷ノ鎭定……五一
(一七四) 坂上田村麿ノ事蹟……五一
(一七五) 弘仁ノ變……五一
(一七六) 邦人ノ印度ニ入リシ始……五二
(一七七) 藏人所ノ設置……五二
(一七八) 檢非違使廳ノ設置……五二
(一七九) 弘仁前後政權推移ノ漸兆……五三
(一八〇) 藤原冬嗣ノ事歷……五三
(一八一) 承和ノ獄……五三
(一八二) 海梨澄桃ノ事歷……五三
(一八三) 弘仁前後文學ノ隆盛……五四
(一八四) 小野篁ノ傳……五五
(一八五) 刊本ノ始書籍ノ缺乏……五五
(一八六) 人臣攝政准三宮隨身兵仗ノ始……五六
(一八七) 年官年爵ノ解……五六
(一八八) 藤原氏ト皇室トノ關係……五六
(一八九) 攝政關白ノ解說……五六
(一九〇) 貞觀ノ治……五七
(一九一) 阿衡事件……五七
(一九二) 寬平ノ治……五八
(一九三) 惟喬親王ノ事歷……五八
(一九四) 遣唐使ノ沿革及其廢止……五八
(一九五) 粟田眞人ノ傳君子國ノ稱……五九
(一九六) 遣唐使發遣ノ制及絕交ノ結果……五九
(一九七) 菅原道眞ノ出自……六〇
(一九八) 延喜天曆前後ノ文學……六〇
(一九九) 八代集ノ撰著……六一
(二〇〇) 紀貫之傳……六一
(二〇一) 書ノ三筆三蹟……六一
(二〇二) 延喜天曆ノ治……六一
(二〇三) 主殿寮ト率分堂トノ說明……六二
(二〇四) 荒鎭燒尾ノ解……六二

(二〇五) 莊園ノ起源及其弊害……六二
(二〇六) 武門武士ノ興起……六三
(二〇七) 承平天慶ノ亂源及其結果…六三
(二〇八) 藤原氏權力衰滅ノ要因……六四
(二〇九) 藤原實資傳……六四
(二一〇) 女院中宮及門院號ノ起リ…六五
(二一一) 刀伊ノ賊……六五
(二一二) 長元ノ亂……六五
(二一三) 前九年ノ役……六五
(二一四) 夷俘ト囚俘トノ別……六六
(二一五) 後三年ノ役……六六
(二一六) 坂東ハ清和源氏ノ根據地ト
ナリシ理由……六六
(二一七) 後三條天皇帝權ノ振張ト藤
原氏ノ失權……六七
(二一八) 延久宣旨升……六七
(二一九) 春日明神ノ由來……六七
(二二〇) 院宣政治……六八
(二二一) 上下ノ北面及西面ノ武士…六八
(二二二) 成功ノ弊……六八
(二二三) 僧兵ノ始及其強暴……六八
(二二四) 保元亂及其結果……六九
(二二五) 平治亂及其結果……七〇
(二二六) 朝服並ニ修飾風ノ變遷……七〇
(二二七) 平氏ノ全盛……七一
(二二八) 治承ノ第一變……七一
(二二九) 治承ノ第二變……七一
(二三〇) 平氏僧兵ヲ屈ス……七二
(二三一) 東西二帝ノ異例……七二
(二三二) 木曾義仲ノ出自及其死……七二
(二三三) 平氏滅亡ノ顚末……七三
(二三四) 關東ト西國ト源平二氏トノ
關係……七三

第五編　近古史ノ部
（鎌倉幕府ヨリ德川幕府ノ末マデ凡六百八十餘年間）

(二三五) 鎌倉幕府ノ創立……七四
(二三六) 鎌倉創幕時代ト支那及西洋
トノ時代比較……七四
(二三七) 賴朝鎌倉ヲ根擧トセシ所以七四
(二三八) 賴朝ノ施政……七五
(二三九) 鎌倉幕府ノ組織……七五
(二四〇) 守護地頭ノ職掌……七六
(二四一) 賴朝奥羽九州ノ經略……七六
(二四二) 賴朝範賴ヲ殺セシ所以……七七
(二四三) 北條時政ノ出自及姦計……七七
(二四四) 鎌倉武士風ノ一班……七七
(二四五) 大番ノ說明……七八
(二四六) 源實朝ノ事蹟……七八
(二四七) 和田義盛擧兵ノ顚末……七八
(二四八) 源氏ノ興亡……七九
(二四九) 承久ノ變……七九
(二五〇) 兩六波羅府ノ職權……八〇
(二五一) 貞永式目編成ノ沿革……八〇
(二五二) 北條時賴及靑砥藤綱……八一
(二五三) 貞永式目ノ要點……八一
(二五四) 蒙古ノ興起及支那沿革……八一
(二五五) 文永蒙古ノ役……八二
(二五六) 弘安ノ役……八二
(二五七) 鎌倉時代ノ文學……八三
(二五八) 鎌倉時代佛敎ノ宗派……八三
(二五九) 鎌倉時代ノ風俗……八四
(二六〇) 犬追物、笠懸、流鏑馬ノ說明八四
(二六一) 鎌倉時代ノ工藝……八四
(二六二) 鎌倉ノ七座……八五
(二六三) 五攝家……八五

(二六四) 兩統迭立ノ次第……八五
(二六五) 元弘大亂ノ胚胎……八六
(二六六) 後醍醐天皇北條氏討伐ノ顚末……八六
(二六七) 北條氏ノ滅亡……八六
(二六八) 建武中興ノ政……八七
(二六九) 建武中興ノ功臣……八七
(二七〇) 三房及後三房ノ事歷……八七
(二七一) 中先代ノ亂……八八
(二七二) 足利尊氏謀叛ノ顚末……八八
(二七三) 延元元年ノ大事件……八八
(二七四) 新田一族ノ勳功……八九
(二七五) 建武式目ノ著者及要點……八九
(二七六) 後醍醐天皇ノ御遺志……九〇
(二七七) 後醍醐天皇ノ諸皇子ノ事歷九〇
(二七八) 南北朝ノ頃諸國ノ分爭……九一
(二七九) 北畠親房……九一
(二八〇) 四條畷資……九一
(二八一) 楠正行……九一
(二八二) 五條賴元……九二
(二八三) 筑後河ノ戰……九二
(二八四) 南北朝文學者ノ事歷……九二
(二八五) 御帝號中後深草、後小松、後桓原、後水尾、後西院ノ五帝ハ何レモ前御號ナキニ後宇ヲ冠ス其說明……九三
(二八六) 南北朝ノ統一……九三
(二八七) 南北朝合一時代ト支那及西洋トノ時代比較……九四
(二八八) 統一後諸國ノ形勢……九四
(二八九) 南朝遺臣ノ事歷……九四
(二九〇) 足利義滿ノ專橫……九五
(二九一) 金閣……九五
(二九二) 義滿ノ外交……九五
(二九三) 永樂錢ノ來歷……九五
(二九四) 南蠻船ノ由來……九六
(二九五) 義滿時代ノ朝鮮……九六
(二九六) 義滿時代ノ支那……九六
(二九七) 義滿ノ敬神崇佛……九六
(二九八) 京都ノ五山……九六
(二九九) 室町幕府ノ組織……九七
(三〇〇) 足利時代ノ諸稅目……九七
(三〇一) 細川賴之ト今川貞世……九七
(三〇二) 應永家古ノ變……九七
(三〇三) 關東管領ノ權勢……九七
(三〇四) 兩上杉氏……九八
(三〇五) 上杉禪秀ノ亂……九八
(三〇六) 上杉憲實……九八
(三〇七) 春王安王ノ變……九九
(三〇八) 嘉吉ノ變……九九
(三〇九) 足利義政ノ奢侈……一〇〇
(三一〇) 足利時代ノ德政……一〇〇
(三一一) 東山時代ノ美術工藝……一〇〇
(三一二) 兆殿司ノ略歷……一〇〇
(三一三) 如拙、周文、雪舟ノ略歷……一〇〇
(三一四) 狩野古法眼元信……一〇一
(三一五) 土佐繪ノ沿革……一〇一
(三一六) 東山時代ノ文學者……一〇一
(三一七) 謠曲及淨瑠璃……一〇二
(三一八) 茶道及插花……一〇二
(三一九) 足利時代ノ風俗……一〇二
(三二〇) 椀飯振舞ノ禮……一〇二
(三二一) 應仁亂ノ源因……一〇三
(三二二) 應仁亂東西兩軍ノ勢力比較……一〇三
(三二三) 應仁亂ノ結果……一〇四
(三二四) 下剋上……一〇四
(三二五) 持氏亡後ノ關東……一〇四

(三二六) 關東ノ八將……一〇五
(三二七) 太田道灌……一〇五
(三二八) 足利ノ末ニ起レル宗教一揆……一〇五
(三二九) 後栢原朝ニ於ケル東國ノ大勢……一〇六
(三三〇) 畿內西國ノ大勢……一〇六
(三三一) 皇室ノ式微……一〇六
(三三二) 當時朝廷ノ財源……一〇七
(三三三) 朝鮮ノ貿易ト大內氏及宗氏トノ關係……一〇七
(三三四) 大內大友諸氏ノ外敎崇信……一〇七
(三三五) ジエシユイット宗傳來……一〇七
(三三六) 鐵砲ノ傳來……一〇八
(三三七) 足利時代ノ西洋ノ大事件……一〇八
(三三八) 倭寇ノ沿革……一〇八
(三三九) 明代倭寇ノ盛ナリシ有樣……一〇九
(三四〇) 足利十五代ノ列擧……一〇九
(三四一) 群雄割據ノ次第……一〇九
(三四二) 松永久秀將軍弑逆ノ顚末……一一〇
(三四三) 元龜天正二十餘年間ノ重要ナル事件……一一〇
(三四四) 織田氏ノ系圖……一一〇
(三四五) 織田信長ノ勳功……一一一
(三四六) 桶峽間ノ戰……一一一
(三四七) 河中島ノ戰……一一一
(三四八) 姉川ノ戰……一一二
(三四九) 三形ヶ原ノ戰……一一二
(三五〇) 信長叡山ヲ焚ク……一一三
(三五一) 足利氏亡ブ……一一三
(三五二) 安土城ノ天主閣……一一三
(三五三) 信長ノ中國經營……一一四
(三五四) 本能寺ノ變……一一四
(三五五) 山崎ノ合戰……一一四
(三五六) 賤ヶ岳ノ戰……一一五
(三五七) 清巢會議……一一五
(三五八) 大德寺葬儀……一一五
(三五九) 小牧ノ役長湫ノ戰……一一五
(三六〇) 豐臣秀吉四國九州ノ經略……一一六
(三六一) 秀吉ノ政略……一一六
(三六二) 秀吉ノ出自……一一六
(三六三) 聚樂ノ誓……一一七
(三六四) 秀吉ノ關東奧羽經略……一一七
(三六五) 蠣崎氏蝦夷征服……一一七
(三六六) 文祿ノ檢地及天正ノ石直シ……一一七
(三六七) 長束正家……一一八
(三六八) 五奉行及其職掌……一一八
(三六九) 五大老三中老……一一八
(三七〇) 天正金……一一八
(三七一) 毛利勘兵衛……一一九
(三七二) 朝鮮征伐ノ顚末……一一九
(三七三) 碧蹄館ノ戰……一一九
(三七四) 朝鮮再討ノ顚末……一二〇
(三七五) 關ヶ原大戰……一二〇
(三七六) 江戶開府……一二一
(三七七) 鐘銘事件……一二一
(三七八) 片桐且元……一二一
(三七九) 金地院崇傳……一二二
(三八〇) 大坂ヲ亡ボス策略……一二二
(三八一) 大坂陣……一二二
(三八二) 三家ノ說明……一二三
(三八三) 譜代ノ說明……一二三
(三八四) 外樣ノ說明……一二三
(三八五) 家門ノ說明……一二三
(三八六) 諸大名ノ配置……一二三
(三八七) 幕府ノ諸侯ヲ駕御セシ政略……一二四

(三八八) 公家法度……一二四
(三八九) 四親王家……一二四
(三九〇) 武家法度……一二五
(三九一) 參覲交代及江戸諸侯ノ證人……一二五
(三九二) 旗下及交代寄合……一二五
(三九三) 德川幕府ノ職制……一二六
(三九四) 三奉行ノ職權……一二六
(三九五) 江戸評定所ノ組織……一二六
(三九六) 所司代ノ職權……一二七
(三九七) 諸大名ノ席次……一二七
(三九八) 幕府ノ顯職ニ補セラルベキ家柄……一二七
(三九九) 幕府ノ土地人口統轄ノ大要……一二七
(四〇〇) 慶長金銀……一二八
(四〇一) 家康ノ外交……一二八
(四〇二) 歐洲人ノ東洋政略ノ一班……一二八
(四〇三) 御朱印船……一二九
(四〇四) 慶長年間通商貿易セシ諸國……一二九
(四〇五) 蘭人やんやうす……一二九
(四〇六) 山田長政……一二九
(四〇七) 濱田彌兵衛……一三〇
(四〇八) 切支丹宗ノ來歷……一三〇
(四〇九) 支倉常長……一三〇
(四一〇) 支倉ノ渡航セシ道筋……一三〇
(四一一) 文學勃興……一三一
(四一二) 藤原惺窩……一三一
(四一三) 林道春……一三一
(四一四) 僧天海……一三二
(四一五) 細川幽齋……一三二
(四一六) 武家ノ服裝……一三二
(四一七) 工藝及音樂……一三二
(四一八) 武藝ノ進歩……一三三
(四一九) 伊奈熊藏……一三三
(四二〇) 交通ノ狀況……一三三
(四二一) 角倉了以……一三三
(四二二) 德川家光ノ外交及切支丹宗門御停止及踏繪ノ法……一三三
(四二三) 天草一揆……一三四
(四二四) 寬永時代ノ佛教……一三四
(四二五) 鄭成功……一三五
(四二六) 寬永時代ノ支那……一三五
(四二七) 家光將軍ノ政績……一三五
(四二八) 寬永時代ノ美術工藝文學……一三五
(四二九) 家光ト足利義滿トノ比較……一三六
(四三〇) 由井正雪……一三六
(四三一) 後光明天皇ノ御叡明……一三七
(四三二) 河村安治(瑞賢)……一三六
(四三三) 德川家綱……一三七
(四三四) 水戸光圀……一三八
(四三五) 玉川清右衛門……一三八
(四三六) 綱吉將軍時代ノ天變地異……一三八
(四三七) 赤穗浪士ノ復讐……一三八
(四三八) 犬公方(殺生禁斷)……一三九
(四三九) 綱吉時代ノ文學……一三九
(四四〇) 綱吉時代ノ文學者……一三九
(四四一) 常憲院時代物……一四〇
(四四二) 元祿金……一四〇
(四四三) 元祿時代ノ風俗……一四〇
(四四四) 男立テノ由來……一四一
(四四五) 新井白石……一四一
(四四六) 吉宗ノ中興……一四二
(四四七) 吉宗將軍足高ノ制……一四二
(四四八) 天文學及地理學ノ發達……一四二
(四四九) 大岡忠相……一四二
(四五〇) 德川時代ノ刑法……一四三

(四五一) 租稅ノ制……一四三
(四五二) 傳馬、助鄕、加助鄕、……一四三
(四五三) 御三卿……一四四
(四五四) 德川時代社會ノ階級……一四四
(四五五) 五節句及服制……一四四
(四五六) 大名ノ供廻リ……一四五
(四五七) 遊藝ノ狀況……一四五
(四五八) 田沼意次……一四五
(四五九) 勤王論ノ始……一四五
(四六〇) 堀勝名……一四六
(四六一) 塙保己一……一四六
(四六二) 松平定信……一四六
(四六三) 近藤守重……一四七
(四六四) 定信ノ海防策……一四七
(四六五) 佐藤信淵……一四七
(四六六) 高田屋嘉兵衛……一四八
(四六七) 伊能忠敬……一四八
(四六八) 國學ノ四大人……一四八
(四六九) 寬政異學ノ禁……一四九
(四七〇) 寬政ノ三奇士……一四九
(四七一) 蘭學ノ沿革……一四九
(四七二) 寬政ノ頃歐米諸國ノ形勢……一五〇
(四七三) 文化年中北地ノ變……一五〇
(四七四) 文化文政ノ極治……一五〇
(四七五) 文化文政頃ノ士風……一五〇
(四七六) 大塩平八郎……一五一
(四七七) 水野越前守ノ改革……一五一
(四七八) 天保弘化嘉永時代ノ西洋及東洋ノ形勢……一五二
(四七九) 外艦邊海ニ出沒ス……一五二
(四八〇) 德川齊昭……一五二
(四八一) 米艦渡來……一五二
(四八二) 假條約締結ノ次第……一五三
(四八三) 櫻田ノ變……一五三
(四八四) 尊王攘夷說……一五三
(四八五) 長州征伐……一五四
(四八六) 大政奉還……一五四

第六編　今代史之部
（明治元年ヨリ現今ニ至ル）

(四八七) 維新前後ノ歐米各國ノ狀況……一五四
(四八八) 王政維新……一五五
(四八九) 戊辰ノ役……一五五
(四九〇) 五箇條ノ御誓文……一五五
(四九一) 全國平定……一五六
(四九二) 軍制ノ沿革……一五六
(四九三) 郡縣ノ制……一五六
(四九四) 維新ノ元勳……一五七
(四九五) 征韓論……一五七
(四九六) 學制頒布……一五七
(四九七) 臺灣征伐……一五七
(四九八) 西南戰爭……一五七
(四九九) 憲法及皇室典範ノ發布……一五六
(五〇〇) 明治二十七八年ノ日清戰爭……一五九

目次終

新選問答

日本歴史五百題

第一編　總論之部

（一）　國民ト國土トノ關係

本邦ハ亞細亞洲ノ東端大平洋ノ西北隅ニ位セル大小無數ノ島嶼ヨリ成立シ其形天龍ノ雲際ニ飛騰セントスルモノヽ如ク山水明媚氣候適順且地味肥沃ニシテ百物充足シ沿海ハ屈曲ニ富ミテ良港多シ故ニ人文夙ニ發達シ現今ハ四千餘萬ノ多キニ及ベリ其人性ハ古來英武忠直ニシテ進取ノ氣象ニ富ミ品格高尚ニシテ最美徹底思想ニ長ス國土ノ優絶ナルコト此ノ如ク國民ノ特性亦此ノ如シトセバ帝國將來ノ發達ハ測知スベカラズ

（二）　地勢ト歴史トノ關係

地勢東北ヨリ西南ニ向ヒ一千數百里ニ延長スル大小無數ノ島嶼ヨリ成リ支那樺太ノ二大山系其骨骼ヲナスヲ以テ地形狹長平地ニ乏シク西南ニアル四國九州ノ二大島ハ海ヲ以テ本土ト分離シ東北ハ高嶺連脈ヲ以テ幾内中國ト分隔ス故ニ幾内ヲ本據トセル統治ハ勢ヒ西ト東トニ事ヲ生シ易ク上古ニ至ルモ猶西ニ大宰府東ニ鎮守府ヲ置キ僅カニ統一ヲ維持セシノ觀アリ確氷足柄箱根ノ連峰天險ハ東西ヲ疎隔シテ遂ニ坂東ハ覇府ノ本據トナル東西人情氣質風俗ノ異ナルハ又主トシテ地勢ノ險夷交通ノ近疎ニ關係ヲ有セザルハナシ

（三）建國ノ制體

我帝國ハ大和民族ナル一家族カ漸次ニ發達シテ國家ヲ組成シ其大宗家タル皇室ヲ以テ萬世無窮ノ大君ト仰キ奉ルモノナレバ臣民ト皇室トノ關係ハ猶支族ノ宗家ニ於ケルガ如ク啻ニ君臣ノ義ノミナラス又實ニ父子ノ親アリ素ヨリ萬邦ノ比スベキ所ニアラズ

（四）皇位御繼承ノ法

皇統ハ萬世一系ニシテ嫡流ノ皇太子之レヲ繼承シ給フヲ法トス但時アリテ皇太弟皇女若クハ諸王ヨリ直チニ大統ヲ繼承セラレシコトモアレド是レ素ヨリ非常ノ儀ニシテ祖宗ノ恒典ニハアラズ

（五）天皇ニハ姓氏ナキノ理由

皇統ハ天照太神ノ子孫相承ケ其庶族ハ各臣列ニアリテ天業ヲ補ク其支族播延スルニ及ヒテハ天皇其職事又ハ功業等ニ依リ氏ヲ命シ姓ヲ賜ヒ以テ尊卑ヲ序ス然レドモ大宗家タル皇室ハ素ヨリ無上ノ尊貴ナレバ他ト比類スルノ要ナシ是レ天皇ニハ姓氏ナキノ理由トス

（六）氏ト姓トノ別

氏トハ內ナリ同宗一家ノ義中臣齋部藤原源平ノ類是ナリ姓（カバネ）ハ株根ナリ家格ノ尊卑ヲ分ツノ義ナリ臣、連、朝臣、宿禰ノ類是ナリ儒者或ハ字義ノ爲メニ誤リテ混說セシモノアリ宜シク別ツベシ

（七）皇、神、蕃ノ三別

韓漢ノ族歸化スルニ及ヒ廣大ナル大和種族中始メテ少數ノ外國種ヲ混ジタリ紀元千四百年代天下ノ萬姓ヲ校シテ皇神蕃ノ三別トス皇別ハ天皇皇子ノ胤神別ハ天神地祇ノ裔蕃別ハ外國種トス現今四千餘万ノ臣民モ其出自ヲ別ツトキハ此ノ三別ニ外ナラス

（八）天神地祇ノ別

天神トハ天照太神ノ支族ニ出テ天孫瓊々杵尊ニ陪從シテ此土ニ降臨シ開國ノ偉業ヲ助ケシ功ニヨリ世々貴族ニ列セラレ國政ニ與ルモノヲ稱ス例ヘバ天兒屋根命（中臣祖）太玉命（齋部祖）ノ如シ地祇モ天照太神ノ庶族タルコトハ天神ト同一ナレドモ天孫ヨリハ早ク此土ニ遷來シ土蕃ヲ威服シ天孫ノ降臨アルヤ其嫡宗家タルノ故ヲ以テ國土ヲ返上シ命ニ服セシ神及其子孫ヲ稱ス例ヘバ大國主、饒速日、（物部祖）二神ノ如シ

（九）御代數及御世數

神武天皇ヨリ今上天皇マデ百二十二代六十八世ナリ一說ニ長慶天皇ヲ除キ百二十一代トシ繼體天皇ヲ應神六世ノ孫トシ凡ソ六十九世トスル說モアリ

（一〇）日本國號ノ起因

日本ハ夜麻登ト訓ス即大和ナリ上古ニハ大八洲國豐葦原千五百秋瑞穗國其他數號アリ神武大帝橿原ニ奠都シ給ヒシ以來歷代ノ皇帝多クハ茲ニ都シ繼立ノ時遷徙アリシモ概ネ大和ノ域內ヲ出テズ終ニ海內ヲ汎稱シテ夜麻登ト呼ブニ至レリ其字初メハ大倭ト書ス孝謙ノ朝大和ニ改ム日本ノ字ハ大化改新ノ時詔書ノ式ニ

朝廷大事ニハ大八洲天皇ト書シ蕃國使ニ宣スルニハ日本天皇ト書ストアルヲ初見トス後ニハ共ニ通用シ且之レヲ音讀シテ定號トナリシモノナリ

(一一) 古來政權ノ移動

我ガ國家ノ大權ハ天皇ニアルコト素ヨリ言ヲ待タス然ㇾ世運ノ盛衰ハ勢免ルベカラザル所皇家ノ尊嚴モ時ニ弛張ナキニアラズ政權ノ所在モ亦隨テ推移セザルヲ得ズ(一)神武ヨリ武烈ニ至ル廿五代凡千百六十六年間ハ列聖相承ケ御親政ノ時代タリ(二)繼體ヨリ皇極ニ至ル十代凡百三十八年間ハ大臣大連政ヲ專ラニシ時勢大ニ變ス(三)孝德ノ大化改新ヨリ仁明ニ至ル十九代凡二百六年間ハ又御親政ノ古ニ復シ皇威振張ノ時代トス(四)文德ヨリ後冷泉ニ至ル十六代凡二百十八年間ハ藤原氏外戚ヲ以テ世々攝關ノ職ニ居リ皇權大ニ弛ブ(五)後三條白河ノ二帝十八年間ハ相門手ヲ收メ又御親政ノ光輝ヲ仰ク(六)白河讓位ノ後院宣ヲ以テ天下ニ號令シ天子ハ垂拱シ攝關員ニ備ハルノミ是ヨリ安德マテ九代凡九十七年間ハ院宣政治ニス(七)源賴朝覇府ヲ鎌倉ニ創ムルニ及ヒ漸ク封建ノ治ヲ馴致シ天下ノ形勢大ニ變ス源氏三世凡三十餘年ニシテ亡ビ北條氏之レニ代ハリ執權ヲ以テ幼主ヲ擁シ鎌倉ノ權勢依然タルモノ凡九十六年ナリ(八)後醍醐建武ノ中興僅カニ三年天下再ヒ亂レ南朝四代北朝五代凡七十餘年間ハ南北分立ノ時代ト稱ス(九)後小松ノ朝南北合一ヨリ後奈良ニ至ル六代凡百六十五年間ハ足利覇府戰亂ノ世トシ(十)正親町後陽成二帝五十四年間ハ織豐二氏ノ盛時トナス(十一)後水尾ヨリ孝明ニ至ル十四代凡二百五十餘年間ハ全ク德川覇府ノ專治タリ(十二)德川氏政權ヲ返上スルニ及ヒ大權全ク皇室ニ歸シ復古ノ光輝ヲ仰ク然ルニ明治廿三年以後ハ西洋諸國ノ例ヲ參シ君主專治ノ制ヲ改メテ立憲政治ノ制ヲ創開シ給フ

第二編 太古史ノ部(又神代ト稱ス)

(一三) 造化ノ三神

天地創開ノ初メニ天御中主神(アメノミナカヌシ)高皇產靈神(タカミムスビ)神皇產靈神(カムミムスビ)ノ三神アリ是レヲ造化ノ三神ト稱ス

(一三) 神世七代

日本書記ニ依レハ國常立尊(クニトコタチ)國狹槌尊(クニサツチ)豐斟渟尊(トヨクンヌ)ヲ特生ノ神ト稱シ泥土煑尊(ウヒヂニ=スヒヂニ)大戸之道尊=大苫邊尊(オホトノヂ=オホトマベ)面足尊=惶根尊(オモタル=カシコネ)伊弉諾尊=伊弉冊尊(イザナギ、イザナミ)ノ八神ヲ耦生ノ神トシ合通シテ神世七代ト稱ス

(一四) 天瓊矛(アメノヌボコ)ノ說明

天トハ美稱ニシテ意義ナシ瓊ハ玉ノコトニテ瓊矛トハ玉ニテ飾リタル矛ヲ云フ

(一五) 八尋殿(ヤヒロドノ)ノ說明

八トハ彌ニシテ物ノ多キコトヲ稱スル八ノ數ト限レルニハアラズ尋ハ兩手ヲ伸ベタル長サヲ稱ス故ニ八尋殿トハ宏大ナル宮殿ノ義ナリ

(一六) 大八洲國ノ稱

太古我國ノ總稱ナリ大八洲トハ數多ノ島ノ義ニシテ八島ノ義ニハアラズ諸島ニハ各分治ノ神アリ其神名ニ依リテ淡路ヲ穗狹別（ホノサワケ）伊豫ヲ愛比賣（エヒメ）讃岐ヲ飯依比古（イヒヨリヒコ）阿波ヲ大宜都比賣（オホゲツヒメ）土佐ヲ建依別（タケヨリワケ）隱岐ヲ天之忍許呂別（アメノオシコロワケ）筑紫ヲ白日別（シラヒワケ）二豐ヲ豐日別（トヨヒワケ）二肥ヲ建日向日豐久士比泥別（タケヒムカヒトヨクシヒネワケ）熊襲ヲ建日別（タケヒワケ）二伊岐ヲ天比登都柱（アメノヒトツハシラ）對馬ヲ天之狹手依比賣（アメノサテヨリヒメ）ト稱シ其他左度島（佐土）及其他ノ小島アリ而メ本土ヲ天御虛豐秋津根別（アメノミソラトヨアキツネワケ）ト云ヒ其他數號アリ

（一七）大嘗會新嘗會ノ別

古昔ハ大嘗（オホナメ）ヲ亦新嘗（ニヒナメ）トモ云ヒ區別ナク共ニ新穀ヲ祖宗ニ供奉スルノ祭儀ナリシガ天武帝以後新嘗ハ毎年十一月ニ行ハレ大嘗ハ一代一度ノ大典トナレリ

（一八）天日嗣ノ起源

天孫瓊々杵尊降臨シ給ヒシトキ大國主命國土返上ノ敕旨ヲ奉ズルノ語ニ天孫ハ天ツ日嗣ナリ云々トアリ是レ皇位ヲ天ツ日嗣ト稱スルノ起源ナリ

（一九）天壤無窮ノ神詔

天孫ノ降臨シ給フトキ天祖敕シテ曰ハク豐葦原ノ中國ハ吾子孫ノ王タルベキ地ナリ汝皇孫就テキ治メヨ寶祚ノ盛ナルコト天壤ト窮リナカルベシト君臣ノ名分建國ノ基此ノ大詔ニ依リテ明カナリトゾ

（二〇）三種神器ノ由來

八咫鏡天叢雲劍八尺瓊曲玉ヲ云フ鏡ハ天盤窟ノ變ニ石凝姥命（イシコリトメ）ノ作曲玉ハ同時ニ玉祖命（タマノオヤ）ノ作ナリ劍ハ素盞嗚尊出雲ニテ八岐大蛇（ヤチマタオロチ）ヲ斬リシ時獲タルモノト傳ヘラル共ニ天祖以來傳國ノ神璽トシテ皇統ト無窮ナルモノナリ

（二一）大國主命

命ハ素盞嗚尊ノ子ニシテ又大巳貴神ト云フ父尊ノ御志ヲ繼キ少彦名命（高皇產靈神ノ裔）ト力ヲ合セテ荒地ヲ服定シ其威德ハ出雲ヲ中心トシテ山陰山陽北陸ニ及ブ又醫藥禁厭ノ法ヲ傳フ天孫降臨ノ際悉ク國土ヲ返上シテ退隱ス今ノ出雲大社ニ奉祀ス

（二二）經津主（フツヌシ）武甕槌（タケミカツチ）二神ノ功業

二神モト武勇アリ天照大神ノ敕ヲ奉シ大國主命ヲシテ國土ヲ返上セシメ且歸順ヲ賞シ不服ヲ討チ天下ヲ清平シテ太神ニ復命セリ下總ノ香取神社ハ經津主ヲ祀リ常陸ノ鹿島神社ハ武甕槌ヲ祀ル

（二三）神代開化ノ度

諸冊二神ノ頃ヨリ衣服家屋ハ更ナリ火食モ開ケ天照太神ノ御時ニハ金石ニテ作レル武器裝飾品アリ又種藝養蠶ノ術モ夙ニ開ケタリ釀酒製鹽ノ法ヨリ舟車宮殿

ノ構造モ大ニ發達シ吉凶飲食應對ノ諸禮ニ至ルマテ古史ニ散見スル所ヲ考フレバ意外ニ進歩セルモノヽ如シ

第二編　上古史ノ部（神武ヨリ皇極ニ至ル凡千三百餘年間ノ事歴）

（二四）神武御東遷ノ目的

天皇父祖ノ緒ヲ承ケテ久シク日向高千穗ニ在リ時ニ西國ハ皇化洽ネカリシモ東方ニハ諸蠻割據シテ攻伐止ム時ナシ天皇之レヲ憂ヒ諸臣ヲ集メ詔シテ曰ハク天祖此國ヲ天孫ニ授ケ給ヒシニ遼遠ノ地今尚王澤ニ霑ハズ東方ニ美地アリ國ノ中央ナリ祖業ヲ恢弘セン爲メニ先ツ其地ニ就キテ都セント宣ヒテ東途ニ上リ給フ時ニ紀元前七年ニシテ御齡四十五歳ナリキトゾ

（二五）東遷ノ御順路

日向高千穗ヲ發シ速吸門（豊後佐賀關）ニ到リ其地ノ酋長珍彦（ウヅヒコ）ヲ嚮導トシ宇佐（豊前）ヲ經テ岡田宮（筑前遠賀郡）ニ至リ是ヨリ東シテ安藝ノ多祁理宮（又埃宮）及吉備ノ高島ニ駐マルコト數年攝津ノ浪速ヲ經日下（クサカ）ノ蓼津（タデツ和泉ニアリ）ニ着ス時ニ大和ノ酋長ニ長髓彦ナルモノアリ天神ノ裔饒速日命ヲ奉シテ主トナシ皇軍ヲ孔舍衛坂（河内郡ニアリ）ニ邀撃ス皇軍利アラズ道ヲ轉シテ血沼海（大坂灣）ヨリ紀國熊野ノ險ヲ冒シテ大和ニ攻メ入リ給フ

（二六）金鵄ノ靈

神武帝ノ長髓彦ヲ討チ給ヒシトキ一日風雨晦冥ナリ忽チ金色ノ靈鵄アリ天皇ノ弓弭ニ止マリ光リヲ放ツ長髓彦ノ軍迷眩シテ戰フ能ハス竟ニ大勝ヲ得タリ今ノ金鵄勳章ハ此ノ祥瑞ニ基ツクト云フ

（二七）橿原奠都ノ次第

神武帝日向ヲ發シテヨリ凡七年ニシテ中州悉ク平定セシカバ都ヲ大和畝傍山ノ東南橿原ノ地ニ奠メ天位ニ即ク時ニ御年五十二歳ナリキトゾ明治五年此歳ヲ以テ紀元元年ト定メラル

（二八）本邦紀元ト支那及西曆トノ比較

本邦紀元元年ハ支那周ノ惠王十七年ニ當リ西曆ニテハ紀元前六百六十年ニシテ「スパルダ」「アゼンス」ノ兩國漸ク發達シ希臘史上ノ活動是ヨリ盛ナラントスルノ頃ナリ

（二九）八十梟帥（ヤソタケルモ）土蜘蛛（ツチグモ）戸畔（トベ）ノ說明

八十トハ衆多ノ義ニシテ梟帥ハ勇猛ノ意ナリ土蛛蜘トハ土隱（ツチゴモリ）ノ義ニシテ土中穴居ノ蠻族ナリ戸畔ハ處部ノ義ニシテ其地ノ長タル者ナリ何レモ普通名詞ニシテ一人ノ名ニハアラズ

（三〇）神武御制定ノ職制及地方制

天皇中洲平定ノ功ヲ論ジテ道臣命（大伴祖）ニハ宅地ヲ賜ヒ椎根津彦ヲ倭ノ國造

トシ弟猾ヲ猛田縣主ニ弟磯城ヲ磯城縣主トシ劒根ヲ葛城ノ國造トス又職制ヲ定メ天種子命(中臣祖)天富命(齋部祖)ニハ祭祀ヲ掌ラシメ大來目命(來目祖)ニハ大伴久米ノ二部ヲ率ヒテ武衛ノ將タラシメ可美直手命(物部祖)ニハ内ッ物部ヲ率ヒテ宿衛セシメ地方制及職制大ニ確定ス

(三二) 國造及縣主ノ意義及職掌

國トハ限リ(カギリ)ノ意ニシテ山河等ニテ區域ノ限リアルヲ云ヒ造(ミヤツコ)トハ御家之子ノ義ナリ故ニ國造トハ國ヲ宰ムル長ノ義ナリ其他解說二三アレドモ今ハ取ラズ二カタ)ナリ村ヲ古ク「アレ」ト云ヘリ在處ノ義ナリ今ハ音讀シテ在(ザイ)ト云フ故ニ縣主トハ在處即村ヲ宰ムル臣トノ義ナリ縣トハ方(アレ)ノ者共ニ世襲ノ地方官トス

(三三) 手研耳尊(タギシミミ)ノ奸謀

神武帝崩ジテ綏靖帝ハ喪中ニアリ時ニ手研耳ハ庶出ナレトモ年長シ且東征以來國事ニ經驗モアレバ自ラ權威アリ遂ニ皇位ノ望ミアリ嫡長子神八井耳尊皇弟神淳名川耳尊ト謀リ之ヲ誅ス皇弟元ヨリ武勇ニ富ム自ラ弓箭ヲ執テ手研耳ヲ射殺ス皇兄其武ニ服シ謙遜シテ皇弟ニ皇緒ヲ嗣カシム

(三四) 八朝無爲ノ治

綏靖ヨリ安寧懿德孝照孝安孝靈孝元開化ノ八帝凡四百八十年間ハ國家事ナシ一說ニハ記事缺ケテ傳ハラザルナリト

鏡劒模造ノ顚末

第十代崇神天皇ハ敬神ノ御心深カリシカバ神代以來殿内ニ奉祀セシ鏡劒ヲ大倭ノ笠縫邑ニ遷シ奉リ新ニ鏡劒ヲ模造シ曲玉ト共ニ正殿ニ安置シ給フ是ニ於テ神宮ト皇居ト全ク分離セリ

(三五) 四道將軍

崇神朝ノ十年(五七三)大彦命(孝元ノ皇子)ヲ北陸ニ武淳川別(大彦子)ヲ東海ニ丹波道主(開化ノ孫)ヲ丹波ニ吉備彦(皇靈ノ皇子)ヲ西海ニ分遣セラレ荒遠ノ地ヲ綏撫スヲ是レヲ四道將軍ト稱ス

(三六) 弓弭及手末ノ調

崇神朝ノ十二年(五七五)人民ヲ校シテ定メラレシ貢法ニシテ本邦租稅ノ史ニ見ユルノ始ナリ弓弭(ユハヅ)トハ男子ガ弓矢ニテ獲タル所ノ鹿角獸皮ノ類ヲ貢セシムルヲ云ヒ手末(タナスエ)トハ女子ガ手ニテ作ル所ノ布帛ノ類ヲ貢セシムルヲ云フ

(三七) 任那國名ノ起源

崇神朝ノ六十五年(六二八)大伽羅國ノ王子蘇那曷叱智(ソナカシチ)來貢ス次ノ御世垂仁朝ノ二年ニ歸國センコトヲ請フ詔シテ曰ハク汝ノ來ルコト先朝ニアリ先帝ノ御名ハ御間城入彦(ミマキイリヒコ)ナレバ其ノ遺志ヲ追ヒ汝ノ國ヲ任那(ミマナ)ト名ツクベシト是任那國號ノ起リナリ

(三八) 彦國葺命

命ハ孝昭ノ裔ニシテ和珥(ワニ)氏ノ祖ナリ崇神ノ庶兄武埴安彦(タケハニヤス

ヒコ）ノ反ニ大彦命ト協力シテ之レヲ討平シ大勳アリ

（三九）豐城入彦及八綱田

豐城入彦ハ崇神ノ皇子ナリ出デヽ東國ヲ治メ給ヒ其子八綱田ハ垂仁ノ朝狹穗彦ノ亂ヲ平ゲテ大功ヲ建ツ其子孫世々上ツ毛野君及下ツ毛野君（上野下野）トナリ治績多シ

（四〇）伊勢神宮ノ起リ

垂仁朝ノ二十五年（六五六）皇女倭姫ヲシテ太和笠縫ノ神器ヲ伊勢ノ宇治ニ遷シ天照太神ト合祀ス內宮是ナリ出デヽ後雄略ノ朝天孫ヲ祀レル豐受太神ヲ山田ニ祀ル外宮是ナリ合セテ伊勢大廟ト稱ス

（四一）熊襲種族

熊襲トハ古代九州ノ一部薩摩大隅日向邊ニ割據セシ蠻族ニシテ神代ノ頃建日別ノ稱アリ人ト爲リ勇悍武ヲ好ミ多ク穴居ス酋長頗ル多シ是レヲ熊襲ノ八十梟帥ト稱ス景行仲哀ノ朝屢々反亂ス神功ノ征服後再ヒ叛セズ

（四二）熊襲討平ノ顚末

紀元七百四十二年景行帝熊襲ヲ親征シ奇計ヲ以テ其巨魁ヲ誅シ事平ラギ京師ニ還ル幾モナク熊襲復反ス御子小碓命ヲ遣ハシテ之レヲ討ス命時ニ年十六直チニ西行シ女裝シテ賊巢ニ入リ其巨魁ヲ刺ス賊魁死ニ臨ミ皇子ノ絕勇ヲ感シ日本武ノ尊號ヲ奉ル

（四三）野見宿禰

宿禰ハ天穗日命十四世ノ孫ニシテ世々出雲ニ居ル垂仁ノ朝土偶ヲ以テ殉死ニ代ヘント請ヒ嘉納セラレ土師氏（ハニシ）ヲ賜ハル又敕ニ依リ當時暴力ヲ以テ有名ナル當麻蹴速（タギマノケハヤ）ト角力シテ是レヲ斃シ相樸ノ技術茲ニ始マルトモ傳ヘラル菅原道眞ハ實ニ宿禰ノ裔ナリ

（四四）日本武尊東征ノ顚末

景行ノ朝東夷叛ス皇子日本武ヲシテ是レヲ征セシム尊先ツ神宮ニ詣テ神劍ヲ佩キテ駿河ニ入リ土賊ヲ討チ相模ヨリ上總ニ渡リ更ニ海路ヨリ陸奥ニ進ミテ悉ク蝦夷ヲ討平シ歸路坂東ヲ巡視シテ信濃ニ入リ別ニ吉備武彦ヲ越國ニ遣ハシ美濃ニテ武彦ト會シ尾張ニ駐マリ膽吹山ノ賊ヲ征セントテ病ヲ得伊勢ノ能褒野ニ到リ薨シ給フ

（四五）草薙劍ノ由來

日本武尊東征ノ途駿河ニ到ル土賊僞リ降リ荒野ニ誘ヒ火ヲ放ツ尊劍ヲ抜キ草ヲ薙キ却テ向火ヲ放チ賊ヲ燒殺ス是ヨリ叢雲ヲ草薙ト改ム後熱田ニ祀ル熱田神宮是ナリ

（四六）向火ノ說明

我レ草莽中ニ在ルトキ敵火ヲ付ケテ燒討ニセバ燃ヘ來ル方ノ草ヲ切リ拂ヒテ火先ヲ留メサテ我ガ後方ヘ火ヲ付クルトキハ燃エ去ルニ從ヒテ一條ノ活路ヲ得ルノミナラズ後方ヘ廻リタル敵兵ハ此方ヨリ付ケタル火ニテ却テ燒殺シ得ベシ

(四七) **坂東ヲ吾嬬(アヅマ)ト稱スル所以**

日本武尊東征ノ途相摸ヨリ上總ニ渡ルトキ海上暴風ニ遇フ妃橘姫海ニ投ズ尊蝦夷ヲ平定シテ還路碓氷峠ニ登リ東望妃ヲ追慕シ「アガツマハヤ」ト嘆キ給フ是ヨリ坂東ヲ吾嬬ト稱ス

(四八) **御諸別王**

王ハ豐城入彦命ノ曾孫ニシテ八綱田ノ子彦狹島王ノ子ナリ景行ノ朝東山道十五國ノ都督ニ拜セラル日本武尊征服ノ後ヲ受ケテ治績アリ其子孫多ク東國ニ顯ハル

(四九) **子代ノ民及御名代ノ民**

天皇皇子后妃等ニ御子ナキカ又ハ功業等ノ名ヲ命シタルヲ御名代又ハ子代ノ民トヲ置キ是レニ其天皇若クハ皇子皇妃等ノ名代ノ民ト稱ス例ヘハ日本武ノ功ヲ紀センガ爲メニ武部(タケルベ)ヲ定メラレ清寧帝皇子ナカリシカバ天皇ノ御名ニ基ツキ白髪部ト稱スル御名代ノ民ヲ置カレタルガ如シ

(五〇) **成務帝國縣制定ノ次第**

歷朝ガ皇祖ノ御遺訓ニ遵ヒ民政ニ御心ヲ盡シ給ヒシヨリ成務ノ朝ニハ皇化ノ及ブ所大ニ廣マリケレバ山河ノ形狀ニ依リテ大小國ノ國造ヲ定メ大小縣ノ縣主及稻置(イナギ)村主(スクリ)ヲ置キ盾矛ヲ賜ヒテ表トス神武以來ノ皇謨此ニ至リテ大ニ定ル

(五一) **神武紀元ヨリ凡一千餘年間ニ國造增置ノ次第**

神武ノ朝ニ始メテ九國ヲ置キ開化ノ朝ニ一國ヲ增シ崇神ノ朝十一國ヲ加ヘ景行ノ朝又七國ヲ增シ成務ノ朝ニ至リ六十三國トナリ北ハ信夫安積佐渡能登等ノ諸國ヨリ西ハ肥前ノ松浦天草等ニ及ヒ東ハ常陸ヨリ南ハ紀伊土佐ニ至ルマデ皆國造ノ治ニアラザルハナシ仲哀應神ノ兩朝ニハ更ニ二十三國ヲ定メ仁德以後ハ一國又ハ數國ヲ定メラレ第二十六代繼體ノ朝即一千百七十年代頃ニハ全國凡百四十四國ノ多キニ及ベリ以テ皇化普及ノ次第ヲ察スベシ

(五二) **君、別、直、稻置、村主ノ解**

何レモ上古ノ姓ナリ君トハ國造縣主ノ治下ニアリテ一地方ノ君タルモノヲ曰ヒ神裔皇族ノ出ナリ別モ同シク皇族ヨリ出テ、四方ニ別ケ遣ハサレ其地方ヲ治ムルモノナリ直(アタヘ)ハ當任ノ義ニシテ稻置ハ稻君ノ意ニテ稻穀收稅官ナリ村主ハ村長ノ類ナリ

(五三) **上古國造ノ裔現存セル者**

千家氏ハ出雲國造ノ裔紀氏ハ紀伊國造ノ裔千秋氏ハ尾張國造ノ裔阿蘇氏ハ阿蘇國造ノ裔ニシテ維新後何レモ男爵ニ列セラレタリ

(五四) **大臣大連ノ始**

日本紀垂仁紀廿六年ニ物部十千根大連トアリ是大連ノ始ナリ又同書成務紀三年武內宿禰ヲ以テ大臣ト爲ストアリ是大臣ノ始ナリ

(五五) **大臣大連相並ヒテ朝ニ立ツノ始**

大臣大連ノ相並ヒテ朝ニ立ツコト後ノ左右大臣ノ如クナリシハ書紀ニ雄略ノ朝平群眞鳥ヲ以テ大臣ト爲シ大伴連室屋物部連目ヲ以テ大連ト爲ストアルニ始マル雄略以前ニハ大臣アレハ大連ナカリキ

（五六）**上古海外トノ交通**

本邦ノ韓國ト交通セシコトハ遙ニ神代ニアリ素盞嗚尊ハ出雲ヨリ韓ニ渡リ神武ノ庶兄稻飯命ハ新羅王ノ祖トナリ又韓人日槍ノ歸化ハ神代ナリト云フ降テ崇神ノ朝大伽羅國ノ入朝アリ又支那トノ交通モ夙ニ行ハレ西國ノ土豪中ニハ私カニ往來セシモノ多シ天明中堀出セシ金印ハ當時支那ト交通セシ明證タリ

（五七）**委奴國王ノ金印**

此ノ印ハ天明四年二月廿三日筑前國那珂郡志賀島ノ土中ナル巨石ノ下ヨリ堀出セリ篆字ニテ漢委奴國王ノ五字ヲ刻セリ曲尺ニテ方八分弱厚二分五厘アリ後漢書東夷傳ニ中元二年委奴國奉貢ス光武賜フニ印綬ヲ以テストアルニ符合ス即西國ノ土豪中ニハ私カニ漢ト交通セシモノアル明證タリ中元二年ハ本朝垂仁ノ八十六年ニ當レリ

（五八）**三韓ノ說明**

今ノ朝鮮ノ地方ナリ支那前漢ノ時ニハ馬韓辰韓弁韓ヲ以テ三韓ト呼ヘリ馬韓ハ西方ニ位シ三韓中最大ナリ辰韓ハ其東ニアリ弁韓ハ辰韓ノ南ニアリ其後新羅百濟高勾麗任那等割據スルニ及ヒテモ尙三韓ノ故號ヲ用ヰシナリ

（五九）**神功征韓ノ源因**

當時熊襲ノ徒ハ私カニ三韓ト交通シ其後援ヲ賴ミテ反覆常ナシ皇后是レヲ悟リ給ヒ根本ヲ絕チ枝葉ヲ枯ラスノ御勇斷ニテ此擧アリシトゾ

（六〇）**三韓征服ノ結果**

永ク熊襲及地方豪族ノ禍根ヲ絕チ我ガ武威ヲ異域ニ輝カセシノミナラス是ヨリ彼我ノ交通俄カニ盛トナリ文學工藝醫術算曆織縫建築等ノ技ヲ傳ヘ我カ文化ヲ助長セシコト大ナリ然ルニ爾後反服常ナク三韓出征ノコト頻煩トナリ國力ヲ消耗セシコトモ亦少シトセズ

（六一）**麛坂（カゴサカ）忍熊（オシクマ）ノ亂**

神功三韓ヲ征服シテ還リ筑紫ニテ應神天皇ヲ產ム時ニ天皇ノ庶兄ニ麛坂忍熊アリ兵ヲ攝津ノ住吉ニ屯シ皇后母子ヲ要擊セントス既ニシテ麛坂ハ變死シ忍熊ハ武內宿禰ノ奇計ニ陷井リ瀨田ニ敗死シ亂平グ

（六二）**武內宿禰**

武內ハ孝元帝ノ裔ナリ忠勇謀略アリ景行、成務、仲哀、應神、仁德ノ諸朝ニ歷仕シ大政ヲ翼賛ス就中東北ノ巡察、三韓征服二皇子ノ反亂ニ大功ヲ立ツ在官二百四十四年ニシテ仁德ノ朝ニ薨ス年壽三百餘歲ト傳フ其子孫大ニ榮ヘ實ニ平群氏紀氏巨勢氏蘇我氏等ノ祖トス

（六三）**文學ノ傳來**

紀元九百四十五年應神朝ノ十五年ニ百濟ヨリ阿直岐、王仁、相次キテ來朝ス王仁論語十卷千字文一卷ヲ獻ス二人能ク經典ニ通セシカバ稚郎子皇子就キテ學ブ是

ヨリ各種ノ書籍モ舶來シ漢文學大ニ起ル

(六四) 吳音ト漢音トノ沿革

漢字渡來シテ始メテ字音アリ然トモ彼我ノ發聲全一ナル能ハス拗音ハ直音トナリ鼻音ハ口音ニ化シ竟ニ一種ノ音ヲナス是レヲ吳音ト稱ス千二百年代ニ至リ隋唐ト交際スルニ及ヒ支那ノ正音ナル漢音ニ從ヒ吳音ヲ廢セント企テラレシモ行ハレズ漢吳兩音並ヒ行ハレ各々又轉訛シテ遂ニ日本固有ノ言語ト共ニ通常ノ國語トナルニ至レリ

(六五) 阿直岐、王仁、弓月君、阿知使主ノ出自

阿直岐ハ百濟王ノ子王仁ハ漢ノ劉邦ノ裔弓月君ハ秦ノ始皇帝ノ裔阿知使主ハ後漢ノ劉宏ノ後ナリト云フ

(六六) 東西史部(ヤマトカワチノフミトベ)ノ解

史部(フミトベ)トハ猶文人部ト云フガ如シ王仁、阿知使主等ノ子孫繁延シテ大和河內ノ間ニ居リ世々文筆ヲ以テ皇室ニ仕フ王仁ノ裔ハ大和ニアリテ東ニ方リ阿知使主ノ裔ハ河內ニ在リテ西ニ方ル故ニ是レヲ東西ノ史部ト稱ス

(六七) 史官設置ノ始

漢籍傳來ヨリ百十餘年ヲ經テ履仲朝ノ四年(一〇六〇)始メテ史官ヲ諸國ニ置キ民ノ言事ヲ記シ四方ノ志ヲ達セシムトアリ以テ文學ノ大ニ普及セシヲ證スベシ

(六八) 仁德天皇ノ御聖德

御即位ノ始メニ御弟稚郎子ト皇位御遜讓ノコトアリ登位ノ後百姓ヲ愛撫シ給フコト子ノ如ク高臺炊烟ヲ望ミテ君ハ百姓ヲ以テ本トナス百姓ノ貧シキハ朕ノ貧シキナリ百姓ノ富メルハ朕ノ富メルナリト勅シ給フ又難波ノ堀江ヲ始メ諸國ノ池溝ヲ疏シ水利ヲ興サレシコト八百餘處ニ及ブ今ニ至ルマテ民其惠ヲ仰キテ聖帝ト號ス

(六九) 難波高津宮

紀元九百七十三年仁德帝ノ都セシ處ナリ當時攝津ノ難波ハ上國ノ要津ニシテ外舶ノ輻湊スル所ナリ地勢ノ便ナルコト倭ノ比ニアラズ故ニ筥都アリシナラン

(七〇) 世數ト代數トノ別ル、初例

履仲ノ皇弟瑞齒別ガ嘗テ仲ノ皇子ノ叛亂ヲ討定セシ勳功ニヨリ履仲其子ヲ捨テヽ天位ヲ皇弟ニ讓ル反正帝是ナリ皇位ノ兄弟相及ブコト此ニ始マリ世數ト代數トノ別生ズルニ至レリ

(七一) 探湯(クガタチ)ノ說明

探湯ハ又盟神探湯トモ書ス上古罪惡ヲ判定スルニ用キタル方法ナリ其法土石ノ類ヲ湯中ニ投シ是ヲ探ラシメ其傷スルモノハ奸僞ナリト定ム一說ニ先ツ罪惡明白ナル一人ヲシテ湯ヲ探ラシメ公衆ノ眼前ニ於テ其靡爛ノ狀ヲ示シ若シ惡ヲ隱スモノアラバ猶此人ノ如クナスベシトテ吟味ノ手段ニ供セシモノナリト

(七二) 允恭帝姓氏ノ紊亂ヲ正セシ所以

上古ノ社會組織法ハ所謂族制組織ニシテ各氏ノ嫡宗ハ其一族ヲ率井テ朝廷ニ仕

ヘ子孫世襲スル仕組ナレバ當時ノ血統上ニ於ケル秩序ノ混亂ハ社會組織ヲ破壞スルノ根源トナル故ニ國家ノ大患タリシナリ

(七三) 上古族制ノ組織

上古ハ内外ノ官共ニ各氏ニ一定シ居リテ是レヲ以テ職業トモ家號トモナシテ世襲シタリ所謂骨(カバチ又姓ト書ス)ノ制是ナリ例ヘバ中臣氏ハ世々祭官ニシテ神ト君トノ中間ヲ執リ持ツト云フ意ヨリ生ジタル家號ニシテ又官職ナリ其他主水氏ノ主水ニ於ケル膳氏ノ食膳ニ於ケル衣縫氏ノ裁縫ニ於ケル山守氏ノ山林ニ於ケル如ク苟モ一職業アレバ必ズ一部ヲ立ツ其數夥シキヲ以テ八十伴緒(ヤソノトモ)ヲ又百八十部(モヽヤソトモ)ト總稱ス其各部ノ長ハ即其一氏族中ノ宗家ニシテ是レニ附屬セル土地部民ヲ領有シテ世襲シ以テ朝廷ニ仕ヘタリ朝廷ニテハ各氏ノ家格ニ準シテ其族長ニ臣連首直史等ノ姓即爵位ヲ賜フ又地方ヲ治ムルニハ國造縣主アリ稻置村主之ニ屬ス其他君別等アリ何レモ世襲世官ノ制トス

(七四) 伴造(トモノミヤツコ)ノ說明

伴造トハ臣連首直史其他ノ姓ヲ賜ハリシ人々ノ總稱ニシテ猶長官ト云フニ同シ普通ニハ臣連伴造ト併書スレトモ其實臣連ト伴造トハ別號ニハアラズ唯臣連ハ貴種ナレバ特ニ別書セシマデニシテ伴造ノ一ナリ

(七五) 部曲及品部ノ民

品部ハ又部曲トモ云フ人民ニ種々ノ品類アルヲ以テ此ク稱セルナリ上古ハ族制ノ世ナレバ臣連伴造等ノ貴族ガ自己ノ所領トナシタル土地ニ住シタル各部民ニシテ其使用ニ供セシモノナリ

(七六) 雄略朝ニ藝進歩ノ狀況

天皇ハ即位後深ク民政ニ意ヲ傾ケラレシノミナラズ草香幡梭皇后親ラ桑ヲ採リ蠶業ヲ奬勵アリシカバ諸國ノ貢絹殿前ニ堆積スルノ盛況ヲ呈セリ又此朝ニハ百濟ヨリ陶工高貴畫工因斯羅我等來朝シ又旋盤ニテ造レル土器及車輿等ノ工藝モ始マレリ天皇亦吳國ヨリ織工ノ妙手ヲ招キ給フノコトアリサレバ衣服裁縫ヨリ布帛ノ織方繪畫飲食器ノ製作ニ至ルマテ内外長短相待テ大ニ進歩セシナラン

(七七) 三藏分立ノ次第

初メ朝廷ハ祭政一致ニシテ神物官物ノ別ナク神地神戸等ヨリ納メシ租調ノ類ハ悉ク齋藏ニ收メテ齋部氏世々之レヲ掌ル然ルニ履仲ノ時新ニ内藏ヲ建テ、官物ヲ分チ貯ヘ藏部ノ職ヲ置キ責獻物ヲ納ム雄略ノ御代ニ至リテハ諸國ノ貢獻益多キヲ加ヘタレバ更ニ大藏ヲ宮側ニ建テ、政府ノ財用ヲ收ムルノ所トナス是レ政府ノ經費ハ皆大藏ニ管シ皇室ノ度用ト全ク別ルルノ濫觴ナリ

(七八) 御讓位ノ初例

上古ニハ先帝崩後皇太子直ニ皇位ヲ繼承シ給フ法トス故ニ神武ヨリ武烈ニ至ル二十五代ノ間嘗テ讓位ノコトナシ然ルニ第二十六代繼體天皇位ヲ安閑天皇ニ讓リテ即日崩ゼラレシヨリ受禪讓位ノ端ヲ啓キ聖武佛法ヲ信ジ壯年位ヲ太子ニ讓ル等ノコトアリシヨリ後世ノ流例トナリ歷代讓位ノ儀アリシモノ凡テ五十八帝ノ多キニ及ベリ

（七九）大伴金村

大伴氏ハ道臣命ヨリ出デテ名族タリ金村ハ室屋ノ子ニシテ仁賢ノ朝大連トナル帝ノ崩ズルヤ大臣平群父子罪アリ金村之レヲ誅シ武烈帝ヲ擁立ス帝崩ジテ又嗣ナシ金村議シテ應神五世ノ孫ナル大々迹王（オホト）ヲ越前ヨリ迎立ス繼體帝是ナリ金村大政ニ參スルコト故ノ如シ時ニ百濟上表シテ任那ノ地ヲ求ム金村上奏シテ之ヲ許ス是ヨリ韓土大ニ亂レ日本府竟ニ廢スルニ至ル時人金村ノ失政ヲ責メテ止マズ金村慚憤シテ欽明ノ朝住吉ニ退隱ス大伴氏ノ勢力是ヨリ屈シ子孫復大連タルモノナシ

（八〇）任那日本府廢亡ノ次第

神功征服以來韓土ノ調貢絕ヘザリシモ其國海外ニアリ交通容易ナラス且叛服常ナク歷代撫馭ノ術ニ困ム繼體ノ朝百濟上奏シテ任那ノ四縣ヲ賜ハランコトヲ請フ金村ノ議ニ依リ之レヲ許ス任那之レヲ怨ミ新羅ニ黨ス已ニシテ二國亦隙アリ朝廷近江毛野ヲ遣ハシ和解ヲ謀ル成ラズ却テ紛難ヲ加フ欽明ノ朝新羅遂ニ任那ヲ滅ス垂仁朝以來ノ日本府是ニ至リテ廢亡ス時ニ紀元千二百十一年ナリ

（八一）物部麤鹿火（アラカビ）

麤鹿火ハ金村ト同時代ノ人ナリ大連トシテ功多シ仁賢、武烈、繼體、安閑、宣化ノ五朝ニ歷仕シ繼體ノ朝筑紫國造磐井ガ新羅ト結托シテ火豊二國ニ反スルヤ之レヲ討平セリ又百濟カ任那ノ地ヲ請ヒシトキ麤鹿火ハ病ト稱シテ其議ニ與ラズ故ニ時望ヲ得タリ大伴氏勢屈スルニ及ビ權威悉ク物部蘇我兩氏ニ歸スルニ至ル

（八二）佛教ノ發生地及其傳來ノ次第

紀元千二百十二年欽明朝ノ十三年百濟王佛像經論ヲ献シ盛ニ其功德ヲ贊シテ上表セリ是ヨリ先キ卅二年前繼體朝ノ十六年ニ南梁ノ人司馬達等佛像ヲ持チ來リシモ當時ハ韓神ト稱シテ信スルモノナカリキ佛教ハ印度ノ悉達カ創メシ教ニシテ今ヨリ太約二千數百年以前ニアリ支那ニ入リシハ御漢ノ明帝ノ世ナリ（本邦ニテハ垂仁ノ朝ニ當ル）其後三百餘年ヲ經テ支那ヨリ韓地ニ傳ハリ又百餘年ヲ經テ百濟ヨリ我邦ニ傳ヘシモノナリ

（八三）神佛兩教ノ撞着ヲ生セシ理由

抑我國ハ神教ヲ國是トス而ノ漢學ナルモノハ君臣ノ義父子ノ倫道ヲ說クコト我ガ神道ト異ルコトナシ故ニ其傳來スルヤ上下ノ歡迎スル所トナリ益々我固有ノ大義道德ヲ發揮セリ然ルニ佛教ナルモノハ君臣父子一切平等ノ旨ヲ守リ唯一身ノ清淨ト未來ノ福德冥加トヲ希望スルニアルガ故性質上大ニ我カ固有ノ神道ト背違セリ是レ兩教ノ撞着ヲ免レザリシ所以カ

（八四）物部蘇我兩氏確執ノ眞想

物部氏ハ神武ノ功臣可美眞手命ノ裔ニシテ大伴氏（道臣命ノ後）ト相並ヒテ大臣ト共ニ大政ヲ翼贊シ來リシ閥閱ノ名族タリ孝元開化二帝ノ后ヲ出シテ外戚ニ居リ垂仁仲哀ノ朝ニハ十千根、膽咋（ヒクヒ）父子大ニ顯ハレ伊莒弗ノ代ヨリ代々大連トナリ將相ノ重任ヲ荷フ蘇我氏ハ武內宿禰ノ子石川宿禰ヨリ出ツ其子滿智ハ履仲ノ朝大臣トナリ雄略ノ朝三藏ヲ撿校スルノ重職ヲ拜ス稻目ニ至リ宣化ノ

大臣タリ一族並ヒニ顯ハレ其女ノ貴妃ニ列セシモノ前後五人九帝ヲ生ムニ至ル大伴氏勢屈スルヤ政權兩家ニ歸シ茲ニ權力ノ競爭ヲ生シタリ而シテ佛敎ノ傳來ハ多年欝積セル反目ノ感情ヲ刺戟シテ益々確執ヲ生シ倒レザレバ止マズト云フニ至レリ

（八五）**佛敎弘布ノ迅速**

物部中臣兩氏ノ如キ排佛黨ノ亡ビシ後ハ蘇我氏大ニ榮ヘ加之聖德太子ノ熱心ナル崇信アリ上下風靡シテ佛法弘布速ナルコト其傳來後僅ニ七十餘年ヲ經テ寺院四十六ケ所僧八百十六人尼五百六十九人ヲ數フルニ至レリ從テ僧正僧都ノ如キ僧官モ設置セラルヽニ至レリ

（八六）**佛敎ノ文學工藝ニ及セシ影響**

佛敎ノ渡來ハ我カ文學工藝ニ一大進歩ヲ與ヘタリ聖德太子カ漢文ヲ以テ憲法ヲ草セシガ如キ其發達ヲ證スベク且當時渡來ノ僧侶モ多クハ文學技藝ニ長シタルヲ以テ其媒介ニ由リ開通ヲ促セシモノ少ナカラズ僧勸勒ハ曆天文等ノ書ヲ傳ヘ僧曇徵ハ紙墨及碾磑（水力ヲ使用スル器ニシテ水車水臼ノ類）ヲ作リ其他音樂彫刻鑄造製瓦佛畫權衡等モ相次テ傳ハレリ

（八七）**本邦女皇ノ始及女帝ノ御名**

女皇ハ第三十三代推古帝ニ始マル其後皇極＝齊明、持統、元明、元正、孝謙＝稱德、明正、後櫻町ノ諸帝トス

（八八）**聖德太子**

太子ハ用明帝ノ第二子ナリ推古ノ朝皇太子トナル弱冠ニシテ博學多才同時ニ八人ノ訟ヘヲ聽キシト傳ヘラル厚ク佛敎ヲ崇信セラレ四天王寺法隆寺等ノ大寺ヲ建立セシコト前後十一ケ所天下翕然トシテ敎法ノ盛ヲ來ス十七條ノ憲法ヲ制定セラレテ本邦成文律ノ嚆矢トナリ朝禮及冠位ヲ制定セラレテ朝儀大ニ整ヒ隋唐ノ交通ヲ開カレテ國家改新ノ素ヲナシ天皇記國記等ヲ撰定セラレテ國史ノ權輿トナル（蘇我氏滅亡ノ時ニ燒失ス）太子ノ勳功偉大ト謂フベシ唯惜ムベキハ馬子大逆ノ罪ヲ問ハザルニアリ攝政二十九年ニシテ薨ズ

（八九）**國際上支那ト交通ノ始**

紀元千二百六十七年大禮小野妹子ヲ大使トシ隋國ニ遣ハサル當時隋ハ煬帝ノ朝ナリ喜ヒテ之レヲ迎ヘ且我レニ報聘セリ是國際上公然支那ト交通ヲ開キシ初メトス爾後遣唐使留學生ノコト頻煩トナルニ至レリ

（九〇）**支那選代ノ大要**

蜀ノ劉備魏ノ曹操吳ノ孫權鼎立シテ三國トナル三國ノ中吳ハ江南ニ位シ最我レニ近シ然ルニ應神ノ朝晉朝ノ滅ス所トナル後百四十年ヲ經テ晉朝亡ビ南宋ノ劉氏王トナル雄略ノ朝工女ヲ吳ニ徵セシハ南宋孝武ノ朝ニアリ當時吳ハ已ニ亡ビタレトモ南宋ハ吳ノ舊地ナレバ我ヨリハ尙吳ト呼ビタリ其後彼國ニテハ齊梁陳等屢々遷代シ我ガ敏達帝ノ朝ニ隋國起ル然ルニ推古帝ノ朝ニ隋亡ヒ李氏之レニ代ハリ唐朝ヲ立ツ

（九一）**官曆頒布ノ始**

紀元千二百六十四年推古朝ノ十二年甲子始メテ曆日ヲ行ハル初三韓入貢以來其曆日ヲ採用シテ干支ヲ以テ年ヲ紀セシコトアレトモ天下ニ公布セシニハアラズ官曆ヲ天下ニ頒ツハ茲ニ始マル

(九二) 蘇我氏ノ滅亡

馬子崇峻帝ヲ弑シテ古今絕無ノ大逆ヲ行ヒ其子蝦夷其孫入鹿相次デ橫恣ヲ極ム當時令名時望アル山背大兄王ハ入鹿ノ弑スル所トナリ三代ノ積惡天人ノ共ニ宥サヾル所タリ時ニ英傑中臣鎌足アリ賢名高キ舒明帝ノ皇子中大兄ト謀リ三韓進調ノ日入鹿ヲ誅シ又其父蝦夷ヲ其邸ニ誅ス時ニ千三百五年ナリ

(九三) 中臣鎌足

鎌足ノ先ハ天兒屋根命ヨリ出ツ命ノ孫天種子命神武ニ仕ヘテ祭祀ノコトヲ掌リシヨリ子孫世々神官タリ鎌足ハ種子命廿一世ノ孫御食子(ミケコ)ノ子ナリ人トナリ忠亮ニシテ學ヲ好ミ大志アリ蘇我氏ヲ討滅シテ皇室ノ大患ヲ除キ大化改新ノ偉勳ヲ成就シテ天智ノ朝ニ薨ス大織冠ヲ授ケラレ姓藤原ヲ賜ハル其子定慧多武峯ニ改葬ス談山神社是ナリ

(九四) 大化ノ改新ヲ促スベキ内外ノ事情

神武大業創立ヨリ已ニ千三百餘年ノ久シキニ及ヒ族制世官ノ風ハ次第ニ弊害ヲ生シ臣連伴造ノ專橫益々甚シク皇威ハ日ニ衰頽セリ加之地方政務ハ國造縣主等ノ專治ニ歸シ土地人民ヲ私有シテ朝廷ヲ顧ミス國ノ制度事物ガ斯ク紊亂セルノ時ニ當リ新ニ隋唐トノ交通ヲ開キケレバ其文物典章ノ燦然タル益々我レヲ刺激シテ改新ヲ斷行スベキノ時機ヲ促カシ來リ内外ノ事情相待チテ以テ國家改造ノ氣運ヲ生ズルニ至レリ

(九五) 南淵請安

推古ノ朝大使妹子ニ從ヒ隋國ニ留學ス次テ唐代トナリ留學卅三年舒明ノ朝ニ歸朝ス最經書ニ通ス王公大夫ヲ初メ皆敬稱シテ先生ト稱ス大化ノ改新ハ先生ノ參畫スル處亦多シ天智帝潛龍ノ時中臣鎌足ト倶ニ就キテ學ビ蘇我討滅ノ策ヲ通學ノ途ニ決シ給ヒシコトアリ

(九六) 高向玄理(クロマサ)及僧旻

二人ハ請安ト共ニ支那ニ留學セシ人々ナリ玄理ハ請安ト共ニ歸朝シ孝德ノ朝博士ニ擧ゲラレ大化五年僧旻ト詔ヲ奉ジテ八省百官ヲ議定ス尋テ大錦上ニ敘セラル白雉五年遣唐押使トナリ唐ニ卒ス僧旻ハ舒明ノ朝唐使高表仁ト共ニ歸朝ス孝德ノ朝博士トナル此等ノ諸士ハ何レモ大化ノ改新ヲ助成セシ勳功大ナル人々トス

(九七) 本邦刹漢文ノ現存セル最古ノ者

和文ニテハ出雲國造神賀ノ詞漢文ニテハ伊豫道後温泉ノ碑文及大和法隆寺ニアル藥師及釋迦像ノ背銘ナリト云フ

(九八) 上古衣食住ノ一班

衣服ノ制ハ上ニ窄袖ヲ着シ下ニ褌ヲ穿ツ手ニハ手纏又ハ釧トテ玉又ハ鈴ニテ飾リタルヲ纏ヒ頸ニハ曲玉管玉等ヲ飾ル貴人ノ服料ハ綾絹ヲ用ヒ卑賤者ハ布ヲ用

フ布ニハ楮布麻布葛布等アリ飲食ハ甘酒アリ醇酒アリ米食ヲ常トスレトモ肉食モ亦盛ニ行ハレタリ貴人ノ住居ハ木造ノ殿舍ナレトモ賤民ハ穴居ヲ多シトス仁徳ノ朝已ニ高臺アリ又宮垣ヲ堊色スルノコト見ユ佛法傳來ノ後ハ凡テ衣食住ノ進歩ヲ促シ一新面目ヲ呈セリ

(九九) 上古婚姻及葬送ノ法

上吉ハ歌垣トテ妙齡ノ男女山野ニ相會シテ歌舞シ其間ニ配偶ヲ撰ヒ父母ノ許可ヲ待テ婚禮スルノ習慣ナリ而シテ男ヨリ女家ニ通フヲ常トシ一夫多妻ノ風アリ子產ルレバ婦家ニ養育ス故ニ兄弟姉妹相知ラザルモノ多シ母ヲ異ニスレハ相婚モ差支ナシ送葬ノ法ハ最重スル所ニシテ宏大ナル墓ヲ築ケリ柩ニハ石棺アリ又陶製ナルモアリ生前使用セシ寶貨帶劍ノ類ハ皆棺中ニ納ムルヲ法トス柩ヲ送ルトキハ赤靑等ノ旗ヲ飄ヘス貴人ノ死スルトキハ殉死スルコト流例ナリシガ垂仁ノ朝之レヲ禁シ紿ヒ土隅ヲ以テ之レニ代フルニ至レリ

(一〇〇) 山陵ノ古制

古代ハ丘ニ據リ御陵ヲ作ル開化ノ御世頃ヨリ其制次第ニ備ハル其制山ニ依リテ築キ前ヲ方ニ後ヲ圓クシテ三段ニ造リ圓キ方ヲ高クシ其下ニ石槨ヲ設ケ棺ヲ納ム用明ノ朝(一二〇〇)以後ハ此ノ例一變シ圓丘ノミトナル何レモ兆域方二三町アリ仁德御陵ノ如キハ方八町ナリト云フ

(一〇一) 上古ノ美術工藝

美術工藝ノ發達ハ佛敎傳來ノ後ヲ主トス雄略ノ朝(一一二三)百濟ヨリ書工因斯羅我來リ同時ニ韓人辰貴又繪ヲ能クシ武烈ノ朝首姓ヲ賜ハル子孫其業ヲ傳フ彫刻ノ有名ナルハ繼體ノ朝筑紫ノ磐井ガ其墓ニ飾リシ石人石盾ナリ歸化人司馬達其子多須奈ハ彫刻ニ名アリ止利(トリ)佛師ハ多須奈ノ子ニシテ實ニ法隆寺釋迦佛像ノ鑄造者ナリ陶器モ古代ヨリ甕(カメ)平迦(ヒラカ)手抉(タクジリ)等ノ制法傳ハリシモ精巧ニ進ミシハ韓漢ノ陶法ヲ傳ヘシ後ナリ

(一〇二) 上古頭髮ノ狀

幼時ハ男女共ニ垂髮ニシテ男子十五六歲ニ達スレバ髮ヲ額上ニ束ヌ之レヲ瓠花(ヒサゴバナ)トイフ成年ニ達スレバ髮ヲ左右ニ分チ鬢上ニ結フ之レヲ美豆良(ミヅラ)トイフ女子ハ成年ニ達スルモ垂髮ヲ法トス

(一〇三) 歌舞及樂器

歌舞ノコトハ太古ヨリ史ニ見ヘタリ天岩屋ノ變ニ天細女命(アメノウヅメ)ノ舞曲アリ素盞嗚命出雲八重垣ノ歌アリ神武帝軍氣ヲ振作センガ爲メ歌曲ニ合ハセテ舞ヒシメラレ粂舞ノ起リトナリ其他隼人舞倭舞等アリ樂器ニハ古ク和琴笛アリ凡テ韓漢ノ人多ク渡來スルニ及ヒ新タニ舞曲樂器ヲ傳ヘ舊來ノモノト併セ行ハレタリ

第四編　中古史ノ部

(大化改新ヨリ鎌倉幕府ノ創立マテ大約五百四十年間)

(一〇四) 年號ノ始

紀元千三百五年孝德天皇即位シ始メテ年號ヲ立テ、大化ト云フ是本邦年號制定ノ始ナリ然ルニ此後齊明天智持統ノ三朝ニハ年號有ル時モ無キ時モアリテ一定セザリシガ文武天皇ノ五年大寶ト號セラレシヨリ年號絶ユルコトナシ故ニ大寶ヲ以テ年號ノ始トスル說モアリ

(一〇五) 擬年號ノ事

古書ニハ往々大化以前ノ年號ヲ記セシモノアリ孝靈ノ朝ニ列滴ノ號アリ應神ノ朝ニ璽至ノ號アリ又大化以後ニテモ往々擬年號アリ以後歷代亦數十ノ年號アリ又大化以後ニテモ往々擬年號アリ何レモ天下ニ公布ナク正史ニ載セザルモノナレバ學者是レヲ異年號又ハ擬年號ト稱ス

(一〇六) 改元ノ事

御即位祥瑞災異等ノコトアレバ改元セラルヽヲ例トス又辛酉甲子ノ年ニハ必改元アリ之レヲ革令革命ト云フ其起リ〳〵漢土陰陽五行ノ說ニ出ツト云フ此ニ於テ歷朝改元ノコト頻繁ニシテ多キハ一代八號ヲ累ヌルニ至ル（後醍醐、後花園兩朝）明治元年ニ至リ一世一元ノ制ニ定メラル

(一〇七) 大化時代ト支那及西曆トノ比較

大化元年ハ神武紀元一千三百五年ニシテ第三十六代孝德帝ノ元年ナリ支那ニテハ唐朝太宗ノ貞觀十九年ニ當リ最盛ノ時タリ西洋ニテハ紀元六百四十五年ニシテ東羅馬帝國「コンスタンス」二世ノ朝ニ當ル

(一〇八) 大化改新ノ要項

第一ニ戶籍ヲ作リ田數ヲ校シ兵庫ヲ設ケ兵器ヲ收メ鐘匱ヲ設ケテ民ノ志ヲ上達セシメ次デ改新ノ四大事ヲ發布シ給フ(一)從來ノ部曲田莊ノ制ヲ改メ悉ク公地公民トセシコト(二)畿內京師郡驛ノ制ヲ定メラレシコト(三)班田收授ノ法ヲ定メシコト(四)租稅ノ制ヲ立テ租庸調ノ法ヲ定メラレシコト是ナリ

(一〇九) 部曲田莊ノ說明

部曲トハ從來臣連伴造等ノ貴族カ領有セシ土地人民ノコトニシテ即部民ナリ田莊トハ私領ノ土地ト云フニ同シ

(一一〇) 郡坊ノ制

日本書記ニ凡郡ハ四十里ヲ以テ大郡トナシ三十里以下ヲ中郡トナシ三里ヲ小郡トナストアリ郡ト稱スル行政區劃ハ大化改新ニ依テ始メテ出來タリ坊トハ今ノ町ノ如ク坊長ハ猶町長ノ如キモノナリ坊令ハ坊長ノ上役ニシテ猶市長ト云フガ如シ

(一一一) 驛傳ノ制

族制時代ニハ各地ニ領主アリ政令一ナラズ從テ交通ハ概ネ其領內ニテ事足リタレトモ此ノ改新ニ依リ全國皆中央京師ノ號令ニ基クコトナレバ交通擴張ノ必要アリ即官使ノ乘用トシテ諸驛ニ馬ヲ備ヘシメシナリ其制諸道ヲ大中小ノ三路ニ別チ三十里毎ニ一驛ヲ置キ各驛長驛子驛馬等ヲ設ク其費ハ驛田ヲ置キテ之レヲ辨ス又各郡ニ傳馬ヲ設ク驛馬ハ驛鈴トテ銅ニテ造リタル鈴ヲ預メ朝廷ヨリ官使ニ渡シ置キ之ヲ證トシテ徵發シ傳馬ハ傳符トテ傳馬ヲ徵スル爲メニ大政官ヨリ

下サレシ書付ヲ以テ證トス並ニ官等身分ニ應シテ徴發ニ差等アリ

(一三) 班田收授ノ法

人生レテ六歳ニ至レハ官ヨリ男ハ二段女ハ其三分二奴婢ハ良民ノ三分一ノ田地ヲ班チ賜ハル六年毎ニ戸籍ヲ調査シ其人死スレバ其田地ヲ官ニ收メ生レテ六歳ニ達スルモノアレバ之レニ田地ヲ授ク即口分田ナリ之ヲ班田收授ノ法ト云フ

(一三) 租庸調ノ制

租トハ地ニ就キテ徴スルモノニシテ田租ノコトナリ人生レテ六歳ニ達スレハ口分田ヲ給ハリ其田ノ獲稻毎年平均百束ノ中ヨリ四束四把ヲ官ニ納ム(後增減アリ)調トハ戸ニ就キテ徴スルモノナリ正丁一人毎ニ土產若クハ製品例ヘハ絹綿ノ類ヲ出サシムルヲ云フ又調ノ副物トテ魚菜ノ類ヲモ貢セシム何レモ定數アリ次丁ハ二人中男ハ四人ニテ正丁一人ノ貢額ニ同シ庸トハ身ニ就テ徴スルモノナリ正丁一人ニ毎年十日ツヽ夫役ヲ課ス之ヲ歳役トイフ若シ役ニ就クコト能ハザレバ布二丈六尺若クハ鄉產ノ物ヲ代納セシム次丁二人ニテ正丁一人ニ同シ但中男ト京畿内トハ庸ヲ免セラル此ノ三種ノ賦役ヲ租調庸ノ法ト稱ス

(附說)男子二十一歳ヨリ六十歳ニ至ルヲ正丁ト云ヒ六十一歳ヨリ六十五歳マデト殘疾トテ一眼ヲ失ヒ耳聾等凡テ廢人ノ甚シキニ至ラザルモノトヲ次丁ト云フ又中男トハ十七歳ヨリ二十歳マデノ男子ヲ云フ

(一四) 重祚ノ初例

第三十六代孝德天皇崩シ皇極天皇再ヒ天位ニ登ル齊明天皇是ナリ本朝重祚ノ初例トス後第四十六代孝謙天皇亦重祚シテ稱德天皇ト稱ス其後又重祚ノ儀ナシ而シテ兩帝共ニ女皇タリ

(一五) 蝦夷征服ト阿部比羅夫

東北地方ニ割據セシ蝦夷種族ハ日本武尊東征以來一時綏撫ニ歸セシガ其後背反常ナラズ仁德朝ノ頃ヨリ紛擾絶ヘズ孝德ノ朝ニ至リ越後ニ渟足磐船ノ二柵ヲ造リ之ニ備フ斯ク歷代ノ大患タリシガ齊明朝ノ四年(一一二八)越國司阿部比羅夫舟師ヲ率キ蝦夷ヲ征シ進ミテ渡島ニ至リ郡領ヲ後方羊蹄(今ノ後志國東南部シリベシ山地方)ニ置キ後援ヲ絶タンガ爲メニ遠ク海ヲ渡リテ肅愼(ミシハセ○今ノ遼東ノ地)ヲ征ス爾後夷地小康ヲ得タリ

(一六) 三韓擲棄ノ次第

欽明ノ朝任那新羅ニ滅サレ日本府廢セシ後ハ內地多事ニシテ之ヲ回復スルノ暇ナシ故ニ彼我ノ關係益々疎遠トナリ行キシニ支那ニテハ唐朝新タニ起リ其勢甚強大ナリケレハ新羅遂ニ唐ニ服シ其援兵ヲ借リ百濟ノ遺臣等恢復ヲ圖リ援兵ヲ我レニ請フ是ニ於テ天皇親征ニ決シ給ヒ太子ト共ニ筑前朝倉宮ニ幸ス偶々帝崩ス太子依テ援兵ヲ遣ハサレシモ利ナク百濟亡ク滅ブ時ニ紀元千三百二十三年ナリ高麗モ次デ新羅及唐兵ノ亡ボス所トナリ三韓ノ地之ヨリ我ガ有ニアラズ我亦得失相償ハザルヲ以テ爾後亦干涉セズ韓地服屬ヨリ是ニ至リテ四百六十餘年ナリ

(一七) 踐祚ト即位トノ別

天智帝ハ齊明帝七年ヲ以テ皇位ヲ繼承シ後稱制六年ニシテ即位ノ禮ヲ行フ已ニ踐祚ノ皇位ヲ繼承シ更ニ即位ノ禮ヲ行フニ此ニ始マル元來踐祚トイヒ即位トイフモ文字上ノ解釋ハ同一ナレ𪜈後光仁桓武以後ニ至リテハ踐祚ト即位ト時月ヲ隔ツルノ例トナリ式ヲモ別トナレリ即踐祚ノ儀ハ紫宸殿ニテ行ハレ即位ノ禮ハ太極殿ニテ行ハル一ハ神器傳承ノ儀ニシテ一ハ百司萬民ニ告ケラルヽ例ナリ

（一八）唐トノ修交始末

百濟ノ亡後ハ外寇ニ備フルガ爲メ西國ニ防人ヲ配置シ烽火ヲ置キ筑紫ニ大垣ヲ築キ水ヲ貯ヘテ水城ト云ヒ（其跡筑前御笠郡ニ現存ス）防備怠リナカリシガ遂ニ異變ナシ太子稱制ノ四年ニ至リ唐朝ヨリ沂州司馬劉德高等ヲ遣ハシテ來聘シ修好ヲ求ム朝廷之ヲ納レ報聘ス韓地事件茲ニ終局トナリ却テ唐ト親交ヲ修メ大ニ其文化ヲ輸入スルニ至レリ

（一九）愛國ヲ以テ褒賞ヲ得タルノ始

百濟滅亡ノ役ニ我ガ軍丁大伴博麻（ハカマ）及土師富抒（ホド）等虜セラル博麻等憤激ニ堪ヘズ唐狀ヲ本國ニ報セント欲スレ𪜈資ナシ是ニ於テ博麻慨然身ヲ賣リテ人奴トナリ其資ヲ以テ富抒等ニ與ヘ歸朝セシム後持統ノ朝博麻免セラレテ唐ヨリ歸ル天皇其忠誠ヲ賞ス其詔書ニ愛國ノ二字アリ我臣民受國ヲ以テ褒賞セラレタルノ始トス

（二〇）中興ノ英主及近江朝廷ノ御代

第卅八代天智帝ハ近江ノ志賀宮又大津宮ト稱シ此ノ御代ヲ近江朝廷ト稱ス天皇ハ大化ノ大改新ヲ成就シ給ヒシノミナラズ外征ノ不利ヲ察シ給ヒ之ヲ放擲シ專ラ意ヲ內治ニ用キラレ却テ唐ト和親シ益々其文化ヲ利用シ朝禮ヲ定メ學校ヲ興シ戶籍ヲ修正シ律令ヲ撰定セラレシ如キ其計畫シ給ヒシ所規摸宏大ナリ故ニ天皇ヲ以テ中興ノ英主ト稱ス

（二一）庚午年籍

天智帝ノ三年ハ庚午ノ歲ナリ此年ニ造リタル戶籍ナレバ庚午年籍ト稱ス凡戶籍ハ三十年間ヲ保存期トシテ後ハ無効ニ歸スルヲ常トス然ルニ此戶籍ハ古ノ國記ニ依リ作リタル大切ノモノナレバ永世保存セラルヽナリ

（二二）壬申亂及弘文ノ諡號

天智帝皇子大友ノ才學ヲ寵シ太政大臣ニ任シ庶政ヲ統ベシム然ルニ皇弟大海人ハ夙ニ儲宮ト定マレルヲ以テ其間平和ヲ缺ク所アリ天皇疾革カナルヤ後事ヲ大海人ニ託ス皇弟病ト稱シテ固辭シ僧トナリ吉野ニ入ル天皇乃大友ニ位ヲ傳フ左大臣蘇我赤兄等翼贊ス已ニシテ天智崩ス流言アリ大友兵ヲ擧ケテ大海人ヲ討ズト大海人遂ニ吉野ヲ出テヽ伊賀伊勢ヲ經テ美濃ニ入リ鈴鹿不破ノ二關ヲ塞キ地利ニ據リ兵ヲ集ム朝廷亦防禦ニ勉メラレシモ將士和セズ戰多ク利ナシ新主全力ヲ以テ瀨田ニ決戰セシガ又利アラズ終ニ長等（ナガラ）ノ山前ニ崩ス在位僅ニ八ケ月明治三年弘文ト諡シ奉ル此役紀元千三百卅二年壬申七月ナレバ世ニ壬申ノ亂ト稱ス

（二三）壬申亂源ト結果

其近因ハ弘文帝ト皇叔トノ爭位ニアルハ勿論ナレモ遠因ハ天智帝大化大改新ノ爲メニ累代ノ門閥家カ特權ヲ失ヒ不平ヲ懷ケルノ徒皇叔ニ促シテ流言ヲ放チ事ヲ起サシメシ事情アリ其證ニハ東軍ニ加盟セシ者ハ皆某君某連ト稱シ改新以前ニハ地方ニアリテ土地人民ヲ領有セシ人々ナリ結果ノ大ナルモノ二アリ第一門閥ノ權力ヲ失ハシメシコト即此ノ亂ニ依リ西軍ナル名族大臣ハ悉ク弘文帝ニ殉シテ亡ビ又東軍ニ屬セシ人々ハ從來門地高カラザルモ勳功ニ應シ新タニ貴爵ヲ賜ハリシモ多シ第二逆ニ得テ順ニ治ムトハ天武帝ノ謂ナリ天皇ハ武斷ヲ以テ下ヲ御シ果決ヲ以テ事ヲ處スル大化當時ノ如ク一詔一令ヲ發スルニモ綏撫ヲ旨トセラレシ如キニハアラズ故ニ大化新政ニ基ケル中央集權ノ實ヲ擧ケラルヽニ至レリ

（二四）巡察使ノ始

天武朝ノ十三年（一三四五）使ヲ東海東山山陽山陰南海筑紫ニ遣ハシテ國司郡司及百性ノ情狀ヲ巡察セシメラル是巡察使ノ始ナリ中史政府ノ令能ク行ハレタルヲ察スベシ

（二五）八等ノ姓

天武朝ノ十二年（一三四四）八等ノ姓ヲ作リ天下ノ族姓ヲ改易セラル眞人（皇胤）朝臣（モト臣姓ノモノ）宿禰（モト連姓ノモノ）忌寸（イミキ。歸化ノ藩族）道師（藥師書師ノ類）臣、連、稻置是ナリ

（二六）律令修撰ノ沿革

大化改新ノ政ヲ成就センニハ其制度ヲ示セル全國畫一ノ法典ナカラザルベカラズ故ニ天智ノ朝始テ律令ヲ撰定セラル近江朝廷ノ律令是ナリ天武ノ朝之ヲ修撰シ持統ノ朝諸司ニ班ツ天武ノ朝刑部親王（オサカベ）藤原不比等粟田眞人等ニ勅シテ更ニ之ヲ修定セラレ大寶元年（一三六〇）ニ成ル令十卷律六卷ナリ元正ノ朝不比等復勅ヲ奉シテ之ヲ刪修シ律令各十卷トス之ヲ養老律令ト云フ後世遵奉スル法典是ナリ但幾回ノ戰亂ニ律ハ大抵亡佚シテ十卷十二篇中僅カニ名例衛禁職制賊盜ノ四篇ヲ存スルノミ令ハ十卷三十篇中倉庫醫疾ノ二篇ヲ失ヒタルノミ餘ハ現存セリ

（二七）令義解

此書ハ淳和帝ノ天長中（一四八六）明法博士額田今足ノ建議ニヨリ右大臣清原夏野等ニ命シテ辨論折衷シテ撰定セラレシモノナリ年ヲ經ルニ從ヒ諸家ノ解說紛雜ヲ極メシヲ以テナリ

（二八）格式ノ修撰

律令修撰ノ後時勢ノ緩急得失ニヨリ事宜ヲ以テ時々勅裁シ用捨增減セラレシコト少ナカラズ之ヲ格ト云フ又令條ニ擧ゲザル細目ニ亘リテ官府ノ章程式制ヲ定メシモノヲ式トイフ格式ニ三種アリ嵯峨ノ朝ニ弘仁格式淸和ノ朝ニ貞觀格式醍醐ノ朝ニ延喜格式成ル之ヲ三代格式ト種ス格ハ類聚三代格三十二卷ノ內殘闕シテ僅ニ存シ式ハ延喜式ノミ全ク存セリ

（二九）律令格式ノ解

格式ノ解ハ前項ニ依リテ明ナリ律トハ已往ノ罪過ヲ懲ス爲メニ設クル法典ニシテ今ノ刑法ノ如シ令トハ將來敎令スル義ニシテ性質ハ異レドモ今ノ憲法民法ナドノ如シ猶弘仁格ノ序文ニ律ハ懲肅ヲ以テ宗トシ令ハ勸誡ヲ以テ本トシ格ハ時ヲ量リ制ヲ立テ式ハ關ヲ補ヒ遺ヲ拾フトアリ併セ考フベシ

（一三〇）大寶官制ノ要

我國俗ハ祭政一致ノ古典ニヨリ神祇官ヲ諸官ノ上ニ置カレタリ太政官ハ大政ヲ統ブル所ニシテ其下ニ中務式部治部民部兵部刑部大藏宮內ノ八省アリ其被管ニ五府ハ後ニ左右ノ近衛衛門兵衛ト改メラレ其他彈正臺アリ衛門左右衛士兵衛ノ內官又ハ京官ト稱ス外官即地方官ハ全國ヲ四畿七道五十八國ニ分チ京ニ左右京職難波ニ攝津職筑紫ニ太宰府アリ而シテ國ニハ國司郡ニハ郡司ヲ置ク

（一三一）則闕ノ官

太政大臣ハ無上ノ重職ナレバ若シ適任者ナキトキハ缺キテ空位トナス故ニ又則闕ノ官ト稱ス

（一三二）令外官及臨時官

大寶官制ニ錄セル官ハ皆常置官ナレドモ其後內大臣參議若クハ藏人所檢非違使ノ如ク令外ニ置カレシ官職モアリ是ヲ令外官ト稱ス又按察使遣唐使ノ如キヲ臨時官トイフ

（一三三）八省ノ職事

中務省ハ八省ノ首班ニシテ詔ヲ傳ヘ奏議ヲ取次ギ記錄並ニ國史編輯ノコトヲ司ル式部省ハ官人ノ考試任免ヲ司リテ學校ヲ總ブ治部省ハ貴族ノ事及僧尼並ニ外國聘使ノ事ヲ司ル民部省ハ土地人民ヲ管シ租稅賦役ノ事ヲ司ル兵部省ハ兵事及武官ニ關スルコトヲ掌ル刑部省ハ一般ノ刑事及監獄ノ事ヲ司トリ又民事爭訟ノコトヲ管ス大藏省ハ調物ノ收入及官省ノ用度ニ關スルコトヲ掌ル宮內省ハ宮中ノ用度及御料地ニ關スル事ヲ司ル

（一三四）彈正臺ノ職事

是レハ唐ノ御史臺ニ相當スル官ニシテ內外ノ非違ヲ彈奏シ風俗ヲ肅正スルコトヲ掌ル

（一三五）唐朝官制ト大寶制トノ比較

大寶制ハ唐制ニ模擬セラレタルハ勿論ナレトモ我國俗ニ適合セシメンガ爲メ大ニ斟酌セラレタレバ其間彼此趣ヲ異ニスレトモ職原抄所載等ヲ參考シテ比較スレハ神祇官ハ唐ノ大常寺ニ當リ大政官ハ尙書省ニ擬セラレシモノナリ但唐制ニテハ尙書中書門下ノ三省鼎立セシヲ我國ニテハ中書ノ事務ハ中務省ニ當テ門下ノ事務ハ大納言ニ任セテ別ニ官衙ヲ設ケス式部省ハ唐ノ吏部禮部ノ一部ツヽヲ兼ネ治部省ハ禮部ニ當リ兵部省ハ兵部ニ刑部省ハ刑部ニ當リ共ニ同名タリ大藏省ハ唐ノ九寺中ノ大府寺ニ當リ宮內省ハ唐ノ工部ニ相當ス

四部官ノ說明

大寶ノ制二官八省一臺諸職ノ各官衙ヲ通シテ長官次官判官主典（又佐官ト書ス）ノ四等ノ官階ヲ立ツ之ヲ四部官ト稱ス四部官ノ名稱ハ官衙各異ナレリ今二三ノ例ヲ示セバ神祇官ニテハ伯（長官）大小副（次官）大小祐（判官）大小史（主典）トシ大政官ニテハ大政大臣左右大臣（長官）大納言（次官）少納言左右辨官（判官）大小外記（主典）トシ八省ニテハ卿（長官）大小輔（次官）大小丞（判官）大小錄（主典）等ノ如シ

（一三七）叙任ノ制

叙任ノ法ニ二アリ（一）蔭位（オン井）トテ父祖ノ蔭ニヨリ任用セラルヽモノ例ヘバ一位ノ嫡子ハ從五位下ニ又其庶子ハ正六位上ニ叙セラルヽ如シ（二）擧人トテ大學卒業ノ者ヨリ撰任セラルヽモノトス敕命ヲ以テ任スルモノヲ勅任トイヒ大政官ノ奏聞ヲ經テ任スルヲ奏任トイヒ式部省ニテ命スルヲ判補トイフ

（一三八）位階ノ制

親王ハ一品ヨリ四品マテ四階諸王ハ正一位ヨリ少初位マテ三十階總テ四十八階トス服色ヲ以テ其高下ヲ表ス別ニ勳位アリ一等ヨリ十等ニ至ル

（一三九）行ト守トノ解

大寶ノ制凡テ位階ト官職トハ各相當アリ位高クシテ官卑キハ行ト署シ位卑クシテ官高キハ守ト署ス例ヘバ從三位守大納言正二位行大納言等ノ如シ

（一四〇）俸祿ノ制

位階ニヨリ賜ハルモノニ三種アリ食封（ジキフ）ハ親王内親王ニ給フヲ品封（ホンプ）トイヒ諸王諸臣ノ三位以上ニ給フヲ位封トイフ五位以上ニテモ功アレバ功封ヲ賜フ給額各差等アリ其戸口ヨリ納ムル田租調庸ヲ得ルナリ親王以下五位以上ニハ位田アリ四位五位ニハ位祿アリ又有位以上ノ職事官ニハ季祿ノ制アリ三公內大臣參議ニハ職封アリ三公大納言及外官ニハ職田アリ此ノ三種ハ職務ニヨリテ賜フ所トス別ニ功勞アルモノニ功田功封ヲ賜フ大功ハ世々ニ傳ヘ上功ハ三世中功ハ二世下功ハ子ニ傳フルノ制ナリ

（一四一）戸籍及稅法

良民賤民ヲ別チ皇族ハ皇兄弟皇子ヲ親王トシ以下ヲ王トス人民ヲ年齡ニ依リ黃（三歲以下）少（十六歲以下）中（廿一歲以下）丁（廿一歲以上）老（六十歲以上）耆（六十六歲以上）ノ六等ニ分チ稅法ヲ課スル標準トス戸籍ハ六年毎ニ改造シテ班田ヲ收授ス稅法ニハ租庸調ノ三種アリ徵額ハ時ニ從テ增減アレ𪜈大概大化ノ制ニ同シ（租庸調ノ解前出）

（一四二）學制

京師ニ大學ヲ設ケ明經、紀傳、明法、算ノ四道及音、律ノ二科アリ學生ハ四百人ヲ限リトシ諸王及五位以上ノ子孫東西史部ノ子八位以上ノ子ノ請願スルモノ國學生ノ優等者ニ限リ入學ヲ許シ試業シテ及落ヲ判ス大學卒業生ヲ擧人ト云フ諸國ニハ國學ヲ置キ郡司ノ子弟ヲ入學セシム若シ入學生不足アレハ庶人ノ子弟モ入

學ヲ許スコトアリ又太宰府ニ學業院アリ國學及學業院ヲ卒業セシ人ヲ貢人ト云フ擧人貢人ハ共ニ式部省ニテ考試ヲ受ケ初メテ叙位任官セラル又別ニ典藥寮ニテ醫道陰陽寮ニテ陰陽天文曆日等ノ學科ヲ教ヘタリ

（一四三）軍制

京師ニハ五衛府アリ（後六衛府トナル）諸國ニハ軍團アリ邊要ノ地即九州ニハ防人陸奥ニハ鎮守府出羽ニハ秋田城ヲ置ク六衛ノ兵士ハ凡三千人ニシテ軍團ハ凡百三十餘ケ所其兵士十餘萬アリ徵兵ノ法ハ全國ノ正丁三分ノ一ヲ檢シテ兵トシ軍團ニ編入ス其中京ニ宿衛スルアリ防人トナルモアリ軍隊ノ編成ハ十人ヲ一火トシ五十人ヲ一隊トシ隊ニ隊正アリ百人ニ旅帥アリ二百人ニ校尉アリ五百人ニ毅アリ六百人以上ニハ大小ノ毅アリ征討ノ時ニハ更ニ軍隊ヲ編成ス一軍ノ兵數三千乃至一萬ニ及ブ軍毎ニ將軍アリ三軍ニハ大將軍アリ以テ之ヲ統督ス

（一四四）刑法ノ制

笞（十ヨリ五十マデ五等アリ）杖（六十ヨリ百マデ五等）徒（一年ヨリ半年ヅヽ加ヘテ三年ニ至ルノ五等）流（遠、中、近ノ三等）死（絞、斬ノ二等）等トス流罪以上ハ上奏ヲ經テ決行シ死罪ハ三度覆奏ス

（一四五）八虐六議ノ制

八虐トハ謀反、謀大逆、謀叛、惡逆、不道、大不敬、不孝、不義ヲ云フ此ノ八罪中ノ一ヲ犯スモ減免特典ニ浴スルヲ得ズ親、故、賢、能、功、貴ヲ六議トシ議請減贖ヲ請フコトヲ得ル定メトス

（一四六）僧道照及火葬ノ始

道照ハ持統時代ノ人ナリ渡唐シテ高僧玄奘ニ學ヒ歸朝後諸國ヲ周遊シ布教ノ傍路傍ニ井ヲ鑿リ津渡ニ橋梁ヲ架スル等民利ヲ興セシ功少ナカラズ文武ノ朝寂スス遺言シテ荼毘セシム火葬此ニ始マル尋テ持統帝ノ崩ズルヤ又遺詔アリ火葬ス天子ノ火葬亦此ニ始マル

（一四七）淡海三船及御諡號ノ撰定

三船ハ葛野王ノ孫ニシテ弘文帝ノ曾孫ナリ博學詩文ヲ能クス文武ノ朝勅ヲ奉シテ神武以來御歴代ノ諡號ヲ撰定ス又本朝詩集ノ始ナル懷風藻ハ三船ノ私集ナルベシト云フ從四位下大學頭兼文章博士トナリ延曆ノ初因幡守ヲ兼ネ刑部郷ニ進ミ延曆四年卒ス年六十四

（一四八）太上天皇ノ初例

第四十一代持統帝御位ヲ文武天皇ニ讓リ給ヒ太上天皇ト稱ス太上皇ノ尊號此ニ始マリ聖武以後ニハ歴代佛法ヲ信向セラレシカバ壯年位ヲ去リ太上皇ハ流例トナルニ至レリ

（一四九）奈良時代

元明帝ノ和銅三年（一三七〇）都ヲ太和ノ奈良ニ奠ム是ヨリ元明元正聖武孝謙淳仁稱德光仁ノ七朝七十五年間ノ帝京トナリ佛敎及文學美術工藝ノ隆盛ナリシヲ以テ有名ナル時代トス

（一五〇）古事記及風土記ノ修撰

古事記ハ元明帝ノ和銅五年成ル（一三七二）日ヲ費スコト四ケ月半開闢ヨリ推古ノ朝ニ至ル國史ナリ有名ナル記臆者稗田阿禮ノ口誦ヲ博士太安麿カ記錄セシモノニシテ音訓雜用ノ文體ナリ翌年又風土記ヲ各國ヨリ錄上セシメラル此書散佚シテ今ハ僅カニ出雲播磨常陸ノ部ノミ存ゼリ

（一五一）舍人親王ノ傳

親王ハ天武天皇ノ第二子ナリ博學宏才アリ初メ太安麿稗田阿禮ガ誦習スル所ニ依リ古事記三卷ヲ進錄セシモ音訓雜用ノ文体ニシテ史体未ダ備ハレリト謂フベカラズ是ニ於テ親王太安麿紀清人等ト詔ヲ奉シ更ニ書紀三十卷ヲ大成ス文章燦然漢史ニ比シテ遜色ナシ國史ノ体裁初メテ全シト謂フベシ天皇嘉賞シ賜ヒ詔シテ大政官ノ政治ヲ知セシム聖武天皇ノ天平七年薨ズ年六十大政大臣ヲ追贈セラル

（一五二）六國史ノ說明

（一）日本紀ハ神代ヨリ持統帝ニ至ルマテノ國史トス舍人親王太安麿等勅ヲ奉シテ撰ス（二）續日本紀ハ文武朝ヨリ桓武朝ノ延暦十年ニ至ル九代九十五年間ノ事ヲ記セリ菅野眞道等ノ撰上スル所ナリ（三）日本後紀ハ桓武朝ノ延暦十一年ヨリ淳和朝ノ天長十八年マテ四代四十二年間ノ事ヲ記セリ藤原冬嗣等勅ヲ奉ジテ撰ス（四）續日本後紀ハ仁明朝御一代凡十八年間ノ事ヲ記ス藤原良房等撰上ス（五）文德實錄ハ文德朝御一代凡九年間ノ事ヲ記ス撰者ハ都良香菅原道眞等ナリ（六）三代實錄ハ清和、陽成、光孝三代凡卅年間ノ實錄ナリ藤原時平等撰ス以上六國史ハ純然タル漢文体ノ編年史ニシテ皆敕撰ノ正史ナリ

（一五三）藤原氏外戚專權ノ兆

不比等ノ女宮子娘（ミヤコイラツメ）ハ文武帝ノ夫人トナリテ聖武帝ヲ生ミ又其女安宿媛（又光明子トイフ）ハ聖武帝ノ皇后トナリテ孝謙帝ヲ生ム藤原氏外戚ヲ以テ權ヲ弄スルノ兆此ニ始マル

（一五四）不比等ノ傳及四家

不比等ハ鎌足ノ子ニシテ才學アリ（實ハ生母車持氏（クラモチ）ニシテ天智帝ノ落胤ナリ）律令ノ修撰ニ勳功ヲ立テ元明ノ朝右大臣トナリ又氏長者トナリ薨ス（北家ノ祖）宇合（ウマカヒ、式家ノ祖）麿（京家ノ祖）皆令名アリ子弟一族律令ヲ曉習シ家門益々榮ヘ累代皇室ノ外戚トナル就中北家最モ盛ンナリ

（一五五）奈良前後佛教ノ興隆セシ所以

奈良朝前後ノ歷代ハ何レモ佛教ヲ崇信シ給ヒシノミナラズ聖武孝謙ノ兩朝ニハ益々崇奉厚カリシカバ佛教ノ勢力ハ政事法令ヲ左右スルニ足レリ依リテ志アル ノ士ハ入唐シテ苦修ヲ積ミ歸リテ教義ヲ煥發ス名僧智識ノ輩出セシハ實ニ奈良前後ヲ推ス故ニ皇室ノ崇佛ハ素ヨリ此ノ隆盛ヲ促カセシ大源ナレ𪜈又一方ヲ觀察スレバ他因ノ伏在スルモノアリ當時ノ學制ニハ大學國學ノ設ケアレトモ有位者ノ子弟ニアラザレバ容易ニ入學スル能ハス賤族ニ生レタル扳萃有爲ノ人物ハ世ニ施スベキ立身ノ地ナシ唯一ノ佛門ハ區域廣大自由ニシテ官設

學校ノ如キ學閥狹隘ノモノニアラズ何人ニテモ自由ニ其才識ヲ延ブルヲ得故ニ英傑ノ士ハ概ネ此道ヨリ進ミ遂ニ佛法ハ國家ノ一大勢力トナルニ至レリ

(一五六) **僧玄昉ノ事歷**

法相宗ノ僧ナリ元正ノ朝渡唐シテ智周法師ニ學ブ才學大ニ進ミ唐帝玄宗ヨリ紫衣ヲ賜ハル歸朝後僧正ニ任セラレ興福寺ニ住ス聖武帝及光明后深ク歸依セラレ內道場ニ出入シテ專恣ナリ遂ニ藤原廣嗣ノ亂ヲ釀成ス後不正多キヲ以テ貶セラル

(一五七) **僧行基ノ事歷**

行基ハ和泉ノ人又法相ノ僧ナリ幼時藥師寺ニ入リテ僧トナル讃嘆ノ聲人ヲ泣カシメシト云フ玄昉貶セラレシ後ハ聖武帝ノ深ク依信スル所トナリ東大寺造營ノ時大神ハ盧舍那佛ノ權化ナリトノ說ヲ立ツ後大僧正トナリ大菩薩ノ號ヲ賜ハル又行基ハ海內ヲ遍歷シテ敎法ノ傍水利ヲ通シ橋梁ヲ架シ道路ヲ修ムル等民利ヲ興セシコト少ナカラズ

(一五八) **奈良時代外國ヨリ渡來セシ高僧**

唐ヨリハ鑑眞及道璿ノ二名僧來リ鑑眞ハ律宗ノ祖ナリ聖武帝ノ爲メニ佛戒ヲ修メ奉ル道璿ハ華嚴宗ノ祖トナル又林邑ノ(今邏羅ニアリ)佛哲印度ノ菩提等モ渡リ來レリ

(一五九) **神佛同體ノ說**

聖武帝東大寺ヲ創立セシ時神明ノ崇ヲ恐レ先ツ行基ヲシテ太神宮ニ禱ラシム行基神託ト稱シ曰神ハ盧舍那佛ナリトノ說ヲ立ツ盧舍那トハ梵語ナリ光明遍照トモ譯ス故ニ日神即天照大神ハ佛敎ニイヘル盧舍那佛ト同一ナリト說ク後最澄空海ノ徒布敎ノ方便トシテ益々此說ヲ唱ヘ遂ニ神佛淆混スルニ至レリ

(一六〇) **戒壇ノ說明**

佛敎ノ法律ハ戒律ナリ戒壇トハ其戒ヲ受クル場所ヲ云フ當時ノ僧中ニハ敎義ヲ主トスルモノト持戒ヲ主トスルモノトノ別アリ奈良ノ東大寺筑前ノ觀世音寺下野ノ藥師寺近江ノ延曆寺ヲ四戒壇ト稱ス

(一六一) **奈良朝ノ文學**

當時文學ノ主ナルモノハ漢學トス吉備眞備阿部仲麿等最有名ナリ眞備ハ元正ノ朝遣唐學生トナリ在唐二十年聖武ノ朝歸朝ス經史算曆ヨリ諸藝ニ至ルマテ修メザル所ナク大ニ進ム翰林ヨリ大臣ニ列セシハ當時稀有ノコトナリ仲麿ハ年十六ニシテ入唐シ在唐五十餘年名ヲ晁衡ト改メ官仕シテ秘書監ニ至リ彼土ニ卒ス仲麿歸朝ヲ失シ故國ヲ追慕シテ止マス三笠山ノ詠人口ニ膾炙セリ歌聖ニハ柿本人麿アリ山邊ノ赤人山上憶良等亦有名ナリ萬葉集ハ實ニ此時代ニ成レリ

(一六二) **奈良時代ノ美術工藝及正倉院**

寺院ノ建築ニハ多ク唐樣ヲ用キ稱德ノ朝ニハ琉璃瓦及銅瓦ニテ葺ケル殿舍モアリ鑄冶術ノ進歩ハ東大寺大佛ノ鑄造ニテ知ラル其他織物蒔繪陶器繪畫彫刻ノ進歩ハ實ニ驚クバカリナリ當時東大寺ノ倉庫タリシ正倉院ハ幾回ノ災異ヲ免レテ

現存シ（今宮内省所轄）聖武帝ノ御遺愛物ヲ始メ種々寶什ヲ藏セリ此等ノ物品ニヨリ其巧妙ヲ察スベシ

（一六三）**按察使ノ始（アゼチ）** 大寶ノ制諸國ノ政治ハ國司ニ任シ中央ニハ彈正臺ノ設アレトモ未ダ地方ノ治績ヲ檢察スル機關アラザリシヲ以テ元正帝ノ養老三年始メテ此官ヲ置ケリ

（一六四）**解由（ゲユ）及勘解由使ノ說明** 聖武朝以來國司ノ遷替ニハ在任中ノ事由ヲ署シテ新官ニ付ス解由狀ト名ツク爾後國司不法者多ク解由ヲ與ヘズ公廨（クゲ、ト讀ム、モト官舍、義ナリシニ轉シテ稅目ノ一種トナル）ノ分賦ノ爭ヒ止マズ依テ桓武ノ朝遡解由使（カゲユシ）ヲ置キ其爭ヲ辨理處決セシメラル

（一六五）**出舉ノ法（スイユ）** 元正朝ノ神龜元年（一三八四）始テ正稅ヲ割キテ國儲ヲ置キ穀ヲ國郡ニ蓄ヘシメ出舉シタルヲ始トス出舉トハ公私ノ財物ヲ貸シ與ヘテ利息ヲ取ルコトナリ此事公私ノ爲メニ便益ナリシカバ後ニハ正稅公廨ノ中ヲ毎年出舉シテ其利息ノ稻ヲ納メ諸般ノ用度ニ充ツルニ至レリ

（一六六）**奈良時代都鄙ノ懸隔** 京師ニテハ佛敎文學ノ隆盛ト共ニ工藝百般ノ進步後世ヲ驚スバカリナリシモ一步田舍ニ出ツル時ハ全ク光景ヲ殊ニシ人智未ダ開ケズ道路ハ修マラズ田野ハ荒レ朝紳ノ華奢佛法ノ供養ハ百姓ヲシテ重斂ヲ嘆ズルノ具トナレリ當時ハ百姓未ダ錢貨ノ貴キヲ知ラズ交易ニハ米布等ヲ用ユルモノ多ク從テ蓄錢ノ念ニ乏シク朝廷蓄錢者ニハ賞與ヲ與フルノ令ヲ發布セラレシコトアリ又行旅者ハ粮ヲ齎スヲ常トシ粮盡キテ死スルモノアリ山上憶良嘗テ貧窮問答ノ歌ヲ作リ公卿ヲ諷セシコトアリ

（一六七）**健兒（コンデイ）ノ設置** 佛敎ノ隆盛ト朝紳ノ愉安奢肆トハ法令ノ弛解ヲ來シ諸國盜起リ京師ノ戒嚴急ナリ然ルニ上番ノ衞士厄弱ニシテ用ヲナサズ因テ聖武ノ朝ニ江、勢、濃、越ノ諸國ヨリ郡司ノ子弟ノ弓馬ニ習フモノヲ徵シテ租庸ノ半ヲ減シ諸國ノ兵庫ヲ守リ貴使ノ送迎ニ充ツ之ヲ健兒ト云フ而シテ豪族勢家ハ私ニ兵器壯士ヲ貯ヘ事變ニ備フ是法令ノ禁ズル所ナレドモ朝廷モ勢之ヲ禁スル能ハス武人ノ勢ヲ得タルハ已ニ茲ニ兆ス

（一六八）**押領使ノ始及其職掌** 淳仁ノ朝陸奧ニ桃生城小勝ノ柵ヲ造リ東國浮浪人ヲ柵戶トナシ官沒ノ奴婢ヲ配シ阪東八國ニ命シ陸奧ニ事アレバ國毎ニ二千以下ノ兵ヲ發シ國司精幹ノ者一人押領シテ速ニ救援セシム是ヲ押領使ノ始トス武家名目抄ニ云ク押領使ノ職掌ハ略追捕使ニ同シ押領トハ統領ノ如シ大ニシテハ一軍小ニシテハ一隊ノ長ナリトアリ

（一六九）**橘氏ノ出自及藤原氏トノ關係** 橘氏ハ敏達天皇ヨリ出ヅ天皇ノ曾孫ヲ美努王トナス王ノ妃ハ縣犬養橘宿禰三千

代ニシテ葛城王ヲ生ム聖武ノ朝參議ニ任セラレ母氏ノ姓橘ヲ賜ヒ名ヲ諸兄ト改ム後官左大臣ニ至ル萬葉集ノ撰アリ諸兄ノ母三千代ハ美努王薨後藤原不比等ニ再嫁シ聖武ノ后光明子ヲ生ム故ニ皇后ト諸兄トハ異父ノ兄妹ニシテ不比等ハ義父ニ當ル是レ當時藤原氏ノ出ニアラズシテ大官ニ昇リシ所以トス橘氏ハ實ニ諸兄ノ裔ナリ

（一七〇）和氣清麿ノ出自及其忠烈

垂仁帝ノ皇子鐸石別命ヨリ出ツ清麿ハ實ニ其十四世ノ裔ナリ孝謙稱德ノ朝僧道鏡寵貴ヲ極メ遂ニ非望ヲ覬覦ス清麿宇佐ニ使シテ復命シテ曰ク我國開闢以來君臣ノ分定マレリ天日嗣ハ必ズ皇胤ヲ立テヨト此言タル非道ノ人ハ速ニ剪除セヨト此言タル千載ノ下亂臣賊子ヲシテ邪念ヲ絕タシメ皇室ヲ富嶽ノ安キニ置キタルモノト云フベシ光仁ノ朝道鏡貶斥セラレ清麿ハ配處大隅ヨリ召還セラレ元官ニ復サル後三位民部卿ニ進ミ平安城奠都ノ大計畫ヲ奏上ス延曆中薨ス後世正一位ヲ贈リ護王明神ト崇祀セラル社ハ西京高尾山ニアリ

（一七一）天長節ノ由來

第四十九代光仁天皇ノ朝唐朝千秋節ノ例ニ準シ天皇ノ御生日ヲ以テ天長節ト定メラレ殺生ヲ禁シ僧尼ニ讀經セシメ百官ニ宴ヲ賜ヒシコトアリ之レ本邦天長節ノ嚆矢トス其後中絕セシヲ明治元年ニ至リ再興シ給フ

（一七二）平安奠都及其規摸

紀元千四百五十四年桓武朝ノ延曆十三年都ヲ平安ニ遷ス新都ハ山城國葛野郡（カドノ）ニアリ其規摸ハ唐ノ長安城ノ制ヲ採リ東西卅二町南北卅八町朱雀大路中央ニ通シ東西二區ニ分ツ東ヲ左京トシ西ヲ右京トス兩京各々六百八町百五十保三十六坊アリ東西ニ通スル路九條アリ兩京ノ中央ニ大內裏アリ一條二條ノ間ニ位シ十二門ヲ設ケ其正門ヲ朱雀トイフ皇居及諸官衙皆其中ニアリ規摸ノ宏大ナルコト平城ノ比ニアラズ是ヨリ明治初年ニ至ルマデ一千七十餘年間ノ帝都トナル然トモ累世ノ兵禍ヲ經テ今ハ左京ノミ存シ右京ハ荒レテ田畝トナレリ

（一七三）蝦夷ノ鎭定

阿部比羅夫ノ蝦夷討平以後歷朝意ヲ東北ニ注カレ聖武ノ朝ニハ陸奧ニ多賀城出羽ニ秋田城ヲ築カレシモ屢々叛キテ平カズ桓武ノ朝坂上田村麿ニ命シ悉ク之ヲ討滅セシメラル嵯峨ノ朝又叛ス文屋綿麻呂等ニ命シ之ヲ討ス此時ヨリ膽澤城（陸中）ヲ以テ東北ノ鎭トス次テ陽成ノ朝出羽ノ亂アリシガ藤原保則ノ功ニ依リ之ヲ平服スルコトヲ得タリ之ヨリ東北久シク事ナシ

（一七四）坂上田村麿ノ事蹟

田村麿ハ歸化人阿知使主ノ後ニシテ左京大夫苅田麿ノ子ナリ身長五尺八寸眼ハ蒼隼ノ如ク鬚髯神ノ如シ膂力アリテ將帥ノ略アリ桓武帝ノ擢用スル所トナリ征夷大將軍ノ重任ヲ荷ヒ悉ク夷地ヲ剿討シ歷朝ノ大患ヲ一掃セリ凱旋ノ後官大納言ニ進ム薨スルヤ洛外栗栖山ニ葬ル將軍塚是ナリ

（一七五）弘仁ノ變

桓武帝ノ次ニハ皇嫡平城帝即位ス次テ病ノ故ヲ以テ位ヲ皇弟嵯峨帝ニ讓ラル時

ニ上皇ノ寵妃藤原薬子其兄仲成ト謀リ上皇ニ重祚セシメ已權ヲ專ニセントト謀ル天皇田村麿等ニ命シ之ニ備フ已ニシテ仲成誅ニ伏シ薬子自殺シ上皇ハ薙髪シ給ヒテ事平ク此變弘仁元年(一四七〇)ナリ故ニ弘仁ノ變ト稱ス仲成薬子ハ共ニ種繼ノ子ニシテ式家(宇合ノ系)是ヨリ衰フ

(一七六) 邦人ノ印度ニ入リシ始

高岳親王ハ平城上皇ノ皇子ニシテ嵯峨帝ノ皇太子タリシニ偶々弘仁ノ變アリ嵯峨帝之ヲ廢ス高岳僧トナリ眞如ト稱シ入唐シテ法ヲ求メ印度ニ赴キ羅越國(今印度ノ一地ナル老撾ナリ當時支那ヨリ印度ニ入ルニハ東ト北トノ二路アリシカ親王ハ東路ヨリセラレシナラン)ニ至リ虎害ニ遭フテ薨ス是レヲ邦人印度ニ入ルノ始トス

(一七七) 藏人所ノ設置

嵯峨帝ノ弘仁元年(一四七〇)藏人所ヲ校書殿ニ置キ機密ノ文書及訴訟ヲ掌ル所トス藤原冬嗣巨勢野足ヲ藏人頭ニ補ス大寶ノ制詔勅ハ中務省之ヲ宣傳シ太政官ヲ經テ發スル所ナリシニ是ニ至リ其權藏人所ニ移リ後ニハ上斑ノ大臣藏人頭ヲ兼ネ之ヲ貫首ト稱シ殿上人ノ上席トナリ政事ノ權總テ之ニ移リ大寶制空文トナル

(一七八) 檢非違使廳ノ設置

弘仁中又始テ衛門尉ヲシテ檢非違使ノコトヲ兼ネ行ハシム後淳和帝ノ天長中檢非違使廳ヲ置キ一局トシ長官ヲ別當ト云ヒ佐、判官以下職員アリ然シテ諸國ノ豪族中武勇アルモノヲ拔キテ少將ニ任シ使廳ノ命令ニ依リ盜賊追捕ノ職ニ供ス追捕使之ナリ定員ナシ其殊功ニ依リ五位ニ叙セラルヽヲ大夫判官ト稱ス特ニ名譽トス諸國ノ豪族此職ニヨリ立身スルモノ多ク漸ク武門武士ノ起因トナル初奈良朝以來群盜屢々起ルモ六衛ノ士怯弱ニ陷リ之ヲ討スル能ハス聖武ノ朝健兒ノ設アリシモ亦長ク行ハレズ天下之ニ苦ム此ニ至リ使廳ハ天下警察ノ全權ヲ總括スル所トナリ其命令ハ廳宣ト稱シ詔勅ニ准ズ之ヨリ大寶制ノ衛府彈正臺刑部省ノ權ハ空文トナル

(一七九) 弘仁前後政權推移ノ漸兆

藏人所及檢非違使廳ノ設置ハ大寶制ノ漸ク破レタル明證ニシテ何レモ御親政ヨリ大權下ニ移ルノ橋梁ト謂フベシ即前ニ藏人所アリテ後ニ攝政關白ノ權トナリ前ニ使廳アリテ後ニ天下總追捕使ノ伏線ヲナセリ

(一八〇) 藤原冬嗣ノ事歷

冬嗣ハ北家ノ出ナリ父内麿ハ桓武平城ノ朝ニ大臣タリ冬嗣器局温雅文才アリ弘仁中藏人頭ニ補セラレ累進左大臣トナリ天長三年薨ス正一位ヲ贈ラル世ニ閑院大臣ト稱ス嘗テ勅ヲ奉シテ弘仁格及内裏式ヲ撰ス又日本後記ヲ監修シ未ダ成ルニ及バズシテ薨ス冬嗣嘗テ施藥院及勧學院ヲ置キ一族中ノ貧困者ヲ收養敎育ス又南圓堂ヲ興福寺ニ建テ繁榮ヲ祈ル藤氏四家中北家最モ盛ナリ薨スルニ臨ミ藤氏累代ノ勳功ニヨリ詔シテ周公嘗何ノ例ニ準シ歷代一万五千戸ヲ賜ハル

(一八一) 承和ノ獄

仁明帝淳和帝ノ皇子恒貞ヲ立テ、太子トス然ルニ多嗣ノ女順子仁明ノ后トナリ道康ヲ生ム恒貞儲位ヲ辭ス許サレズ嵯峨淳和二上皇ノ崩ズルヤ形勢漸ク一變シ承和九年(一五〇二)流言アリ東宮帶刀伴健岑等太子ヲ奉シテ亂ヲ東國ニ作サントスト帝之ヲ信ジ恒貞ヲ廢シ道康ヲ立ツ橘逸勢(孝女妙沖ノ父)モ之ニ座シテ健岑等ト共ニ流サル實ハ其罪ニアラズ上下之ヲ悲シム此ノ變ハ藤原氏收權ノ手段ト謂フヘシ

(一八二) **海梨澄桃ノ事歷**

最澄空海ハ共ニ弘仁前後ノ高僧ナリ最澄ハ傳敎大師ト號シ天臺宗ノ開祖ニシテ比叡山延曆寺ヲ創建シ空海ハ弘法大師ト號シ高野山金剛峯寺ヲ起シテ眞言宗ノ祖師タリ二僧共ニ諸國ヲ遍歷シ布敎ノ外民利ヲ興セシ事蹟多シ二僧在唐ノ時空海ハ海梨最澄ハ澄桃ト併稱セラレ名聲ヲ異邦ニ博セリ殊ニ空海ハ博學多藝ヲ以テ名アリ平假名ハ空海ノ作ナリト傳ヘラル

(一八三) **弘仁前後文學ノ隆盛**

當時大學國學ノ外ニ私立學校起ル和氣氏ノ弘文院藤原氏ノ勸學院在原氏ノ奬學院王氏ノ淳和院(王氏トハ諸王ニハ氏ナキ故姑ク王氏ト稱ス)橘氏ノ學館院僧空海ノ綜藝種智院(綜藝トハ衆藝ヲ兼綜スル義)等前後ニ起リ皆其一族子弟ヲ敎育スル所トス又大納言石上宅嗣ハ芸亭ト稱スル圖書館ヲ起シ衆庶ノ縱覽ニ供セシコトアリ公私ノ講堂誦讀ノ聲絕ヘズ當時有名ノ漢學者ニハ都良香小野篁僧空海橘廣相等アリ歌人ニハ在原業平大友黑主小野小町等アリ繪畵ハ百濟河成巨勢金岡ヲ巨擘トス文敎ノ盛ナルコト前古比ナシ然トモ當時敎育ノ目的ハ政事ニ與ル門族ノ子弟ヲ養フニアリテ庶人ハ志アルモ學習ノ難キコト論ナシ故ニ平民ニハ氏名サヘ記シ得ザルモノ多ク今日ノ如ク普及セルモノニアラズ

(一八四) **小野篁ノ傳**

篁ハ參議岑守ノ子ナリ嵯峨朝ノ十三年文章生ニ擧ケラレ及第ス後歷仕シテ從五位下大宰少貳トナリ尋テ東宮學士ニ進ミ淸原夏野等ト令義解ヲ撰上ス承和ノ初遣唐副使トナリ大使藤原常嗣不法ニモ篁ノ乘船ヲ奪ハントス欲スルヤ大ニ憤リ病ト稱シテ赴カズ爲メニ罪ヲ得テ隱岐ニ流サル數年ニシテ宥サレ本位ニ復シ累進シテ參議左大辨ニ任ゼラル文德ノ朝薨ズ年五十一篁母ニ仕ヘテ至孝家淸貧ナレドモ俸入ハ皆親友ニ施ス詩文ハ當時ニ冠絕シ嵯峨上皇ノ爲メニ激賞セラレシコトアリ又草隷ニ巧ミナリ然レドモ人ト爲リ不羈直言ヲ好ミ俗世ノ爲メニ容レラレズ其才學ヲ猜ムモノハ呼ブニ野狂ヲ以テス世ニ傳フ下野ノ足利學校ハ篁ガ關東ノ國司タリシトキ創置セシ所ナリト

(一八五) **刊本ノ始書籍ノ缺乏**

本邦刊本ノコト史ニ見ユルノ始ハ聖武朝ノ天平中百万ノ小塔ヲ造リ陀羅尼ヲ印刊シテ其中ニ納メタルヲ初トス其後佛書ニハ僅ニ板行セシモノアレドモ儒書ハ概シテ謄寫シテ藏スルノミ紙價甚ダ貴ク故紙ノ背ニ書寫スルニ至ル太宰府ノ府學校スラ僅ニ五經ヲ藏スルノミニシテ三史ニ及バズ書籍ノ缺乏此ノ如キモ德行ハ歷朝ノ奬勵シ給フ所ニシテ孝謙ノ朝ニハ天下戶每ニ孝經一部ヅヽヲ藏スベキ

コトヲ命ゼラレタリ

（一八六）　人臣攝政准三宮隨身兵仗ノ始

清和帝九歳ニシテ即位ス外祖太政大臣良房（忠仁ト諡セラル）萬機ヲ攝行シ三宮ニ准ジテ（准三宮又ハ准三后トモ云フ三宮トハ皇太皇后皇太后皇后ヲイフ是ハ三宮ノ位ニ准ズルノ義ニアラズ三宮ニ准ズル年官年爵ヲ賜ハルヲ云フナリ）年官ヲ給シ内舍人二人左右近衛各六人及帶仗資人三十人ヲ賜ハル人臣ニシテ此ノ光榮ヲ受クルハ良房ニ始マル

（一八七）　年官年爵ノ解

年官年爵トハ官位ヲ以テ俸料ニ給ハルコトナリ中古ノ末ハ朝廷財用足ラズ諸官ノ俸祿ヲ給スル能ハズ然ルニ地方官ハ收入尚豐ナルヲ以テ員外ノ官ヲ任ジ其俸祿ヲ割キテ京官ニ與フル方法ナリ年官トハ毎年ノ除目ニ國司ノ内ノ椽目史生等ヲ賜フヲイヒ年爵トハ毎年從五位下一人ヲ賜フヲ云フ概シテ年給ト稱ス何レモ身分ノ高下ニヨリ賜ハル人數ニ差等アリ

（一八八）　藤原氏ト皇室トノ關係

初蒔原氏其權勢ヲ固クセンニハ其女ヲ後宮ニ入レ皇子ヲ儲貳ニ立テヽ外舅外祖ノ勢ニ籍ルノ上策ナルヲ知リ冬嗣ハ其女ヲ仁明ノ女御トシテ文德ヲ生ミ良房又其女ヲ文德ニ納レ清和ヲ生ミ又長良（良房ノ弟）ノ女高子ヲ天皇ニ納レテ陽成ヲ生ム外戚ノ權愈固ク爾後藤氏收權ノ手段皆之ニ習フ

（一八九）　攝政關白ノ解說

幼主或ハ女帝ノ時ニ大臣タル人後見シテ政ヲナスヲ攝政トイヒ天子御成年後マデモ尚大政ヲ預ケ給フヲ關白トイフ（天下ノ政ヲ預リ白スノ義）故ニ職掌ハ同一ナリ光孝帝萬機ヲ基經ニ關白セシメ給ヒシヨリ關白ノ初例ヲ開キ後ニハ藤氏ノ世襲官ノ如クナレリ凡此職ニアルモノハ左右大臣ノ官ト雖太政大臣ノ上ニ居リ上座又ハ一上ト潛號セリ

（一九〇）　貞觀ノ治

良房政治ヲ專ニセシモ清和帝ヲ補翼シテ其宜シキヲ得タリ後世之ヲ貞觀ノ治ト稱ス清和ノ御宇ニハ貞觀格式ノ撰定アリ釋奠式ヲ修メ學事ヲ奬勵セラレシコトアリ太宰府其他沿海ニ令シ兵備ヲ嚴ニセラレシコトアリ又常平倉ヲ設ケ凶年ニ備ヘシメラレシ如キ施設ノ見ルベキモノ一ニシテ足ラズ諸國守モ亦適任ノ人ヲ得テ紀今守藤原保則紀夏井在原行平等ノ名士アリ故ニ天下少康ヲ得タリ

（一九一）　阿衡事件

宇多朝ノ仁和三年基經上表シ關白ヲ辭シ單ニ大臣タラントヲ請フ天皇左大辨橘廣相ニ命シ之ヲ諭スノ文中宜下以二阿衡之任一爲中卿之任上ノ語アリ基經ノ家司左少辨藤原佐世廣相ト隙アリ依テ曲解シテ曰ク阿衡ハ位ナレバ職ナシ公ハ職掌ナキノ人トナレリト基經憤リテ朝セズ政務ノ澁滯數月ニ及ブ帝慰諭再三基經意解ケテ初メテ參朝ス之ヨリ藤氏ノ行爲ハ詔勅ヲ動スニ至ル

（附說）阿衡トハ殷ノ伊尹ノコトナリ伊尹ハ天子太甲ヲ輔ケテ殷室ヲ中興セシ賢人ナリ書曰、阿衡、衡平也、商之官名、言三天下之所二倚平一也トアリ

(一九二) **寛平ノ治**

宇多帝阿衡ノ紛議以來深ク藤氏ノ擅恣ヲ忌ミ寛平三年基經薨スルノ後ハ（昭宇ト謚ス）天皇萬機ヲ親裁シ又關白ヲ置カス同八年左大臣藤原良世致仕シ九年右大臣源能有薨セバ又左右大臣ヲモ置キ給ハズ基經ノ長子時平ヲ大納言兼左大將トシ菅原道眞ヲ擢拔シテ權大納言右大將トシ時平ト勢力ヲ分タシメ以テ漸ク藤氏ノ權ヲ収メントス世貞觀ノ治ト稱ス然レ𪜈天皇深ク佛法ヲ信セラレシカバ在位久シカラズ位ヲ醍醐帝ニ讓リ天皇ヲシテ遺志ヲ遂ケサセ給ハントノ御志ナリシニ反リテ延喜ノ寃獄起リ道眞左遷セラレ宇多ノ御宿志水泡ニ歸スルニ至レリ

(一九三) **惟喬親王ノ事歷**

親王ハ文德帝ノ嫡長子ナリ然ルニ帝ノ第二子惟仁親王ハ藤原氏ノ出ナルヲ以テ立チテ儲宮トナル是ニ於テ王ハ世ヲ厭ヒ吟咏ニ心ヲ委ネ俗塵ヲ避ケ叡山ノ麓ナル小野ニ隱レ給ヘリ時人小野宮ト稱ス在原業平紀有常等時々其幽棲ヲ訪ヒ詩歌唱答シテ鬱ヲ遣ル清和ノ朝廿六歲ニシテ薨ズ世之ヲ悲シム

(一九四) **遣唐使ノ沿革及其廢止**

推古ノ朝小野妹子ヲ隋ニ遣ハセシ後幾モナク隋亡ヒ唐ノ代トナル此ノ時學問僧惠齊惠光等歸朝シテ唐朝文物ノ盛ヲ奏セシコトアリ舒明ノ朝（一二九〇）始テ藥師惠日等ヲ唐ニ遣ル之ヲ西海使ト稱セリ孝德ノ朝（一三二三）吉士長丹等ヲ大使トシ派遣セラル始メテ遣唐使ト稱ス白雉五年又高向玄理等ヲ遣ハサル爾後齊明天智ノ兩朝各一度ツヽ使聘ノコトアリ天武持統ノ兩朝ニ交通ナク文武ノ大寶元年（一三五七）粟田眞人等ヲ遣ハス時ニ唐ハ則天武后ノ朝ナリ此後元正聖武孝謙ノ三朝使聘各一度ツヽアリ淳仁ノ朝ニハ派遣ナシ光仁桓武ノ兩朝ニハ各一度ツヽ派遣セラレ平城嵯峨淳和ノ三朝ハ使聘中絶シ仁明ノ朝（一四九四）藤原常嗣ヲ大使トシ小野篁ヲ副トシ遣ハサル（篁ハ不平ノコトアリ往カス）此後文德清和陽成光孝ノ四朝ハ又中絶ス宇多ノ朝（一五五四）菅原道眞ヲ大使トシ將ニ派遣セラレントス偶々在唐ナリシ僧中瓘唐朝兵亂ノ由ヲ告ケ來ル道眞依テ奏上シ之ヲ止ム遣唐使ノ擧是ニ至リテ廢絶ス後幾モナク醍醐朝ノ延喜四年唐主昭宗亂臣朱全忠ニ弑セラレ唐亡ブ唐朝廿帝二百八十九年間遣唐使ノ擧凡十二回ニ及ベリ

(一九五) **粟田眞人ノ傳君子國ノ稱**

大寶元年（一三五七）眞人執節使トナリ唐ニ使スル時ニ則天武后朝ニ臨ミ一時唐室ヲ傾ケテ國ヲ周ト號セシノ時ナリ眞人博學ニシテ進止儀容アリ武后之ヲ麟德殿ニ宴ス唐人贊歎シテ曰ク海東ニ大倭國アリ君子國ト稱ス人民豐樂禮義敦厚ナリト今使臣ヲ見ルニ眞ニ然リ蓬萊ノ仙鄉羨ムベシト本邦ノ名聲ヲ異邦ニ博スルコト古來此ノ如シ

(一九六) **遣唐使發遣ノ制及絶交ノ結果**

先ッ四ノ舶トテ造舶使ニ命シテ舶四艘ヲ造ラシム舶ニハ各々名ヲ命ズ大使一行ハ萬里ノ波濤ヲ犯シ生死亦知ルベカラザルヲ以テ特ニ優勞シ位ヲ進メ物ヲ賜ヒ幣帛ヲ天神地祇ニ奉リテ途次ノ平安ヲ祈ル無事歸朝スルトキハ又優シテ位ヲ進

メ物ヲ賜ハルコト差等アリ其乘舶ニモ位ヲ授ケ冠ヲ賜フ實ニ一代ノ盛事タリ然トモ風波ノ險寇賊ノ害及疾疫等ノ爲メニ使命ヲ畢リ歸朝スルニ及ヒテハ一行ノ半ヲ減ズルニ至ル故ニ遣唐ノ使命ヲ蒙ルトキハ萬死ヲ期セザルヲ得ズ其失費モ亦莫大ナリ然ルニ彼ノ朝已ニ衰ヘテ制度文物紊亂スルニ及ヒテハ何ノ得ル所ナクシテ失得相償ハス是遣眞ノ建白シテ廢止セシ所以ナリ此廢絕ノ結果ハ却テ國學ノ發達ヲ促シ漢學偏重ノ弊ヲ和クニ至レリ

（一九七）菅原道眞ノ出自

菅原氏ハ天穗日命ノ裔野見宿禰ヨリ出ツ初土師氏ト稱シ未タ顯ハレザリシニ光仁ノ朝古人菅原氏ヲ賜ハル其子淸公ハ文章博士トナリ淸公ノ子是善ニ至リテ參議トナル代々令德アリ是善ノ子ヲ道眞トナス道眞宇多帝ノ知遇ヲ受ケ遂ニ大ニ擢用セラル古來儒家ヨリ出テヽ大臣トナリシモノ前ニ吉備眞備アリ後ニ道眞アルノミ而シテ延喜ノ寃罪ハ實ニ世ノ悲シム所トス

（一九八）延喜天曆前後ノ文學

弘仁前後ヨリ引續キ此時代ニ至ルモ文學ハ益々隆盛ヲ致セリ都良香（仁明朝ノ人）菅原文時（天曆朝ノ人）等ハ經學詩文ノ大家ニシテ在原業平紀有常（共ニ文德朝ノ人）紀貫之、凡河內躬恒（共ニ延喜朝ノ人）等ハ國文和歌ノ大家ト稱セラル然トモ當時ハ尙漢學偏重ノ傾キアリテ假名文ハ婦女子ノ業トシテ卑シメ公文ニハ曾テ用ヰス男子ハ之ヲ作ルヲ屑トス遂ニ國文ハ女流ノ手ニ歸シ一條帝ノ御世ニ至リテハ實ニ平安朝國文學ノ盛時ニシテ紫式部淸少納言赤染衛門泉式部伊勢大輔ノ如キ才女輩出シ頗著述ニ富ム就中紫式部ノ源氏物語淸少納言ノ枕草紙ノ如キハ文藻富贍今ニ至ルモ國文ノ模範トスル所ナリ

（一九九）八代集ノ撰著

延喜ノ朝大內記紀友則御書所預紀貫之等古今和歌集ノ始トス自後歷代絕ヘス村上ノ朝ニ後撰集アリ一條ノ朝ニ拾遺集アリ白河ノ朝ニ後拾遺集アリ崇德ヨリ土御門ノ朝マデニ金葉集詞花集千載集新古今集成ル之ヲ八代集ト稱ス

（二〇〇）紀貫之ノ傳

貫之書ヲ能クシ最和歌ニ長ス延長中歷進シテ大監物右京亮ニ拜シ土佐守トナル承平中任滿チテ歸京シ從四位下木工權頭トナルニ及ヒテ大ニ古今和歌集ヲ撰シ貫之序ヲ作ル後又土佐國ヨリ歸任スルヤ假名文ヲ以テ土佐日記ヲ著ハシ國文ノ眞價ヲ世ニ發揮セシカウチミツチ）壬生忠岑等ト敕ヲ奉シテ古今和歌集ヲ撰シ貫之序ヲ作ル後又萬葉集秒五卷新撰和歌集ヲ撰ス此等ノ著ハ今日猶歌人ノ愛誦スル所トス當時ハ漢文學偏重ノ世ニシテ世人未ダ國文學ノ何物タルヲ解セズ貫之之レヲ慨嘆シ其土佐國ヨリ歸任スルヤ假名文ヲ以テ土佐日記ヲ著ハシ國文ノ眞價ヲ世ニ發揮セリ後人貫之ヲ推シテ國文學者ノ祖宗トス

（二〇一）書ノ三筆三蹟

嵯峨天皇僧空海橘逸勢ヲ三筆ト稱シ小野道風藤原佐理藤原行成ヲ三蹟ト稱ス

（二〇二）延喜天曆ノ治

醍醐帝ハ精ヲ勵マシ治ヲ求メ三善清行ノ封事ヲ嘉納セラレシコトアリ又寒夜御衣ヲ脫シテ民ノ疾苦ヲ憐ミ給ヒシコトアリ後ニ村上帝ハ老吏ノ言ヲ聽キ延喜ノ昔ニ比シテ益々治道ヲ講シ給ヒシカバ天下泰平ナリ後世延喜天曆ヲ併稱シテ史上ノ美談トナス然トモ藤原氏ノ跋扈ハ日ニ甚シク忠良ノ臣ハ皆排斥セラレ莊園ノ弊次第ニ甚シク朝租ハ毎ニ乏ヲ告グ諸國ニハ群盜ノ橫行スルアルモ國司ハ之ヲ征スル能ハズ天下太平ハ皮相ノ外觀ニシテ實ハ他日ノ大亂ヲ釀成スルニ至レリ

(二〇三) 主殿寮(トノモ)率分堂ノ說明

老吏村上帝ニ奉答セシ言ニ主殿寮多ク松明ヲ費シ率分堂草生ズ云々トアリ主殿ハ即殿守ニシテ宮殿洒掃ノコトヨリ松明炭燎等ノ雜事ヲ司ル役所ナリ率分堂ハ大藏省收租ノ中ヨリ十分ノ二ヲ率分シテ輸シ來ル稅ヲ收ムル所ニシテ宮城中ニアリ言ハ事繁多ニシテ租入少ナク人民ノ疲困知ルベキヲ云フナリ

(二〇四) 荒鎭燒尾ノ解

延喜前後ニ至リテハ京紳ノ驕奢益々甚シク京ノ內外近畿ノ勝地ニハ貴紳ノ別莊相望ミ詩歌管絃ノ興洋々相和ス從テ風俗ノ頽廢倫常ノ腐敗モ甚シク諸司ノ下輩ニ至ルマデ亦漸ク之ニ化シ群飮佚遊ノ弊益々長シ新任ノ人アルトキハ强迫シテ飮食ヲ求メ之ヲ荒鎭又ハ燒尾ト稱シ亂醉度ナク飽カザレバ止マズ若シ約ニ違ヘバ紛爭止マズ

(二〇五) 莊園ノ起源及其弊害

莊園トハ田莊園池ノ類ニシテ初メハ人々自ラ荒地ヲ開拓シテ領有セシヨリ起レリ其起因ハ一ナラス墾田ヲ開拓者ニ賜フハ元正ノ朝ニ始マリ聖武ノ朝ニハ子孫永久ニ之ヲ傳ヘシメタリ又功田賜田並ニ神社佛寺ノ寄附田ヨリ起ルモアリ元來公租免除ノ地ナルヲ以テ地方ノ豪族其遺利ヲ獨占シ後ニハ京紳ト結托シテ所有ノ地ヲ權門勢家ニ獻ジ莊園ト號シ自ラ其莊ノ領家即支配人トナリ公租ヲ遁ルヽコトヲ計ルモノ多シ故ニ莊園ハ日ニ多ク公租ハ日ニ減耗ス是實ニ天下ヲ紊亂スルノ大源因トナリシモノナリ

(二〇六) 武門武士ノ興起

初メ桓武帝以來封戶ノ費ヲ省カンガ爲メニ諸皇子ニ姓ヲ賜ヒテ人臣ニ列シ給フコト起レリ嵯峨帝以後殊ニ多シ其一族繁衍シテ諸國ニ散在セリ元來貴種ナルガ故地方人ノ尊仰スル所トナリ遂ニ土着シテ田地ヲ占有シ其他ヲ領スル大ナル者ヲ大名ト云ヒ小ナル者ヲ小名ト云フ是後世諸侯ヲ大小名ト稱スルノ起ナリ(最初ハ土地ヲ開墾スルモノ我名ヲ其地ニ命ジ名田トイヒ其所有主ヲ名主ト呼べリ)此等ノ豪族ハ皆家子郎黨ヲ養ヒ兵馬ヲ馴練シ漸ク勢力アリ然ルニ京紳ハ華奢淫逸ニ陷キリ天下事アレバ是等ノ豪族ニ依賴スルノ止ムヲ得ザルニ至レリ是武門武士ノ興起スル所以トス就中桓武平氏ト淸和源氏トハ後竟ニ大ニ顯ハル

(二〇七) 承平天慶ノ亂源及結果

將門ハ陸奧守平良將ノ第二子ニシテ桓武平氏ノ貴種タリ然ルニ攝政忠平ニ仕ヘテ檢非違使タランコトヲ求メテ納ラレズ之レ實ニ天慶ノ亂源トス當時藤原氏ノ

專權ハ累積シテ門閥政治ト化シ其一門ニアラザレバ材藝アルモ排斥シテ要職ニ登ラシメズ將門貴種ヲ以テ一ノ檢非違使ヲ得ズ憤慨亂ヲナスノ一源ナリ朝憲日ニ紊レテ浮浪遊食ノ徒日ニ多ク天下ニ事アルヲ望ムモノ多シ是亦亂源ノ一トス朝紳迂闊淫逸ニシテ兵事ヲ解セズ武人ヲ以テ賤隷視シ兵事ニ意ヲ勞スルモノナシ是亦亂源ノ一トス而シテ其結果ハ實ニ大ナルモノアリ武門武士ノ發達ヲ促シ後世封建ノ素養ヲ作ルニ至ル

(二〇八) 藤原氏權力衰滅ノ要素

第一門閥ノ弊上下ヲ疎隔シ賢能ノ進路ヲ杜絶セシコト第二文弱ノ弊ニ陷キリシコト第三驕奢淫逸ノコト第四兵馬ニ意ヲ用ヒズ其結果地方豪族ノ手裡ニ此ノ大權ヲ移シテ顧ミザリシコト第五骨肉ノ爭鬩止ム時ナク倫常ノ道破壞ノ極ニ達セシコト等ハ其衰滅ノ要素ナリトス

(二〇九) 藤原實資ノ傳

藤原氏一族專恣ヲ極メ君臣ノ義父子ノ倫地ヲ掃フガ如キノ際ニ當リ獨リ凜然節ヲ守リ鯁直ヲ以テ美名ヲ史上ニ留ムルノ人ヲ大納言實資トナス實資ハ實賴ノ孫ニシテ齊敏ノ子ナリ初三條帝女御藤原娍子(スウコ)ヲ皇后トス然ルニ其冊立ハ關白道長ノ本意ニアラズ(道長ノ女妍子ハ中宮タリ)朝臣道長ニ阿諛シ冊立ノ大典ニ參朝スルモノナシ獨リ實資朝會ニ列シ祝賀ヲ奉ル後一條ノ朝刀伊ノ賊入寇ス藤原隆家等之ヲ擊退シテ功アリ朝廷私兵ヲ發スルトナシ賞ヲ與ヘザラントス實資之ヲ爭ヒ終ニ賞ヲ與フ其正義剛直概ネ此類ナリ

(二一〇) 女院及中宮及門院號ノ起リ

圓融帝ノ后藤原詮子(太府兼家ノ女)ヲ東三條院ト稱ス之ヲ女院號ノ始トス次デ一條帝ノ中宮藤原彰子(攝政道長ノ女)ヲ上東門院トイフ是門院號ノ始ナリ中宮トハモト三宮ノ總稱ナリシヲ延喜以降ハ唯皇后ノ別稱トナリ一條帝以來ハ皇后中宮並立スルコトモアリテ大ニ名分ヲ紊ルニ至レリ

(二一一) 刀伊ノ賊

後一條朝ノ寬仁三年(一六七九)刀伊ノ賊壹岐對馬ヲ犯シ人民ヲ虜ニシ財物ヲ掠メ進ミテ筑前ニ寇ス太宰權帥藤原隆家大藏ノ種材等之ヲ擊退ス刀伊ハ又刀夷トモ書ス上古ニ於テ肅愼又靺鞨ト呼ヒ後世女眞又女直ト稱セリ今ノ遼東ノ地ナリ此役ハ後ノ弘安ノ役ト共ニ外國來襲ノ二大戰ト謂フベク隆家種材等ノ勳功ハ時宗實政ニ讓ルル所ナシ

(二一二) 長元ノ亂

後一條朝ノ長元元年(一六八八)前上總介平忠常反ス忠常ハ鎭守府將軍良文ノ孫ナリ二總ノ地ニ盤踞シ貢賦庸役ヲ輸サズ遂ニ兵ヲ擧ケ上總ノ國府ヲ陷レ安房ヲ侵シ其國守ヲ殺ス朝廷檢非違使平直方等ヲシテ之ヲ討セシム三年功ナシ因テ甲斐守源賴信ニ勅シテ之ヲ討タシメ直方等ヲ召還ス長元四年賴信忠常ヲ討平ス清和源氏ノ權之ヨリ坂東ニ輝ク

(二一三) 前九年ノ役

長元亂後數十年ヲ經テ冷泉ノ天喜四年(一七一六)陸奥ノ豪族安部賴時叛ス安

部氏ハ大彦命ノ裔ニシテ父祖數代陸奥ニ居リ蝦夷俘囚ノ長タリ頼時ニ至リ益々強大トナリ朝命ヲ奉セザレトモ國司等制スル能ハズ朝廷源頼信ノ子頼義ヲ陸奥守兼鎮守府將軍トナシ坂東ノ兵ヲ發シ之ヲ討ズ頼時ハ戰死シケルモ其子貞任能ク戰ヒ官軍屢々利ヲ失フ頼義援ヲ出羽ノ俘囚長清原武則ニ求メ終ニ貞任ヲ厨川柵ニ誅ス此役頼義ノ武名ヲ以テスラ尚九年ノ苦戰ヲ費セリ故ニ之ヲ前九年役ト稱ス

（三四）**夷俘ト俘囚トノ別**　初蝦夷ノ豪強ナリシ頃王師ノ討伐ヲ受ケ皇化ニ歸服シ内地ニ移サレシ者ヲ夷俘ト稱シ王民ノ蝦夷ニ略セラレテ夷地ニ在リ遂ニ賤隷トナリシ者ヲ俘囚ト云フ俘囚ノ族陸奥出羽ニ散在シ俘囚長アリテ之ヲ統率セリ阿部氏清原氏ノ如キハ即浮囚ノ長ナリ

（三五）**後三年ノ役**　前九年ノ役ヲ去ルコト廿餘年堀河ノ朝清原武衡家衡ノ亂アリ初武則頼義ヲ援ケシ功ニヨリ鎮守府將軍トナリ傳ヘテ孫眞衡ニ至ル時ニ其異母弟家衡叔父武衡眞衡ト隙アリ相攻伐シ陸羽ノ地大ニ亂ル時ニ頼義ノ子義家陸奥守タリ家衡等ノ無狀ヲ怒リ眞衡ヲ助ケテ家衡武衡ヲ攻ム三年ヲ閲シテ之ヲ平定スルヲ得タリ依テ後三年ノ役ト稱ス

（三六）**坂東ハ清和源氏ノ根據地トナリシ理由**　長元ノ亂ニ源頼信豪強ナル平忠常ヲ討平シテ威信ヲ坂東諸國ニ布キ其子頼義其孫義家前九後三ノ兩役ニ相續キテ勳功ヲ東國ニ立ッ累代ノ威名既ニ固シ義家後三年役ノ如キ朝議目スルニ私闘ヲ以テシ恩賞ナシ義家止ムヲ得ス私財ヲ擲チテ將士ヲ賞セリ故ニ坂東ノ士益々其恩義ヲ感シ多クハ其家人ト稱シ源氏ヲ慕フコトハ朝廷ヲ思フヨリモ過キタリ異日頼朝流竄ノ身ヲ以テ起リ坂東ヲ根據トシテ覇府ヲ開クニ至リシハ決シテ偶然ニハアラザルナリ

（三七）**後三條天皇帝權ノ振張藤原氏ノ失權**　天慶亂後再三ノ兵戰ニ實權已ニ武門ニ歸シ藤原氏ハ虚勢ヲ保ツノミ後三條帝ハ後朱雀第二ノ皇子ニシテ母ハ三條帝ノ皇女陽明門院ナレバ藤原氏ノ出ニアラズ加之ナラズ御性剛健嚴明ニシテ深ク藤原氏ノ專恣ヲ抑制セントノ御志アリ記錄所ヲ設ケテ政事ヲ親ラシ公領ヲ增サンガ爲メ莊園兼併ノ弊ヲ矯メ國司重任ノ害ヲ正シ給フ此等ノ改革ヲ英斷セラルヽニ當リ關白頼通ヲ譴責セラレシコトアリ藤氏一門皆屏息ス次テ頼通ハ宇治ニ退隱シ其弟敎通關白トナリシモ唯々員ニ備ハルノミ然ルニ御在位四年ニシテ位ヲ讓リ尋テ崩シ給フ頼通スラ嘆シテ曰ク國家ノ大不幸ナリト

（三八）**延久ノ宣旨升**　後三條帝ハ政事ノ改革ノミナラス諸制ノ改新モ甚ダ多シ就中升法ヲ定メラレ親ラ簾竹ヲ抽キ截リテ準トナシ新量ヲ製ス後世遵用シテ延久（當時ノ年號）ノ宣旨升ト稱セリ

（三九）**春日大明神ノ由來**

奈良ノ春日村ニアリ藤原氏ノ氏神ニシテ其祖天兒屋根命ヲ奉祀ス

(三二〇) **院宣政治**

院トハ法皇ノ御所ニシテ宣ハ宣旨ナリ故ニ院宣トハ法皇ノ敕旨トイフコトナリ院宣政治ハ白河法皇ニ始マル天皇御讓位後政ヲ院中ニ聽クコト四十餘年院中ニ院司ヲ置キ別當以下ノ官職ヲ設クルコト略禁中ニ同シ又上下北面ノ武士ヲ置キ護衛ニ供ス此後鳥羽後白河後鳥羽ノ諸帝相繼キテ流例トナリシコト百三十餘年大臣關白ハ員ニ備ハリ天子ハ垂拱スルノミ天下ノ形勢一變ス

(三二一) **上下ノ北面及西面ノ武士**

武士ガ院ノ北面ノ曹司ニ伺候シ御幸行アルトキハ弓矢ヲ負ヒテ護衛スルヲ北面トイフ其五位ナルヲ上北面六位ナルヲ下北面トイフ西面ハ後鳥羽上皇ノ時置カレシモノニシテ北面ノ下位ニアリ材藝抜群ニシテ始メテ北面ニ補スルコトヲ得ルナリ

(三二二) **成功ノ弊**

成功トハ造宮造寺又ハ臨時ノ公費ヲ要スルトキ私財ヲ献納シ其功ニヨリ任官セラルヽヲ云フ賣官ト略同シ是等ノ弊ハ延喜以後朝憲紊レテ莊園天下ニ洽ネク國庫空乏セシヨリ起レリ

(三二三) **僧兵ノ始及其強暴**

奈良平安朝初ハ高僧多ク出テ佛敎隆盛ヲ極メタレトモ平安朝ノ中頃ヨリ僧徒恩ニ狃レ漸ク粗暴ノ行ヲナスニ至レリ當時寺領廣大且高利ヲ貪ホリ米穀金錢ヲ貸附クルガ故ニ寺院ハ概ネ富有ナリ故ニ數千ノ僧兵ヲ畜フルモ其費ニ苦マズ始メテ僧兵ヲ置キシハ延曆寺ノ座主良源トス(冷泉朝ノ人)其後園城寺(今ノ三井寺)及奈良ノ東大興福二寺ノ如キ爭テ無賴ノ徒ヲ集メテ僧兵トナシ爭鬪ヲ事トス延曆寺ノ僧兵日吉神輿(比叡山ノ麓ニアリ傳敎大師開山ノ時天台守護トシテ大物主神ヲ祭リシモノナリ)ヲ奉シ興福寺亦春日ノ神木(春日大明神ノ神体トシテ尊崇スル神木ナリ)ヲ動カシ京中ヲ横行スルトキハ禁闕宿衛ノ士モ北面ノ武士モ殆ント其處置ニ困ム白河上皇嘗テ嘆シテ宣ハク天下朕ノ意ノ如クナラザルモノハ双六ノ采ト加茂川ノ水ト(年々漲溢シテ京坊ヲ害ス故ニ喩フ)山法師(延曆寺ノ僧ヲ云フ)ノミト

(三二四) **保元ノ亂及其結果**

鳥羽帝位ヲ崇德帝ニ讓リテ後院中政ヲ決スルコト白河法皇ノ如シ上皇崇德ヲ愛セズ遂ニ迫リテ位ヲ寵妃美福門院ノ出ナル體仁(ミヒト)ニ讓ラシム近衛帝是ナリ偶々帝早世ス美福以テ崇德ノ咒詛トナシ關白忠通ト謀リ鳥羽ニ勸メテ雅仁(崇德ノ弟)ヲ立ツ後白河帝是ナリ崇德上皇不平ナリ保元元年(一八一六)鳥羽法皇崩スルヤ崇德上皇遂ニ忠通ノ弟ナル賴長ト謀リテ兵ヲ擧グ源爲義(義家ノ孫)其子爲朝平忠政等之ニ應ス天皇亦忠通ト議シ兵ヲ召ス源義朝(爲義ノ子)平清盛(忠盛ノ子忠正ノ姪)源賴政等之ニ應ス然トモ上皇ノ軍利ナク賴長戰死シ上皇ハ讃岐ニ遷サル此亂ホド古來人倫ノ亂レシモノアラズ上皇ト天皇トハ御兄弟ニシテ忠通ト賴長モ兄弟ノ爭ヒナリ爲義ト義朝トハ父子ニシテ清盛ト忠正トハ叔姪ナリ然ルニ忠正ハ清盛ニ刑セラレ爲義ハ義朝ニ殺サルヽニ至リテハ人倫ノ壞頽

ヲ嘆セザルモノアランヤ弘仁中(一四七〇)仲成ヲ誅セシヨリ朝臣ノ死刑ヲ絶ツコト三百四十餘年此ニ至リ藤原通憲ノ議ニ依リ又酷刑ヲ加フ此亂ノ結果トシテ天下ノ實權ハ源平二氏ノ手ニ落チ義朝ハ左馬頭ニ拜セラレ昇殿ヲ聽サレ清盛ハ安藝及播磨ノ太守ヨリ太宰太貳ニ進メリ

(三五) 平治ノ亂及其結果

保元酷刑ノ處置ハ多ク後白河帝乳母ノ夫ナル藤原通憲ノ意ニ出ツ通憲博學宏才アリ落髮信西ト號ス後白河位ヲ二條ニ讓リ院中政ヲ決スルニ及ヒ益々專恣事ヲ用フ藤原信賴モ亦上皇ニ寵アリ近衛大將タランコトヲ求メ信西ニ妨ゲラレテ得ズ之ヲ恨ム時ニ清盛姻ヲ信西ニ結ビテ(清盛ノ女ヲ信西ノ子成範ノ妻トス)權勢義朝ノ上ニ出ツ是ニ於テ信賴義朝相結托シ時機ヲ待ツ平治元年(一八一九)清盛熊野ニ詣ルニ人之レニ乘シ帝及上皇ヲ幽シ信西ヲ殺ス清盛變ヲ聞キ途ヨリ還リ義朝ヲ破リ信賴ヲ斬ル義朝再擧ヲ謀リ尾張ニ至リ長田忠致(タヾムネ)ニ殺サル義朝ノ次子賴朝捕ヘラレシガ清盛ノ繼母池尼ノ請ニ依リ死一等ヲ減シ伊豆ニ流サレ庶子牛若(義經)亦死ヲ免カレ鞍馬ニ入ル兩虎野ニ戰ヘバ必ズ死ス此亂ニ依リ全勝ヲ占メタルヲ平氏トナス其結果トシテ藤原氏攝關ノ權源氏兵馬ノ權悉ク平氏ノ手ニ落ツルニ至レリ

(三六) 朝服並ニ修飾風ノ變遷

鳥羽法皇華美ヲ好ム時ニ左大臣源有仁亦好ミテ容貌ヲ修ム後ノ强裝束(コワシヤウゾク)及有額ノ烏帽子並ニ朝紳ノ粉黛染齒ノ風皆玆ニ基ヅク

(三七) 平氏ノ全盛

清盛ハ貞盛七世ノ孫ニシテ父忠盛ハ白河以後ノ數朝ニ歷事シ殊ニ白河鳥羽ノ二上皇ニ寵遇セラレ漸ク家名ヲ顯ハシ以テ清盛ニ至レリ清盛時勢ヲ得テ藤原氏ニ代ハリ政兵ノ大權ヲ握ル實ニ稀有ノ事トス二條ノ朝ヲ經テ六條ノ朝ニ內大臣ヨリ從一位大政大臣ニ登リ薙髮淨海ト號ス高倉帝ハ實ニ其外孫ナリ長子重盛ハ內大臣トナリ次子宗盛ハ近衛大將トナル一門高官ニ任スルモノ六十餘人采邑天下ニ半ス時人尙慕シテ六波羅殿ト云フ清盛是ヨリ專恣ナリ重盛忠亮父ニ類セズ屢切諫セシヲ以テ其暴甚シカラリシガ重盛薨後其狂暴藤原氏モ一步ヲ讓ルニ至レリ遂ニ後白河法皇ヲ幽シ高倉帝ニ逼リ御位ヲ安德帝ニ讓ラシム驕ル平氏ノ久シカラザル皆此ニ存ズ

(三八) 治承ノ第一變

治承元年(一八三七)權中納言藤原成親近衛少將藤原成經檢非違使平康賴僧俊寬西光等平氏ヲ滅サント謀ル後白河法皇亦之ニ與ル偶々藏人源行綱ノ密告ニヨリ事露ル清盛西光ヲ斬リ成親以下ヲ流シ法皇ヲ幽セントス重盛ノ切諫ニヨリテ止ム之ヲ討平軍ノ第一擧トス

(三九) 治承ノ第二變(宇治ノ戰)

源賴政ハ賴光五世ノ孫ナリ武略ニ富ミ射ヲ能クス又和歌ニ巧ナリ深ク平氏ノ專恣ヲ憤リ之ヲ討滅セント企テ高倉帝ノ庶兄以仁王(モチヒト)ヲ勸メ其令旨ヲ以テ諸國ノ源氏ニ檄ス平氏之ヲ探知シ兵備整ハザルニ乘ジ急ニ賴政ヲ攻ム賴政之

ヲ宇治ニ防ギ敗死シ以仁王流矢ニ當リテ薨ズ時ニ治承四年（一八四〇）ナリ之ヲ討平軍ノ第二擧トス之ヨリ諸國ノ源氏大ニ起ル

（三二〇）平氏僧兵ヲ屈ス

以仁王ノ令旨ニ依リ賴朝ハ伊豆ニ起ッ富士川ノ勝アリ（清盛ノ嫡孫維盛ヲ破ル）義仲信濃ニ起リ諸源ヲ招致ス延曆園城ノ僧兵モ源氏ニ黨ス清盛大ニ怒リ子清房ヲ遣ハシ園城寺ヲ攻メテ之ヲ燒キ又清房ノ兄重衡モ兵ヲ以テ東大興福二寺ヲ燒キ悉ク其莊園財貨ヲ沒收ス初メ清盛ノ暴慢ナルモ南都（興福）北嶺（延曆）僧兵ノ暴ニハ加フルコト能ハズ遂ニ一時福原（今ノ神戸）遷都ノコトアリ其僧兵ヲ嫌惡スルヤ久シ是ニ至リテ意ヲ決シテ之ヲ剿討ス

（三二一）東西二帝ノ異例

壽永二年（一八四三）平氏ノ一族安德帝及神器ヲ擁シテ西海ニ奔ルヤ京師主ナシ法皇右大臣月輪兼實ノ議ヲ用井高倉ノ皇子尊成ヲ立ッ後鳥羽帝是ナリ神器授受ノ典ナシ京師ニテハ元曆ト改元シ平氏ハ尚壽永ノ號ヲ用井一時ニ東西二帝アリ實ニ古今ノ異例タリ史家辨別シテ正位閏位トス後百五十年ヲ經テ延元中南北分レテ兩統トナルコト此ニ基セリ

（三二三）義仲ノ出自及敗死

義仲ハ爲義ノ孫ナリ父義賢姪義平ニ殺サルヽヤ木曾ノ山中ニ養フ長スルニ及ヒ大志アリ以仁王ノ令旨至ルミ中原兼遠ニ囑シテ木曾ノ山中ニ養フ長スルニ及ヒ兵ヲ擧ク所在ノ源氏響應シ連戰平軍ヲ破リ遂ニ平氏一族ヲ西海ニ奔ラシメ京師ニ入ル法皇之ヲ優待ス義仲是ヨリ漸ク驕肆ナリ法皇之ヲ厭ヒ賴朝ヲ召ス義仲素ト賴朝ト隙アリ大ニ怒リ暴行益々甚シ遂ニ法皇ニ迫リテ賴朝追討ノ院宣ヲ乞ヒ征夷大將軍ニ任ゼラル賴朝之ヲ聞キ二弟範賴義經ヲシテ義仲ヲ討ス義仲義經ヲ宇治ニ範賴ヲ勢田ニ防キタレトモ利アラズ近江ノ粟津ニテ戰死セリ

（三二三）平氏ノ滅亡

平氏擧族西海ニ奔ルヤ行宮ヲ屋島（讃岐）ニ立テ四國中國ヲ從ヘ進ミテ攝津ノ一ノ谷ニ築キ勢復振フ範賴義經義仲ヲ破リ勢ニ乘ノ來リ攻ム義經間道ヨリ城背ニ出テ火ヲ放ツ城陷キリ死スルモノ多シ平氏安德帝ヲ奉シ再ヒ屋島ニ遁ル義經追擊之ヲ破ル平軍遂ニ長門ノ壇浦ニ遁ル義經究追シテ大ニ戰フ平軍大敗シ安德帝二位尼ト共ニ沈ミ擧族之ニ殉ス此役神璽神鏡ハ全キヲ得タレトモ神劍ハ遂ニ之ヲ失フ（崇神ノ朝摸造セシモノ）時ニ千八百四十五年壽永四年ナリ清盛大政ニ參セシヨリ二代廿餘年ニシテ亡ブ後盲人性佛平家節ヲ作リ榮枯盛衰ノ無情ヲ悲シム

關東ト西國ト源平二氏トノ關係

（三二四）關東ト西國ト源平二氏ト、平氏ハ其先正盛以來多クハ西國ノ國守タリ正盛ハ伊勢因幡讃岐但馬等ノ國守トナリ堀河ノ朝源義親ヲ出雲ニ討チテ勇武ヲ中國ニ布ク其子忠盛ハ播磨伊勢備前等ノ國守トナリ崇德ノ朝ニ山陽南海ノ海賊ヲ剿討シテ益々曉名ヲ著ハシ其子清盛ニ至リテハ安藝播磨肥後ノ國守ヲ經テ大宰大貳トナリ一族及累代恩顧ノ士多クハ西國ニアリ源氏ハ之ニ反シ賴信ハ陸奥甲斐美濃等ノ國守及上野常陸ノ介ヲ經テ鎭守府將軍トナリ長元ノ戰ニ威信ヲ坂東ニ布キ其子賴義ハ相摸武藏下野陸

奥ノ守トナリ前九年ノ大功アリ其子義家ハ相武信野及陸奥等ノ守トナリ後三年ノ大勝アリ一族子弟關東ニ蕃殖シ累代眷顧ノ士皆之ニ居ル平氏ハ西ニ據リ源氏ハ東ニ起ル偶然ニハアラザルナリ

第五編　近古史之部

（鎌倉幕府ヨリ徳川幕府ノ末マテ凡六百八十餘年間ノ事歴）

（三三五）鎌倉幕府ノ創立

頼朝ハ平治ノ亂後蛭ケ島ニ二十餘年ヲ過ゴシシガ治承四年八月石橋山ニ旗擧セシヨリ三ケ月ヲ經ザル間ニ坂東ヲ徇ヘ其ノ十二月館ヲ鎌倉ニ營ミ和田義盛ヲ別當トシ朝廷ノ政務家ナル大江廣元三善康信中原親能ヲ招聘シテ紀元千八百四十四年壽永三年公文所問注所ヲ開設ス鎌倉ノ號令是ニ於テ法紀アリト云フベシ

（三三六）鎌倉創幕時代ト支那及西洋トノ時代ノ比較

源頼朝ノ征夷大將軍ニ拜セシハ本朝後鳥羽天皇ノ建久三年（紀元一八五二）ニシテ支那ニテハ南宋ノ光宗ノ代ニ當リ有名ナル學者朱熹ノ生存中ニシテ內ハ黨人ノ爭ヒアリ外ハ金人ノ入寇ニ苦ムノ時代ナリ又西洋ニテハ耶蘇紀元千百九十年頃ニシテ各國ノ帝王十字軍ニ熱中シ伊太利ノ「ウヱニス」。「ゼノア」ノ諸港ハ最モ交通盛大ノ頃ナリキ

（三三七）頼朝鎌倉ヲ根據トセシ所以

關東八ケ國ハ源家ノ舊封地ニシテ累代恩顧ノ將士多ク且鎌倉ハ尤モ形勢ノ地タルヲ以テ幕府ヲ此處ニ定ム初メ千葉常胤頼朝ノ安房ニアリシ片相模ノ鎌倉ハ祖先ノ緣アリ且要害ノ地タルヲ以テ此處ニ遷ランコトヲ建議セシニヨレリ

（三三八）頼朝ノ施政

諸國ノ源平二氏互ニ軍糧ヲ督發シタル爲百姓流離困乏シテ慘狀甚ダシク又諸國ノ莊園モ削ラレ官物モ劫略セラレ朝廷ノ用度モ不足ヲ告グルニ至リシカバ後白河法皇頼朝ニ命ジ東山東海ノ田莊ヲ還納セシメラル頼朝百姓ノ爲ニ寬恕ヲ乞ヒ秋穫ノ時迄期ヲ延バサンコトヲ乞ヘリ又梶原景時ヲ近畿諸國ノ追捕使トシテ土地ノ處分ヲナサシメ大江廣元ノ建議ヲ用ヒテ諸國平均ニ守護ヲ置キ莊園鄕保ニ地頭ヲ置キ自ラ總地頭トナリ畿內以西ノ諸國ヨリ段別ニ米五升ヲ出サシメテ兵糧トナシ朝廷ニハ議奏ヲ置キ大番ヲシテ京都ヲ守護セシメタリコレヨリ國司ノ權ハ守護ニ移レリ頼朝敬神崇佛ノ念深ク社寺ノミハ守護地頭ノ制ヲ受ケシメズ武人ノ亂暴ヲ禁ジ守護不入ノ地トナシタリ

（三三九）鎌倉幕府ノ組織

幕府ノ組織ハ鎌倉ニ政所問注所侍所ヲ置キ頼朝之ヲ統管シ地方ニハ守護地頭ヲ置キテ國郡ノ武事ヲ主ラシム

政所ハ內外ノ機務ヲ總ベ政令ヲ執行スル處ニシテ職員ニハ執權連署別當等アリ北條時政ヲ執事トシ大江廣元ヲ別當トス

問注所ハ訴訟ヲ裁判スル所ニテ長官ヲ執事ト云ヒ三善康信ヲ以テ之ニ任ジ寄人奉行等ノ職員ヲ置ク

侍所（サムライトコロ）ハ將士ヲ指揮シ非違ヲ檢斷スル所ニシテ長官ヲ別當ト云

ヒ和田義盛ヲ以テ之ニ任ジ其ノ下ニ所司開闔寄人等アリ政令簡易ニシテ法ヲ施ス嚴明當時ノ民情ニ適シ上下悅服ス

(二四〇) 守護地頭ノ職掌

守護ハ初メ追捕使ト稱セシモノニテ一國ニ一人ヲ置キ盜賊追捕及大番ヲ督使スルノ職ナリシガ後ニハ租稅ヲ收斂シテ威權ヲ張ルニ至リ民政ニモ干渉スルニ至レリ

地頭ハ莊國ノ盛ナリシ頃ニハ田地ヨリ收稅スル役人ナリシガ賴朝ハ家人ヲ以テ之ニ補シ軍糧ヲ徵收スル職トナセリ

(二四一) 賴朝奧羽九州ノ經略

賴朝ハ性猜忌ナリシカバ義經ノ告ゲズシテ任官シ且專恣ナルヲ惡ミテ鎌倉ニ入ルヲ許サズ後之ヲ殺サントセリ義經ハ都ヲ逃レ陸奧ニ走リテ藤原秀衡ニヨレリ秀衡ハ義經ヲ優遇セシガ幾何モナク秀衡病死シ子泰衡嗣キ父ノ遺命ニ負キ義經ヲ殺シ、ガ賴朝ハ其累世奧羽ニ割據シテ鎌倉ノ號令ニ從ハザルヲ以テ元曆二年七月諸將ヲ率キテ泰衡ヲ征シ陸奧出羽ヲ平定シ葛西清重ヲシテ國ヲ治メシム是ヨリ先中國四國ハ已ニ定マリシカド西國ニハ尙平氏ノ殘黨アリテ服從セザリシカバ仝元曆二年北條時政ヲシテ京師ヲ守ラシメ天野遠景ヲ鎭西奉行トシテ鎭西ヲ理メシメ惟宗忠久ヲ日向大隅薩摩ノ守護トス遠景命ヲ奉ジテ鬼界島ヲ征セリ是ニ至リテ東北及九州平定シ武威仝國ニ輝カケリ紀元千八百五十年建久三年征夷大將軍ニ任セラレタリ

(二四二) 賴朝範賴ヲ殺セシ所以

賴朝富士野ニ獵セシ時曾我祐成時致兄弟父ノ讎工藤祐經ヲ殺シ賴朝ノ幕下ニ迫リシカバ營中擾動シ賴朝害ニ遇フトノ風說アリシカバ事鎌倉ニ傳ハリ政子之ヲ聞テ悲ンミシニ範賴慰メテ曰ク範賴アリ幸ニ心ヲ勞スル勿レト賴朝ハ疑心深キ性ナリシ故之ヲ聞キテ益々之ヲ嫉メリ範賴大ニ恐レ異志ナキヲ誓フト屢々ナリシガ賴朝許サズシテ伊豆ニ幽閉シ後遂ニ之ヲ殺サシム

(二四三) 北條時政ノ出自及女婿計

北條時政ハ平貞盛七世ノ孫ニシテ賴朝ノ外舅タルヲ以テ皆之ヲ重ンジテ北條殿ト稱セリ賴朝薨ジ賴家立ツニ及ビテ時政大江廣元等十三人ハ庶政ヲ參決セシガ中ニモ北條時政ノ威權獨リ盛ナリ賴家病メル時弟實朝ニ關西三十八ケ國ノ地頭職ヲ賴家ノ子一幡ニ關東二十八國ノ地頭職ヲ分チ與ヘンコトヲ謀リケレバ賴家ノ舅比企能員之ヲ聞キ時政ヲ除カントセシガ事露ハレテ能員ハ滅サレタリ時政因テ賴家ヲ幽シ實朝ヲ立テ、政所ノ別當トナシ己レノ女婿平賀朝雅ヲ將軍ニ立テント企テ子義時ノ爲メニ幽セラレタリ

(二四四) 鎌倉武士風ノ一斑

賴朝常ニ京縉懦弱ノ風アルヲ慨シ武辨ノ風ヲ養成セン志アリ依テ武田小笠原ノ諸氏ヲ用ヒテ弓馬放鷹ノ技藝ヲ練習セシメテ龜忽尾籠ヲ戒メ卑怯未練ヲ恥ヂ質素儉約ヲ重ンジテ武力ヲ養ヒ主從ノ恩義ヲ重ンジ名節ヲ以テ相磨勵セシメ死ヲ輕ンジ失策アルヤハ刑ノ加ラザルニ先ッ自盡シテ罪ヲ謝スル等後世ノ所謂ル武

士道ナルモノハ此頃ヨリゾ傳リケル

(三四五) 大番ノ說明

賴朝諸國ノ守護地頭ヨリ御家人ヲ促シテ番役ニ從ハシム番役ノ士ハ其一族ノ總領ヲシテ引率セシムルヲ番頭ト云フ古ヘハ在京三ケ年ナリシガ賴朝ニ至リテ六ケ月トナシタリ大番ハ蓋古衛士ノ遺風ナリ武家ノ職掌トシテハ最モ緊要ノ公事タリト貞永式目東鑑等ニ載セタリ即チ京師ノ警衛ヲナス職掌タリ

(三四六) 源實朝ノ事蹟

實朝ハ賴朝ノ第二子ニシテ賴家ノ弟ナリ資性温雅ニシテ衆心ヲ得タリ北條氏ノ跋扈ヲ怒リ皇室ノ衰頽ヲ慨嘆シテ「山は裂け海はあせなん世なりとも君に二心我あらめやも」ノ歌ヲ上リタルコトアリキ承久元年正月鎌倉鶴ケ岡八幡宮ニ拜賀ノ禮ヲ行ヒシ時賴家ノ子公曉ノ爲ニ弑セラレタリ發スルニ臨ミテ「出てゝいなばぬしなき宿となりぬとも軒端の梅よ春を忘るな」ト云フ一首ノ歌ヲ詠セラレタリ初公曉其父賴家ノ殺サレタルヲ憤リ實朝ヲ殺シテ讎ヲ報セント志スコト久シ此ニ至リテ事ニ及ブコレ義時ノ指嗾セシ奸計ナリキ源氏ノ正統遂ニ絕エ北條氏ノ世トナリヌ

(三四七) 和田義盛擧兵ノ顚末

和田義盛ハ侍所ノ別當トナリ源氏ノ元勳トシテ其名一世ニ高カリシガ北條氏ノ爲ニ滅ボサレタリ其次第ヲ述ヘンニ順德天皇ノ建保元年五月信濃ノ人泉親衡賴家ノ子千壽丸ヲ擁シ義時ヲ滅サンコトヲ謀ル和田義盛ノ子義直義重及姪胤長等亦之ニ與ス事露ハレテ捕ラル時ニ義盛上總ニアリシガ走リ歸リ己ガ功勞ニ依リ二子ノ罪ヲ宥サレンコトヲ乞ヒシカバ釋サレヌ義盛又姪胤長ノ爲ニ乞ヒシガ義時其ノ倔强ヲ惡ミテ胤長ヲ縛シテ更ニ義盛ノ前ヲ過ギシメテ後之ヲ吏ニ屬セシカバ義盛大ニ怨ミ兵ヲ擧ケテ幕府ヲ圍ム北條泰時等防戰シテ大ニ義盛ノ軍ヲ敗レリ義盛ノ一族自殺シ和田氏亡ブ

(三四八) 源氏ノ興亡

源氏ハ清和天皇ノ皇胤貞純親王ヨリ出ヅ親王ノ子六孫王經基藤原純友ノ亂ヲ平ケシ功ヲ以テ源氏ノ姓ヲ賜ハル世々軍功アリテ威名東國ニ振ヘリ平治ノ亂後平氏ト權ヲ爭ヒテ一敗殆ンド亡ビントセシガ賴政ニ至リ以仁王ノ令旨ヲ奉ジテ兵ヲ擧ゲシヨリ諸國ノ源氏爭ヒ起リ賴政ハ亂軍ノ中ニ戰死セシガ賴朝ノ擧兵以來頻リニ功ヲ奏シ遂ニ平氏ヲ亡ボシ幕府ヲ鎌倉ニ立ツルニ至レリ賴朝ハ文治元年總追捕使トナリ建久三年征夷大將軍トナリ二者通ジテ在職十五年齡五十三ニシテ死シ子賴家建仁二年征夷大將軍トナリ在職僅カニ二年齡二十二ニシテ殺サレ實朝ハ建仁三年征夷大將軍トナリ在職十七年齡二十八ニシテ承久元年千八百七十九年ニ公曉ノ爲ニ殺サレ源氏亡ビタリ三代三十五年間ナリ

(三四九) 承久ノ變

後鳥羽上皇ハ武家ノ政權ヲ掌握セシヲ憤リ給ヒシガ源氏亡ビテ後北條氏又モヤ專橫ヲ極メテ皇威ノ日ニ衰フルヲ慨歎セラレ常ニ回復ノ御志アリ土御門天皇ヲシテ位ヲ順德天皇ニ讓ラシメ諸國ノ武士ヲ召シテ北面西面ノ武士ヲ置キ刀工ヲ

召シテ刀劍ヲ鍛錬セシメ時機ノ至ルヲ待チタマヘリ北條氏ノ勢益盛ナルヲ見テ叡慮愈平ラカナラザリケル折信濃ノ人仁科盛遠ヲ擢テ、西面ノ武士トナス盛遠喜ヒテ京ニ留マル北條義時之ヲ聞キ其ノ所領ヲ沒ス上皇還シ與フベキ院宣ヲ下サレタリシカド義時從ハザリキ又上皇白拍子龜菊ニ攝津ノ長江倉橋ノ兩莊ヲ賜ヒシニ其地頭龜菊ヲ侮慢セシヲ以テ上皇其地頭職ヲ免スベキヲ仰セラレタレド義時亦命ヲ奉ゼザリシカバ是ニ於テ上皇大ニ怒リ義時追討ノ事ヲ決セリ時ニ關東ノ家人ニテ大番役ヲ務ムル三浦胤義京ニアリ義時ヲ怨ムルコトアリテ任滿ツルモ歸ラズ上皇共ニ謀リテ院宣ヲ諸國ニ下シ勤王ノ兵ヲ集メ給フ義時之ヲ聞キ政子廣元等ト議シ泰時時房等ヲシテ兵十九万ヲ師井テ西上セシム官軍美濃尾張宇治勢多等ニ防ギ戰ヒシガ悉トク敗ラレ泰時京師ニ入レリ三上皇ハ延曆寺ニ行幸アリ院宣ヲ下シテ此度ノ事ハ公卿ノ爲ス處ナル旨ヲ述ベラル泰時乃チ公卿六人ヲ殺シ後鳥羽上皇ヲ隱岐ニ遷シ仲恭天皇ヲ廢シ土御門上皇ヲ土佐ニ順德上皇ヲ佐渡ニ遷シ後堀河天皇ヲ立ツ時ニ承久三年之ヲ承久ノ亂ト云フ

（二五〇）兩六波羅府ノ職權

義時承久ノ亂後名ヲ禁裡警衛ニ籍リテ時變ニ備ヘントシ泰時ハ六波羅ノ北方ニ居リ時房ハ南方ニ居リ京畿及關西ノ政務ヲ總管セシム之ヲ兩六波羅探題ト稱シ北條氏ノ世職トナレリ此ニモ評定衆引付頭等人ノ職ヲ置キ鎌倉ニ準ゼリ蓋シ名ハ京師警衛ナリト雖モ實ハ朝廷ヲ制セン爲メナリ

（二五一）貞永式目編成ノ沿革

後堀河天皇ノ元仁元年北條義時卒シテ泰時執權トナリ在職十八年間頗ブル治蹟アリキ貞永元年紀元千八百九十二年三善康連矢野倫重佐藤業時齊藤長定等ト議シ法橋圓全筆ヲ執リ式目五十一條ヲ定メタリ此式目ハ御成敗式目トモ云ヒテ武家法度ノ準トナリタリ當時ノ刑ニハ禁獄追放流罪死罪召禁改易永不召仕等ノ目アリ賤者ニハ片鬢剃リ面ニ燒印ヲ押ス等ノ刑ヲ行ヒキ

（二五二）北條時賴及青砥藤綱

泰時ノ孫時賴職ヲ襲ギ心ヲ政務ニ盡セリ時賴禪ヲ信ジ最明寺入道ト稱シ執權職ヲ子時宗ニ讓リ自ラ諸國ヲ行脚シテ民ノ疾苦ヲ問ヒシガ風化大ニ行ハレタリ其在職中ハ青砥藤綱ヲ擧ゲテ訟訴ヲ掌ラシメタリシカバ奸吏跡ヲ收メ寃枉ナク民大ニ喜ヘリ

（二五三）貞永式目ノ要點

式目ノ要點ヲ述ベンニ敬神崇佛ヲ首トシ皇室ヲ尊ビ守護ハ國司ノ職ヲ犯スベカラズ地頭ハ本所ノ命ニ背カザラシム賴朝以來ノ恩賞地ノ賣買ヲ禁ズ所領相續ノ法ヲ設ケ文書僞造ノ罪ヲ定メ人ノ妻妾ヲ姦スル等不義ノモノハ所領ヲ沒收シ其他殺害及傷詐欺等ヲナスモノヽ刑法等五十一條アリ

（二五四）蒙古ノ興起及支那沿革

蒙古ハ一ニ韃靼ト號シ後ニ元ト改稱セリ宋ノ寧宗我土御門天皇ノ御代鉄木眞ト云フモノ起リテ四隣ヲ壓シ幹難河上ニ於テ帝位ニ即キ成吉思汗可ト號シ金ヲ滅ボシ中央亞細亞東印度魯西亞波蘭匈牙利ヲ征シ轉ジテ宋ニ迫ル孫忽必烈ニ至リ

遂ニ宋ヲ滅シテ國ヲ元ト號シ支那ヲ一統シ更ニ海外諸國ヲ征服スルノ志アリ是ヨリ先キ唐ノ時我國ニテハ遣唐使及留學生ヲ派シテ頻ニ其文物ヲ學バシメシガ五代ノ時天下紛亂セシカバ菅原ノ道眞ノ上書ニヨリテ遣唐使ヲ廢シタルヲ以テ支那トノ交通ハ一時斷絶セシガ尚南方諸國トハ常ニ船舶ノ往來スルアルヲ以テ遊學ノ僧侶モ少ナカラズ宋神宗ノ時僧侶ヲシテ我國ニ修交ヲ求メシカド我國答ヘザリキ元世祖朝鮮ヲ介シ使ヲ遣ハシテ我國ニ來ラシムルコト三度ナリシガ志ヲ得ザルヲ以テ遂ニ威嚇的ノ手段ヲ遂ケントスルニ至レリ

(二五五) 文永蒙古ノ役

紀元千九百二十九年文永三年元ノ兵郎待郎黑的禮部待郎殷弘等我國ニ來ラントシテ海路險惡ナル故ヲ以テ國ニ歸レリ仝五年高麗王潘阜元ノ牒狀ヲ持シテ筑前ニ來リシガ時宗其無禮ヲ以テ反牒セズ元更ニ趙良弼ヲ遣ハシ來リシガ我國報セズ其後屢々來リシモ常ニ使者ヲ追ヒ還セリ元主大ニ怒リ文永十一年十月高麗ノ船艦ヲシテ對馬ニ來リ冠セシム激戰數日守護代宗助國平景隆戰死セリ少貳經資九國ノ兵ヲ以テ防戰セシガ會風雨劇シク至リ賊船覆沒スルモノ多ク遂ニ逃レ去リヌ

(二五六) 弘安ノ役

次デ元ノ使者杜世忠等至リシガ時宗之ヲ鎌倉ニ斬リ北條實政ヲ鎭西探題トナシテ兵備ヲ嚴ニセシム弘安四年五月紀元千九百四十一年范文虎等十万ノ兵ヲ帥井テ壹岐對馬ニ寇シ進テ博多ニ迫レリ我軍ヨク戰ヒ勝敗未ダ決セズ河野通有竹崎季長等奮戰セリ七月晦日大風雨ニ乘ジテ少貳景資等掩擊シテ大ニ之ヲ敗レリ范文虎等僅ニ身ヲ以テ逃レタリ元主再擧ヲ圖リシガ其事遂ニ止ミタリ

(二五七) 鎌倉時代ノ文學

是ヨリ先キ保元平治壽永ノ大亂及承久ノ亂等天下ノ擾亂六十餘年ニ及ベルヲ以テ文學大ニ衰微シ僧侶ノ外ニハ文學アル人少ナク漢文ノ如キハ尤モ拙劣ナリシガ獨リ詠歌ノミハ詞藻ノ巧妙ナルコト大ニ見ルベキモノアリ北條實時ハ武藏金澤ノ稱名寺ニ住シ其子顯時ハ金澤文庫ヲ建テ和漢万卷ノ書ヲ蒐集セリ歌人ニハ藤原定家藤原兼實源通朝藤原爲世等アリ定家ハ一流ノ家風ヲ起シ後鳥羽帝ノ院宣ニヨリテ土御門天皇ノ御代ニ新古今和歌集ヲ撰シタリ其他新勅撰和歌集續後撰和歌集ヲ撰シタリ文章ニテハ信濃ノ前司行長ノ平家物語鴨長明ノ方丈記葉室時長ノ源平盛衰記阿佛尼ノ十六夜日記及辨內侍日記等世ニ著ハル

(二五八) 鎌倉時代ノ宗派

北條氏ハ罪業消滅ノ爲メニヤ最佛法ニ歸依スルニ至レリ義時モ祈禱ヲ行ヒ時賴モ建長寺ヲ營造シ時宗ハ圓覺寺ヲ建立セリ元寇ノ時諸國ノ寺院ニ於テ祈禱ヲ行フコト盛ンニシテ其費ハ遙ニ軍費ニ超過セリ元兵敗レテヨリ僧侶ノ傲橫益々盛ンニナリタリ此時代ハ佛敎史上新派ノ起リシ旺盛時代ト稱スベキナリ禪宗ニハ臨濟曹洞ノ二派アリ臨濟宗ハ後鳥羽天皇ノ時僧榮西ノ傳ヘシ所ニシテ曹洞宗ハ後堀河天皇ノ時道元ノ傳フル所ナリ高倉天皇ノ時ニ源空ハ淨土宗ヲ開キ其ノ弟子

遂ニ宋ヲ滅シテ國ヲ元ト號シ支那ヲ一統シ更ニ海外諸國ヲ征服スルノ志アリ是ヨリ先キ唐ノ時我國ニテハ遣唐使及留學生ヲ派シテ頻ニ其文物ヲ學バシメシガ五代ノ時天下紛亂セシカバ菅原ノ道眞ノ上書ニヨリテ遣唐使ヲ廢シタルヲ以テ支那トノ交通ハ一時斷絶セシガ尚南方諸國トハ常ニ船舶ノ往來スルアルヲ以テ遊學ノ僧侶モ少ナカラズ宋神宗ノ時僧侶ヲシテ我國ニ修交ヲ求メシカド我國答ヘザリキ元世祖朝鮮ヲ介シ使ヲ遣ハシテ我國ニ來ラシムルコト三度ナリシガ志ヲ得ザルヲ以テ遂ニ威嚇的ノ手段ヲ遂ケントスルニ至レリ

（三五五）文永蒙古ノ役

紀元千九百二十九年文永三年元ノ兵郎待郎黑的禮部待郎殷弘等我國ニ來ラントシテ海路險惡ナル故ヲ以テ國ニ歸レリ仝五年高麗王潘阜元ノ牒狀ヲ持シテ筑前ニ來リシガ時宗其無禮ヲ以テ反牒セズ元更ニ趙良弼ヲ遣ハシ來リシガ我國報セザリキ元主大ニ怒リ文永十一年十月高麗ノ船艦ヲシテ對馬ニ來リ冠セシム激戰數日守護代宗助國平景隆戰死セリ少貳經資九國ノ兵ヲ以テ防戰セシガ會風雨劇シク至リ賊船覆沒スルモノ多ク遂ニ逃レ去リヌ

（三五六）弘安ノ役

次デ元ノ使者杜世忠等至リシガ時宗之ヲ鎌倉ニ斬リ北條實政ヲ鎭西探題トナシテ兵備ヲ嚴ニセシム弘安四年五月紀元千九百四十一年范文虎等十萬ノ兵ヲ帥井テ壹岐對馬ニ寇シ進テ博多ニ迫レリ我軍ヨク戰ヒ勝敗未ダ決セズ河野通有竹崎季長等奮戰セリ七月晦日大風雨ニ乘ジテ少貳景資等掩擊シテ大ニ之ヲ敗レリ范文虎等僅ニ身ヲ以テ逃レタリ元主再擧ヲ圖リシガ其事遂ニ止ミタリ

（三五七）鎌倉時代ノ文學

是ヨリ先キ保元平治壽永ノ大亂及承久ノ亂等天下ノ擾亂六十餘年ニ及ベルヲ以テ文學大ニ衰微シ僧侶ノ外ニハ文學アル人少ナク漢文ノ如キハ尤モ拙劣ナリシガ獨リ詠歌ノミハ詞藻ノ巧妙ナルコト大ニ見ルベキモノアリ北條實時ハ武藏金澤ノ稱名寺ニ住シ其子顯時ハ金澤文庫ヲ建テ和漢万卷ノ書ヲ蒐集セリ歌人ニハ藤原定家藤原兼實源通朝藤原爲世等アリ定家ハ一流ノ家風ヲ起シ後鳥羽帝ノ院宣ニヨリテ土御門天皇ノ御代ニ新古今和歌集ヲ撰シタリ其他新勅撰和歌集續後撰和歌集ヲ撰シタリ文章ニテハ信濃ノ前司行長ノ平家物語鴨長明ノ方丈記葉室時長ノ源平盛衰記岡佛尼ノ十六夜日記及辨內侍日記等世ニ著ハル

（三五八）鎌倉時代ノ宗派

北條氏ハ罪業消滅ノ爲メニヤ最佛法ニ歸依スルニ至レリ義時モ祈禱ヲ行ヒ時賴モ建長寺ヲ營造シ時宗ハ圓覺寺ヲ建立セリ元寇ノ時諸國ノ寺院ニ於テ祈禱ヲ行フヿ盛ンニシテ其費ハ遙ニ軍費ニ超過セリ元兵敗レテヨリ僧侶ノ傲橫益々盛ンニナリタリ此時代ハ佛敎史上新派ノ起リシ旺盛時代ト稱スベキナリ禪宗ニハ臨濟曹洞ノ二派アリ臨濟宗ハ後鳥羽天皇ノ時僧榮西ノ傳ヘシ所ニシテ曹洞宗ハ後堀河天皇ノ時道元ノ傳フル所ナリ高倉天皇ノ時ニ源空ハ淨土宗ヲ開キ其ノ弟子

親鸞ハ後堀河天皇ノ時淨土眞宗ヲ創メ後深草天皇ノ時日蓮ハ日蓮宗ヲ唱ヘ後宇多天皇ノ時一遍ハ時宗ヲ創メタリ此等ノ新派ハ何レモ俗情ニ入リ易ク民間ニ普チク傳ハレリ就中禪宗ハ武士間ニ行ハレタリ

(二五九) 鎌倉時代ノ風俗

鎌倉ノ家屋ハ多ク板葺ニテ門ニ大門小門等アリ大門ヲ入リ中門ヲ過ギ對面所(客殿)ニ入ル構造ナリ僧榮西建仁寺ヲ建築セシ時玄關書院ナドヲ設ケタリコレハ宋風ニテ玄關ハモト寺ニノミアリ書院ニハ床ノ間アリテ佛畵ヲ掛ケ置キタルヨリ後ニハ常人ノ家ニモ此等ヲ設クルニ至レルナリ

女ハ打掛ヲ着シ道ヲ行クニ垂レ絹ツケタル笠ヲ被レリ武士ハ烏帽子直垂ヲ着シタリ

(二六〇) 犬追物、笠懸、流鏑馬(ヤブサメ)ノ說明

武士ハ綾藺笠ヲ被リ犬追物笠懸流鏑馬等ヲ常ノ遊ビトセリ、犬追物ハ馬場ニ犬ヲ放チ騎シテ犬ヲ射ル法ナリ笠懸トハ笠ヲ竿上ニ懸ケテ之ヲ射リシガ後ニハ皮ノ的ヲ用フルニ至レリ流鏑馬ハ馬上ニテ的ヲ射ル法ナリ此等ハ鎌倉時代ニ尤モ行ハレタリ

(二六一) 鎌倉時代ノ工藝

後堀河天皇ノ時僧道元留學ノ時陶工加藤四郎左衛門景正ナルモノ隨行シテ宋ニ至リ陶法ヲ學ビ歸朝ノ後業ヲ尾張國瀨戸村ニ開キタリ劍工ニハ粟田口吉光五郎入道正宗鄕義弘等アリ佛工ニハ鎌倉運慶湛慶ノ妙手アリ

(二六二) 鎌倉ノ七座

鎌倉時代ニハ絹の座(絹ヲ賣ル店)炭の座米の座檜物の座馬の座千朶積の座(荒物或ハ木綿類ヲ積ミタルナラン)相物の座(乾魚ノ問屋)ヲ七座ト云ヒテ賣買ヲナセリ座ハ物ヲ賣ル店ノコトナリ庭訓往來ニヨレバ鎌倉ノミナラズ諸國ニモアリシ樣ナリ

(二六三) 五攝家

北條氏ハ藤原氏ノ權ヲ分タン爲メニ攝政關白ノ職ニ補スル家ヲ五家ニ分テリ五家トハ近衛九條二條一條鷹司ヲ云フ

(二六四) 兩統迭立ノ次第

後嵯峨天皇ノ二皇子相次デ位ニ登リ給フ後深草天皇龜山天皇是ナリ後嵯峨上皇龜山天皇ヲ愛シ給ヒテ龜山天皇ノ子孫ニ皇位ヲ嗣カシメントシ給ヒ後深草天皇ニハ長講堂ノ御領ヲ授ケテ永ク皇位ノ望ヲ止メシメントシ給ヘリ後深草上皇ノ後ヲ持明院流ト申シ龜山上皇ノ後ヲ大覺寺統ト申セリ後嵯峨上皇崩スルノ後龜山上皇政ヲ決シタマヒ其長子後宇多天皇ノ即位スルニ及ビ後深草上皇大ニ不平ナリ遂ニ時ノ執權北條時宗ノ力ヲ籍リテ皇子伏見天皇ヲ位ニ即カシメタマフ龜山上皇又不平ナリ正應三年淺原爲賴ノ亂アリシヨリ龜山上皇ノ誓書ヲ作リテ申理セシメラレシニモ關ラズ此ヨリ以來龜山ノ統ハ立ツコトヲ得ズ持明院流ノ後伏見天皇位ニ即キ給フヤ大覺寺流ノ御宇多上皇大ニ怒リテ鎌倉ヲ責メ給ヒシヨリ北條貞時ハ兩統迭立ノ議ヲ定メ後二條天皇ハ大覺寺流ヨリ次ノ花園天皇ハ持

明院ヨリ立チ次ハ大覺寺流ノ後醍醐天皇即位シタマヘリカク皇權ヲ兩分シタルハ自家ノ安寧ヲ計ラン爲メノ北條氏ノ計ヒナリシカ遂ニ元弘ノ大亂ヲ釀シ益々皇室ノ衰頽ヲ來タスニ至レルゾ是非モナキ

(三六五) 元弘大亂ノ胚胎

承久ノ亂以後朝權益々衰ヘ幕府ハ皇位繼嗣ノ議ニ與リ九十八年間ニ十帝ヲ立テタリ元寇以來諸國ハ國防ニ疲レ守護地頭ノ權漸ク衰エ皇室ハ兩統相爭ヒ幕府ハ訴訟紛起シ遂ニ元弘ノ大亂トナリ南北分立ノ禍ヲ孕ムニ至レリ而シテ其遠因ハ實ニ安德後鳥羽二帝ノ東西ニ分立セシ時ニアリト謂フベシ

(三六六) 後醍醐天皇北條氏討伐ノ顚末

北條高時職ヲ繼ギ暴戾ニシテ酒宴ニ耽リ管領長崎高資恣ニ威福ヲ弄シ政刑ニ私多ク訟獄ニ賂ヲ貪ボリシカバ天下ノ人望ヲ失ヘリ元慶元年後醍醐天皇立ツ天資英邁ニシテ深ク皇威ノ衰エタルヲ慨シ給ヒ記錄所ヲ興シテ親政ヲ行ヒ給ヘリ會北條氏ノ政ヲ失ヒシヲ時トシテ中納言日野資朝右少辨俊基等ト結ビテ之ヲ亡ボサント謀リ給フ事露ハレテ資朝ハ流サレ俊基ハ鎌倉ニ送ラレ途ニテ斬ラレタリ高時怒リテ廢立ヲ行ハントセシガ天皇誓書ヲ賜ヒテ事ナキヲ得タリ

(三六七) 北條氏ノ滅亡

元弘元年高時廢立ヲ行ハントシ兵ヲ帥ヒテ京都ヲ犯カサントス後醍醐天皇ノ皇子護良親王諜シテ密ニ告ケ奉リシカバ天皇ハ神器ヲ奉ジテ大和ノ笠置山ニ幸シ給ヒ楠正成ヲ召シテ興復ノ事ヲ委ネ給フ已ニシテ笠置陷チリ天皇ハ隱岐ニ奉遷ス然ルニ正成ハ金剛山ノ孤城ニ據リテ義兵ヲ擧ケシカバ諸國勤王ノ士爭ヒ起リテ官軍ニ應ジ元弘三年五月新田義貞鎌倉ヲ攻メテ之ヲ陷チレ高時自殺シテ北條氏亡ブ

(三六八) 建武中興ノ政

天皇ハ侍臣源忠顯ト謀カニ伯耆ニ逃ル名和長年一族船上山ニ行宮ヲ造リテ護リ奉レリ此時勤王ノ士爭ヒ起レリ新田義貞ノ鎌倉ヲ亡ボセシ翌六月天皇京師ニ還幸シ給フ此ニ於テ光嚴院ヲ廢シ記錄所ヲ置キ訟獄ヲ掌ラシメ武者所ヲ置キ新田氏ヲ頭人トシ國司守護ヲ任シ建武ト改元シ貨幣ヲ造リ又諸國ニ課シテ大內裡ヲ造營セラレタリ正成義貞尊氏以下ノ將士ニ賞ヲ行ヒ給ヘリ中興ノ業成リテ以來武臣ハ功ニ誇リ朝臣ハ安逸ニ流レ政偏頗多シ藤原藤房諫メシカト用井ラレス三年ヲ出テズシテ中興ノ政衰フ

(三六九) 建武中興ノ功臣

元弘ノ亂ニ勤王ノ大義ヲ唱ヘ北條氏ヲ亡ボシ、功臣ヲ列擧スレハ楠正成新田義貞足利尊氏名和長年北畠顯家藤原藤房樓山茲俊兒島高德菊池武時大友氏土居通增得能通綱源忠顯竹原八郎赤松圓心阿蘇惟直結城宗廣等

(三七〇) 二房及後二房ノ事歷

後二房トハ北畠親房吉田定房萬里小路宣房ヲ云フ定房宣房ハ後醍醐天皇ノ好遇ヲ受ケタル人ニテ定房ハ後醍醐天皇ノ皇子タル時ヨリ仕ヘ奉リ伏見天皇ノ皇嗣ニ後二條ヲ立テ花園ノ皇嗣ニ後醍醐天皇ヲ立テタル時ニハ鎌倉ニ使ヒシテ大ニ

功アリ又典故ニ通ゼル宣房ハ有名ナル藤房ノ父ニテ天皇ヲ輔ケ奉レリ親房ハ博學強記ニシテ歴史ニ通セシ人ナリ昔シ後三條白河ノ御代ニ藤原伊房藤原爲房大江ノ匡房ノ三人博學ヲ以テ稱セラレ三房ト云ヘルニ對シテ後ノ三房ト云ヘルナリ

(二七一) 中先代ノ亂

北條高時ノ子時行父祖ノ業ヲ恢復セントテ兵ヲ信濃ニ擧ケテ頗フル盛ニシテ進ンテ鎌倉ヲ攻ム足利直義拒ク能ハス護良親王ヲ弑シテ西ニ走レリ尊氏依テ時行ヲ討チテ之ヲ敗レリ之ヲ中先代ノ亂ト云フ時ニ建武二年ナリ

(二七二) 足利尊氏謀叛ノ始末

足利氏ハ源義家ノ裔ニシテ族望強盛ナルヲ頼ミ北條氏ノ擅恣ヲ憤リ源家ヲ復セン爲ニ戈ヲ倒ニシテ六波羅ヲ陷レタリ新田義貞ハ足利氏ト同祖ヨリ出ツルモ族望大ナラズ鎌倉ヲ亡ボスノ後モ尊氏ノ聲望甚盛ナリキ尊氏天皇ノ殊遇ヲ幸トシテ巧ミニ諸國將士ヲ收攬シ護良親王ヲ讒ジテ鎌倉ニ幽シ義貞ノ勳功大ナルヲ猜ミテ之ヲ除カント企テタリ會々北條時行ノ亂アリ尊氏時行ヲ敗リ鎌倉ニ據リ自ラ征夷大將軍ト稱シテ義貞ヲ討セント奏請セシガ反跡明カナリシカバ天皇義貞ニ命ジテ東下シテ尊氏ヲ征セシム延元二年十一月東征ノ軍發ス是ニ於テ諸國ノ不平ノ武士輩爭ヒ起リテ尊氏ニ應ジ天下沸亂セリ

(二七三) 延元元年ノ大事件

延元元年正月尊氏大擧西上シ已ニ近江ニ至レリ是ニ於テ勢多、宇治、淀、山崎ノ激戰旬日ニ渡リ官軍退却シ尊氏京師ヲ犯シ内裡炎上セリ天皇叡山ニ幸シ給フ時ニ源顯家陸奥ヨリ攻メ上リシカバ義貞正成等ト力ヲ合セテ大ニ尊氏ヲ敗レリ二月十二日尊氏九州ニ奔ル天皇京ニ還幸アラセラレタリ三月菊池武敏阿蘇帷直秋月種貞等尊氏ト大ニ多良濱ニ戰ヒ阿蘇秋月ハ戰死シ菊池ハ筑後ニ退軍セシカバ尊氏ノ勢大ニ振ヘリ五月尊氏南海中國九州ノ兵ヲ擧ゲテ水陸ヨリ攻メ上リキ二十五日ニハ湊川ノ戰アリ楠正成戰死シ義貞ハ兵庫ニ敗レ賊軍京ニ入ル天皇再ヒ叡山ニ幸シ給フ六月京郊ニ激戰アリ名和長年戰死セリ八月光明帝立ツ建武ノ號ヲ用フ尊氏阿蘇社峯ヲ陷ル天皇權ニ和ヲ講ジ新田義貞ヲシテ尊良親王ヲ奉ジテ越前ニ赴キ再興ヲ謀ラシメ給フ十月天皇花山院ニ幽セラル尊氏幕府ヲ開ク十二月二十一日天皇神璽ヲ奉ジテ吉野ニ幸シ行宮ヲ造リテ恢復ヲ圖リ給フコレヨリ吉野ヲ南朝京師ヲ北朝ト稱シ五十有餘年ノ大戰爭トナレリ

(二七四) 新田一族ノ勳功

義貞ハ越前ニアリ皇太子尊良親王ヲ奉ジテ勤王ノ士ヲ募リシガ金ケ崎城陷リ親王ハ捕ヘラレ將士ハ自殺セリ延元三年七月義貞足利高經ヲ足羽ニ攻メ軍敗レテ戰死セリ其後弟脇屋義助ハ病死シ義興ハ足利基氏ノ爲ニ矢口ニ謀殺セラレタリ

(二七五) 建武式目ノ著者及要點

尊氏室町幕府ヲ開キ法制ハ鎌倉ノ制ヲ參酌シ日野藤範二階堂是圓等ニ命ジテ建

武式目ヲ定メシム其ノ要ハ儉約ヲ勸メ遊逸粗暴賄賂等ヲ禁ジ禮節廉恥ヲ重ンゼシムルニアリ

(二七六) 後醍醐天皇ノ御遺志

延元四年八月天皇吉野ノ行宮ニアリ位ヲ皇太子義良親王ニ讓リ給フ之ヲ後村上天皇ト申シ奉ル天皇御在位二十一年ノ長キ間心ヲ國事ニ惱マサセタマヒ北條氏ヲ亡シテ承久以來ノ遺志ヲ遂ケ給ヒ爲ニ屢危難ヲ冒シテ剛毅ノ御志益々固ク泰平僅カニシテ復ビ天下ノ大亂ニ遭遇シ給ヒ病革マルヤ諸皇子ニ遺詔シテ興復ノ事ヲ圖ラシメ慷慨劒ヲ按ジテ崩シ給フ天皇嘗テ朝政ノ宿弊ヲ理革シ給フ每ニ今ノ例ハ昔ノ新儀ニシテ朕ノ新儀ハ後世ノ例タルベシトゾ仰セラレケル

(二七七) 後醍醐天皇ノ諸皇子ノ事歷

天皇ニハ八人ノ皇子オハシマシキ今其ノ御名ト御事績ヲ述ベンニ第一子ヲ尊良親王ト申シ新田義貞ヲ從ヘテ越前ニ赴キ延元二年金崎城ニ於テ軍破レテ自殺シ給フ第二子ハ世良親王第三子ハ元弘ノ大難ヲ平定シ給ヒシ大塔宮護良親王ナリ第四子ヲ宗良親王ト申シ北畠顯家ヲ從ヘ伊勢ヨリ東海ノ諸國ニ下ラセラレテ勤王ノ士ヲ募リ恢復ヲ圖ラセ給ヒ詠歌ヲ以テ名高キ御方ナリ第五子ハ滿良親王ト申シ薙髮シテ僧トナリ元ニ渡ラセ給フ第六子ハ恒良親王ト申シ皇太子トナリ尊氏ノ爲ニ毒害セラレ給フ第七子ハ成良親王ト申シ北朝ノ東宮トナリ尊氏ノ爲ニ毒害セラレ給フ第八子ハ義良親王ニテ後村上天皇ト申シ人皇五十七代ノ皇位ヲ嗣カセ給フ御子ヲ懷良親王ト申シ征西將軍トナリ菊池氏ヲ從ヘ西海ニ勤王ノ軍ヲ督シ給ヘリ

(二七八) 南北朝ノ頃諸國ノ分爭

元弘以來諸國ノ豪族功ヲ立テ各領地ヲ擴ケントセシニ望ヲ達セザリシガ尊氏一タビ叛スルヤ此等ノ徒黨一齊ニ蜂起シ或ハ官軍ニ或ハ賊軍ニ附屬シ或ハ一族兩黨ニ分レ陽ニ敵トナリ陰ニ味方トナル等諸國ノ形勢紛々一ナラズ今其ノ主ナルモノヲ擧ゲンニ東國ニ於テハ斯波家長家兼石堂義房等ハ鎭守府ニ抗シ北畠顯家ハ義良親王ヲ奉シテ靈山ニ陣シ結城宗廣之ヲ護シテ東北ヲ爭ヒ常陸ノ佐竹氏ハ小田治久ト常陸ニ爭ヒ中國ニハ上野賴兼ト三隅信性ト長門石見ヲ爭ヒ南海ニハ細川皇海ト土居得能兩氏ト伊豫ニ爭ヒ西海ニハ一色範氏仁木義長小貳大友等ハ菊池武敏松浦貞等ト肥筑豊ノ諸國ニ爭ヒ畠山島津二氏ハ肝付伊藤等ノ諸氏ト日薩隅ヲ爭ヘリ

(二七九) 北畠親房

南朝ノ忠臣北畠親房ハ出デテハ將タリ入リテハ相トナリ王事ニ勤メシコト十有八年兵馬ノ間職原抄ヲ筆記シテ政務ノ考證ニ資シ神皇正統記ヲ著ハシテ皇統ノ正閏ヲ明ニシ勤王ノ志ヲ起サシメタリ

(二八〇) 四條隆資

四條隆資ハ後醍醐天皇ニ笠置ニ扈從シ又吉野ニ赴キ正平三年四條畷ノ戰ニ命ヲ奉ジテ正行ヲ助ケ後男山ニ戰死セリ

(二八一) 楠正行

楠正行ハ正成ノ子ニシテ父正成ノ遺命ヲ守リ後村上天皇ノ正平二年兵ヲ攝津ニ出シ細川顯氏山名時氏ノ軍ヲ破リ大ニ賊勢ヲ挫ゲリ正平三年尊氏高師直師泰ヲシテ兵八万ヲ帥キテ來リ攻ム是ニ於テ一族ヲ帥キテ行在ニ至リテ拜謁シ後醍醐天皇ノ廟ニ告別シ進ンデ四條畷(河内)ニ陣シ奮戰殆ンド師直ヲ獲ントセシガ賊軍四周シ全身創ヲ蒙リ進ム能ハズ終ニ弟正時ト相刺シテ死ス時ニ年二十二ナリ史家父正成ニ對シテ小楠公ト稱ス

(二八二) **五條賴元**

五條賴元ハ征西將軍懷良親王ヲ奉ジテ中ノ院谷山肝付諸族ト島津畠山ヲ攻メ正平十年ニハ肥前豊前豊後ヲ征服シ大宰府ヲ陷レタル等王事ニ勤メシ人ナリ明治ノ聖世ニ至リ其子孫ヲ華族ニ列セラレ男爵ヲ授ケラレタリ

(二八三) **筑後川ノ戰**

正平十三年(北朝延文三年)紀元二千〇十八年菊池武光少貳賴尚ト筑後河ニ戰ヒ大ニ之ヲ破リ鎭西ノ官軍大ニ振ヘリ賴山陽ノ下筑後川ノ詩ハ後人ヲシテ當時ノ戰況ヲ目擊スルノ感アラシム

(二八四) **南北朝文學者ノ事歷**

中興ノ英主後醍醐天皇ハ深ク學問ヲ好マセ給ヒ僧玄慧等ヲ召シ給ヒテ經史ヲ講セシメ給ヒキ皇族ノ方々ニテモ宗良親王ハ秀才ノ聞エ高ク國事ニ御奔走アラセラルヽ間歌詠ヲ廢シタマハザリキ、ト部兼好ハ有名ナル徒然草ノ著者ニシテ和歌ニ巧ミニシテ頓阿淨辨慶運ト共ニ和歌ノ四天王ト稱セラル花園法皇ハ風雅集ヲ撰シタマヒ後光嚴帝ハ新千載集新拾遺集ヲ撰セシメタマヘリ僧玄慧ハ大平記ノ著アリ或ハ小島法師ナリトモ云ヘリ洞院公賢ハ北朝ニ仕ヘ典故ニ通ジ圓大曆皇胤紹運綠、尊卑分脈等ノ著アリ師錬ハ元亨釋書ヲ著ハシ北畠親房ハ職原抄神皇正統記ヲ著ハセリ其他藤原藤房源忠顯菊池武時及豪邁ニシテ文武ノ才アリ笠置陷落ノ時後醍醐天皇ヲ扶ケ奉リ後捕ハレテ斃ゼシ大納言藤原師賢アリ赤松圓心細川和氏尊氏直義等モ文學ニ長ジタリ

(二八五) **御帝號中後深草、後小松、御柏原、後水尾、後西院五帝ハ何レモ前御稱ナクシテ後字ヲ冠ス其說明**

是ハ宮號陵號等ニ依リ別號アリシニ由ルナリ第五十代桓武帝ノ御陵ハ山城ノ柏原ナレバ柏原ノ帝ト別稱シ奉リ第五十三代淳和帝ハ御讓位後西院ニ居リ給フ故ニ西院ノ帝ト申シ奉リ第五十四代仁明帝ハ山城深草ニ御陵アルヲ以テ深草ノ帝ト申シ奉リ第五十六代清和帝ハ御讓位后丹波ノ水尾ニ居リ給フ故ニ水尾ノ帝ト申シ奉リ第五十八代光孝帝ハ儲宮ニアリシトキ小松ノ宮ニ居リ給ヒシニ依リ小松ノ帝ト稱シ奉レリ此理ニ依リ五天皇御號ニ後字アル所以ナリ

(二八六) **南北朝ノ統一**

紀元二千〇五十二年元中九年(北朝明德三年)足利義滿大內義弘ヲ南朝ニ遣ハシテ兩朝御和睦ノ事ヲ取計ラハシメ先ッ三種神器ヲ北朝ニ傳ヘ南朝ノ太子ヲ東宮ニ立テ以後兩統迭立ノコトヲ上奏シケレバ御龜山天皇天下ノ兵禍ニ苦ムヲ慮リテ之ヲ許シ給ヒ吉野ヨリ京師ニ還幸アリテ神器ヲ後小松天皇ニ傳ヘラル延元元

楠正行ハ正成ノ子ニシテ父正成ノ遺命ヲ守リ後村上天皇ノ正平二年兵ヲ攝津ニ出シ細川顯氏山名時氏ノ軍ヲ破リ大ニ賊勢ヲ挫ゲリ正平三年尊氏高師直師泰ヲシテ兵八万ヲ帥キテ來リ攻ム是ニ於テ一族ヲ帥キテ行在ニ至リテ拜謁シ後醍醐天皇ノ廟ニ告別シ進ンデ四條畷(河内)ニ陣シ奮戰殆ンド師直ヲ獲ントセシガ賊軍四周シ全身創ヲ蒙リ進ム能ハズ終ニ弟正時ト相刺シテ死ス時ニ年二十二ナリ史家父正成ニ對シテ小楠公ト稱ス

(二八二) **五條賴元**

五條賴元ハ征西將軍懷良親王ヲ奉ジテ中ノ院谷山肝付諸族ト島津畠山ヲ攻メ正平十年ニハ肥前豐前豐後ヲ征服シ大宰府ヲ陷レタル等王事ニ勤メシ人ナリ明治ノ聖世ニ至リ其子孫ヲ華族ニ列セラレ男爵ヲ授ケラレタリ

(二八三) **筑後川ノ戰**

正平十三年(北朝延文三年)紀元二千〇十八年菊池武光少貳賴尙ト筑後河ニ戰ヒ大ニ之ヲ破リ鎭西ノ官軍大ニ振ヘリ賴山陽ノ下筑後川ノ詩ハ後人ヲシテ當時ノ戰況ヲ目擊スルノ感アラシム

(二八四) **南北朝文學者ノ事歷**

中興ノ英主後醍醐天皇ハ深ク學問ヲ好マセ給ヒ僧玄慧等ヲ召シ給ヒテ經史ヲ講セシメ給ヒキ皇族ノ方々ニテモ宗良親王ハ秀才ノ聞エ高ク國事ニ御奔走アラセラルヽ間歌詠ヲ廢シタマハザリキ、ト部兼好ハ有名ナル徒然草ノ著者ニシテ和歌ニ巧ミニシテ頓阿淨辨慶運ト共ニ和歌ノ四天王ト稱セラル花園法皇ハ風雅集ヲ撰シタマヒ後光嚴帝ハ新千載集新拾遺集ヲ撰セシメタマヘリ僧玄慧ハ大平記ヲ著ハセリ或ハ小島法師ナリトモ云ヘリ洞院公賢ハ北朝ニ仕ヘ典故ニ通ジ圓大曆皇胤紹運綠、尊卑分脈等ノ著アリ師錬ハ元亨釋書ヲ著ハシ北畠親房ハ職原抄神皇正統記ヲ著ハセリ其他藤原藤房源忠顯菊池武時及豪邁ニシテ文武ノ才アリ笠置陷落ノ時後醍醐天皇ヲ扶ケ奉リ後捕ハレテ斃ゼシ大納言藤原師賢アリ赤松圓心細川和氏尊氏直義等モ文學ニ長ジタリ

(二八五) **御帝號中後深草、後小松、御柏原、後水尾、後西院五帝ハ何レモ前御稱ナクシテ後字ヲ冠ス其說明**

是ハ宮號陵號等ニ依リ別號アリシニ由ルナリ第五十代桓武帝ノ御陵ハ山城ノ柏原ナレバ柏原ノ帝ト別稱シ奉リ第五十三代淳和帝ハ御讓位後西院ニ居リ給フ故ニ西院ノ帝ト申シ奉リ第五十四代仁明帝ハ山城深草ニ御陵アルヲ以テ深草ノ帝ト申シ奉リ第五十六代淸和帝ハ御讓位后丹波ノ水尾ニ居リ給フ故ニ水尾ノ帝ト申シ奉リ第五十八代光孝帝ハ儲宮ニアリシトキ小松ノ宮ニ居リ給ヒシニ依リ小松ノ帝ト稱シ奉レリ此理ニ依リ五天皇御號ニ後字アル所以ナリ

(二八六) **南北朝ノ統一**

紀元二千〇五十二年元中九年(北朝明德三年)足利義滿大內義弘ヲ南朝ニ遣ハシテ兩朝御和睦ノ事ヲ取計ラハシメ先ッ三種神器ヲ北朝ニ傳ヘ南朝ノ太子ヲ東宮ニ立テ以後兩統迭立ノコトヲ上奏シケレバ御龜山天皇天下ノ兵禍ニ苦ムヲ慮リテ之ヲ許シ給ヒ吉野ヨリ京師ニ還幸アリテ神器ヲ後小松天皇ニ傳ヘラル延元元

年後醍醐天皇吉野ニ幸セラレシヨリ南北分爭五十七年ニシテ兩朝合一セリ

(二八七) 南北朝合一時代ト支那及西洋トノ時代比較

南朝後龜山天皇カ三神器ヲ北朝後小松天皇ニ傳ヘラレシハ元中九年（紀元二〇五二）ニシテ義滿將軍ノ全盛細川賴之ノ卒スル年ナリ支那ニテハ明ノ太祖洪武帝ノ二十五年ニ當リ高麗ノ李成桂自立シテ王トナリ更ニ國號ヲ朝鮮ト改メシ年ニ相當ス（現朝鮮國王ノ祖ナリ）又西曆ニテハ千三百九十二年ニ當リ即將ニ中代ヲ脫出シ封建ノ社會漸ク覆滅セラレ強盛ノ諸王國歐羅巴ニ起ラントスルノ頃ナリ

(二八八) 統一後諸國ノ形勢

南北朝合一ノ後モ關西ニハ猶征西大將軍良成親王ヲ奉スル菊池アリ關東ニハ新田小山ノ諸族等兵ヲ擧クルアレトモ幕府ハ近畿ノ靜穩ニ歸シタルヲ以テ意ニ介セス然レトモ此等ノ諸族モ漸次其勢ヲ失フニ至レリ

(二八九) 南朝遺臣ノ事歷

兩朝合一ノ後足利氏ハ兩統迭立ノ約ヲ踐マスシテ稱光天皇ヲ立テシカバ南朝ノ諸將憤慨シテ兵ヲ擧クルモノアリ後龜山上皇モ怒ラセ給ヒテ吉野ニ遜レ給ヒシカ已ニシテ京師ニ還幸セラレタリ稱光天皇嗣ナクシテ崩シ給ヒケレハ此度コソハト思ヒシ甲斐モナク足利氏ハ崇光帝ノ皇孫後花園帝ヲ立テタリ此ニ於テ南朝ノ遺臣楠某等後龜山天皇ノ皇孫小倉宮ノ皇子尊義王ヲ奉シテ兵ヲ擧ゲシガ戰破レテ親王以下害セラル其後尚宮方ヲ奉ジテ事ヲ擧ケシモノアリシガ足利氏ノ爲ニ平ケラレ南朝ノ皇胤遂ニ斷絕セリ

(二九〇) 足利義滿ノ專橫

應永元年（紀元二千六十四年）義滿從一位太政大臣ニ陞リ淳和奬學兩院ノ別當源氏ノ長者ニ補セラル是ニ於テ北山ニ金閣ヲ造リ薙髮シテ天山道義ト稱シ出入ノ儀衛上皇ニ擬シ公卿其門ニ伺候シ諸將畏服シケレバ驕慢甚シカリキ世ニ公方又室町殿ト稱ス

(二九一) 金閣

金閣ハ山城國葛野郡衣笠山ノ西麓ニアリテ世ニ金閣寺ト云ヒ三層ノ樓ニシテ牀牆戶牖金ヲ塗リ泉池ヲ設ケ麋鹿ヲ其ノ間ニ縱テリ此ノ建築ハ諸國ノ守護地頭ヲシテ人夫ヲ獻ゼシメテ造リタルモノニテ風流美麗ヲ極メタリ

(二九二) 義滿ノ外交

義滿ハ驕奢ニ耽リシヨリ國用不足ヲ告ゲシカバ使ヲ遣ハシ方物ヲ貢シ交通ヲ明ニ求メ明錢ヲ借リ又日本國王ノ封冊ヲ受ケ明使ヲ京師ニ迎ヘ大ニ優待シ又海賊ノ明ヲ侵スモノヲ捕ヘシメタリ

(二九三) 永樂錢ノ來歷

明ノ世祖ノ永樂年間ニ鑄造セルモノニシテ文ヲ永樂通寶ト云ヒ錢質良好ニシテ義滿ノ時ニ我國ニ渡リ爾來二百年間我國ノ流通貨幣トナレリ德川時代ノ稅ニ林永（山林ノ稅金ニテ永樂錢ヲ用ヒシニヨリテ云フ）又永何貫トアルニテ知ルベシ

(二九四) **南蠻船ノ由來**

南蠻ハ支那南部及南海諸島ノ總稱ニシテ西洋人ヲモ南蠻人ト稱セシナリ義滿ノ時南蠻船若狹國小濱ニ漂着セシカバ幕府船ヲ與ヘテ送リ還セリ此頃ヨリ南蠻船ノ我近海ニ出沒スルモノアルニ至レリ

(二九五) **義滿時代ノ朝鮮**

高麗漸ク衰ヘ其將李成珪國王ヲ廢シテ簒立シ明ノ許ヲ得テ國號ヲ朝鮮ト改メ陽(今ノ京城)ニ都セリコレ現今朝鮮國ノ太祖ニシテ明ノ洪武二十五年ニ當リ國ニテハ紀元二千五十二年南北兩朝合一ノ年ナリキ

(二九六) **義滿時代ノ支那**

明ノ太祖皇帝崩シ惠帝立チシガ黃子澄等漢ノ吳楚七國ノ叛セル例ヲ引キテ削藩ヲ計リシカバ叔父燕王棣黃子澄等ヲ誅スルヲ名トシ兵ヲ擧ケテ簒立セリ世祖皇帝是ナリ義滿ノ明ニ通ゼシハ其ノ即位ノ年(建文四年)ナレバ大ニ優待セラレ日本國王ニ封シ十年一聘スベヲ定メタリ

(二九七) **義滿ノ敬神崇佛**

義滿ハ石清水八幡宮ヲ崇神トシ崇敬厚ク北野神社ヲ修繕シ東寺延曆寺ノ講堂興福寺ノ金堂ヲ改造シ供養會ヲ行ヘリ殊ニ禪學ヲ好ミ高僧中津(夢想國師門弟)ニ政務ヲ問ヒ南禪寺住職靈見ノ爲ニ自ラ履ヲ執ルニ至ル有名ノ相國寺ハ義滿ノ建立スル所ニシテ其七層塔ハ天下ノ壯觀ヲ極メタリ

(二九八) **京都ノ五山**

五山ハ建仁、東福、南禪、天龍、相國、ノ五寺ニシテ天龍寺ハ疎石、相國寺ハ義滿ノ建ツル所ナリ

(二九九) **室町幕府ノ組織**

足利氏ノ制度ハ義滿ノ時ニ定レリ斯波畠山細川三氏ヲ管領トシ山名一色京極赤松四氏更々侍所別當トナリ(四職)其下ニ政所問注所評定衆引付衆唐船奉行寺社奉行恩賞奉行等ノ三十六奉行ノ諸職アリテ天下ノ政務ヲ處理シ武家故實ハ武田、小笠原、伊勢ノ諸氏掌ドリ法律ハ貞永式目ト建武式目トニヨレリ

(三〇〇) **足利時代ノ諸稅目**

朝廷幕府ノ費用ハ段錢トテ諸國ノ段別ニ課スルモノト國役トテ國々平均ニ課スルモノトヨリトレリ政所ノ用度ハ土倉稅ヲ課シ又地子錢棟別錢ノ賦課アリ關所ノ稅ハ寺社ノ費用ニ充ツ

(三〇一) **細川賴之ト今川貞世**

細川賴之ハ學ヲ好ミ禪ヲ崇ミ才略アリ義滿ノ養育ニ心ヲ盡クシ管領トナリテ義滿ヲ補佐シテ幕府ヲ改善シ今川貞世ハ鎭西探題トナリテ九州ヲ治メタリ足利氏ノ基礎ヲ定メシハ此二人ノ力多キニヨレリ

(三〇二) **應永蒙古ノ變**

應永二十六年蒙古朝鮮ノ船千餘艘對馬ニ寇スル鎭西探題澁川義俊等大ニ之ヲ破ル賊風雨ニ乘シ逃レ去レリ之ヲ應永蒙古ノ變ト稱ス

(三〇三) **關東管領ノ權勢**

初メ尊氏ノ幕府ヲ立ツルヤ鎌倉ハ關東重要ノ地ナレバ正平四年尊氏次男基氏ヲ鎌倉ノ主トシテ關東ノ事ヲ管領セシム基氏ハ上杉憲顯ヲ執事トシテ室町ニ倣ヒテ評定所引付衆問注所ヲ置キテ政務ヲトリ東國ノ諸侯時々伺候シ武威甚盛ナリ遂ニ室町將軍ト比肩シテ鎌倉公方ト稱スルニ至レリ

(三〇四) 兩上杉氏

基氏鎌倉ヲ鎭セシトキ年十歳ナリシヲ以テ尊氏上杉憲顯ヲ執事トシ之ヲ輔ケシム憲顯ハ尊氏ノ母方ノ從弟ナリ其後憲顯ノ一族分レテ山内、扇谷、犬懸ニ居ルニ上杉朝宗ノ子氏憲(薙髪シテ禪秀ト號ス)憲顯ノ曾孫憲基ト權ヲ爭ヒタリシカバ持氏ハ憲基ヲ助ケテ氏憲ヲ黜ケタリ氏憲怒リニ堪ヘズ時ニ持氏ノ叔父滿隆簒立ノ志アリシカバ相結ビ應永二十三年兵ヲ擧ゲ持氏ヲ破リテ弟持仲ヲ立ツ將軍義持今川範政ニ命ジテ之ヲ討タシム氏憲等自殺シ事平ラグ

(三〇五) 上杉禪秀ノ亂

基氏ノ孫滿兼ノ子持氏嗣ギテ立チシガ剛愎輕操ニシテ自カラ用ヒ將士服セズ時セリ

(三〇六) 上杉憲實

憲實ハ足利持氏(氏滿ノ孫)ノ管領トナリ武威頗盛ナリシガ將軍義持持氏ヲ嗣ナサントセシニ義持ノ薨後管領畠山滿家持氏ヲ忌ミ義敎ヲ將軍ニ立テケレバ持氏大ニ不平ナリ遂ニ兵ヲ擧ゲテ京師ヲ犯サントセシニ憲實苦諫シテ止ミキ持

氏又其子賢王丸元服ノ時京師ニ申報セザリシカバ憲實之ヲ諫メシニ持氏ハ反ツテ憲實ヲ殺サントセリ憲實病ト稱シ上野ニ走レリ將軍義敎兵ヲ遣ハシテ東下セシム持氏軍破レテ和ヲ乞フ憲實モ亦遣ヲ京師ニ馳セ持氏ノ罪ヲ宥サンコヲ乞ヒシガ義敎許サズ持氏自殺ス時ニ永享十一年正月(紀元二千九十九年)ナリ○憲實心ヲ文敎ニ留メ下野ノ足利學校ヲ修造シ明國ヨリ書ヲトリヨセ學田ヲ寄附セリ

(三〇七) 春王安王ノ變

永享十一年結城氏朝持氏ノ二孤春王安王ヲ奉シテ下總ノ古河城ニ據ル翌嘉吉元年將軍義敎上杉氏ニ命ジテ之ヲ伐タシム城陷キリ氏朝以下戰死シ春王安王ハ捕斬セラレ鎌倉家絶エ憲實ハ政ヲ弟清方ニ托シ僧トナリテ遁世ス關東ノ政遂ニ上杉氏ノ手ニ墜チタリ

(三〇八) 嘉吉ノ變

赤松則村尊氏ヲ助クルノ功多キヲ以テ攝、因、播、備、ノ守護職トナリ相傳ヘテ滿祐ニ至レリ時ニ族持貞義持ノ寵ヲ受ケ滿祐ノ所領ヲ奪ヒシカハ大ニ怒リテ白旗城ニ據リシガ後赦サレテ持貞ニ死ヲタマヘリ義敎將軍トナルヤ滿祐ノ惡ミ之ヲ恥シメタリ滿祐ノ妹義敎ノ寵ヲ受ケシガ旨ニ忤ヒテ殺サレタリ義持又滿祐ノ領地ヲ其子貞村ニ與ヘシカバ滿祐大ニ怒リ饗宴ノ日甲ヲ伏セテ義敎ヲ弑シ白旗城ニ據リシガ遂ニ誅セラレテ赤松氏亡ブ義敎性剛毅ニシテ大ニ幕府ノ威ヲ振ヒシガ功業半バナラズシテ害セラレタルハ惜ムベキナリ

(三〇九) **足利義政ノ奢侈**

義政將軍トナルニ及ビテ宴樂ニ耽リ大ニ第宅ヲ營ミ金壁燦爛美麗ヲ極メタリ高倉御所東山銀閣寺ハ數十万金ヲ費セリト云フ當時水旱兇荒連年餓死道ニ横ルモ義政以テ意トナサズ日夜聲色ニ溺レテ政ヲ見ザリシガ後花園天皇詩ヲ作リテ義政ヲ諷シ給ヘルニヨリ暫ラク土木ノ役ヲ罷メタリ

(三一〇) **足利時代ノ德政**

德政トハ負債ヲ償ハザルノ法令ナリ中古ノ頃ハ朝廷御仁政ノ一トシテ行ハセラレ調庸ノ逋負ヲ棄捐シテ貧民ヲ救フニアリキ然ルニ義政ノ時ニ至リ管領以下ノ輩奢侈ノ極豪富ヨリ金銀ヲ借リ返スニ道ナクシテ此法ヲ行ヒ以テ負債償還ノ義務ヲ除ケリ德政モ玆ニ至リテ暴政トナリ人民怨望足利氏ノ政紊レタリ

(三一一) **東山時代ノ美術工藝**

義滿以來ノ奢靡ニヨリ京師ノ工藝大ニ進ミ義政ノ時ニ至リ書畫器具漆器ノ中泥金梨子地、磨出、蒔繪及建築等ノ美術工藝ノ業益々盛ニナリ史上東山時代物ト稱シ後人ノ珍重スル所ナリ

(三一二) **兆殿司ノ略歷**

明兆ハ應永ノ頃ノ人ナリ京都東福寺ノ殿司トナルニヨリ兆殿司ノ號アリ氏ハ巨勢金岡ノ流ヲ汲ミ宋元ノ法ニヨリテ日本畫ノ風格ヲ一變シテ一家ヲナス殊ニ佛畫ニ巧ミニテ東福寺寶藏ノ涅槃大像ハ有名ノモノナリ

(三一三) **如拙、周文、雪舟、ノ略歷**

如拙周文共ニ後小松天皇ノ頃ノ人ニシテ共ニ宋元畫法ヲ學ビ殊ニ周文ハ夏珪牧溪ノ筆法ヲ學ビ雪舟ハ後花園帝ノ頃ノ人ニシテ明渡リテ文明元年歸國セシ有名ノ畫人ナリ

(三一四) **狩野古法眼元信**

狩野元信ハ正信ノ子ニシテ幕府ノ畫工トナリ法眼ノ僧官ニ任セラレタルヲ以テ世ニ古法眼ト稱シ狩野家ノ祖ナリ狩野ノ畫風ハ宋元明ノ畫風ヲ模倣シ倭畫ヲ改新シタルモノニシテ土佐畫ノ結構ヲトリ宗丹周文ノ粹ヲ含ミタル倭畫ト稱スベキモノナリ

(三一五) **土佐繪ノ沿革**

土佐繪ハ意匠ノ精緻彩色ノ濃麗ナルヲ以テ名アリ昔一條天皇ノ御代畫所預春日基光巨勢流ヨリ一家ヲ起シ子孫土佐守御繪所預ノ職ヲ嗣ギ名手多シ基光ノ曾孫高階隆兼ハ春日神社驗記二十卷ヲ畫キシ名手ニシテ基光十四代ノ孫光信ハ雪舟ト同時代ノ人ニシテ當時ノ名アル畫人ナリ

(三一六) **東山時代ノ文學者**

武家ノ文學ヲ度外視シタルノ時ニアタリテ文學ヲ一線ノ命脈ニ維持セシモノハ五山ノ僧徒ナリ然レドモ上杉憲實ノ足利學校ヲ興シタルカ如キハ著シキモノナリ今當時ノ學者ヲ擧グレバ花鳥餘情、文明一統記、公事根源、樵談治要、尺素往來ノ著書ヲ以テ有名ナル一條兼良(カネラ)アリ博識滑稽ニテ山姥(謠曲ノ名)ノ作者ナル一休和尚アリ拾芥抄ノ著ヲ以テ名高キ藤原實熙アリ吉田流ノ神道ヲ唱ヘシ

吉田兼倶アリ歌人ニハ宗祇及門人肖栢(春夢草ノ著者)飛鳥井雅世(新續古今集ノ撰者)アリ

(三七) 謠曲及淨瑠璃

謠曲ハ足利時代ノ音樂トモ云フベキモノニテ所謂武家ノ式樂トナリ武家ノ問ニ行ハレ禪僧等新曲ヲ作リ觀世金春寶生金剛ノ四座ニ別レタリ淨瑠璃節モ此ノ時代ヨリ初マレリ

(三八) 茶道及挿花

將軍義政珠光(奈良稱名寺ノ僧ナリ)ヲ招キテ茶道ヲ講ズ茶道此ニ起ル其後道耳、宗悟、紹鷗、利休、ノ輩相繼デ出ヅ世ニ茶道ヲ數寄ト云ヒ茶室ヲ數寄屋ト稱セリ當時民間ニモ喫茶大ニ行ハレタリト云フ挿花ニハ相阿彌アリ

(三九) 足利時代ノ風俗

服裝ハ當時武人ノ常服トナリシ素襖ノ袖ヲ取リタル肩衣ヲ着用セリ頭髪ハ武家ハ甲ヲ被フルヨリ逆上ヲ防グ爲ニ頭髪ヲ月廣ニ削レリ女子ハ垂髪ノモノ多シ外出ノ時ハ蒙布(カツギ)又ハ垂布(タレヌノ)ノ上ニ笠ヲカブレリ食物ハ米ヲ蒸シタルモノヲ常食トシ食事ハ三度トナレリ豆腐饅頭眞中羊羹モ此時代ヨリ用フルニ至レリ

(四〇) 椀飯(ワウハン)振舞ノ禮

毎年正月將軍三管領及赤松山名京極ノ第ニ臨ミテ饗應ヲ受ケラルヽモノニシテ武家ノ大饗禮タリ椀飯ハ今ノ世ノ料理ヲフルマフコトヲ古ヘハ椀飯ヲ設ルト云ヘリコレハ鎌倉時代ヨリ初マリ義滿ノ時其儀式定マリタルナリ

(四一) 應仁ノ亂ノ原因

(イ)將軍家ノ家督爭ヒ　義政子ナキヲ故出家セル弟義尋(義視)ヲ養子トシ細川勝元ヲ執事トシタリ然ルニ夫人富子義尚ヲ生ミシカバ夫人ハ山名宗全ニ託シテ將軍家ノ家督ヲ相續セシメンコヲ乞フ宗全畠山義就ヲ已カ仲間ニ入レタリ

(ロ)畠山氏繼嗣ノ爭ヒ　畠山持國嗣子ナキヲ以テ姪政長ヲ養子トス已ニシテ持國義就ヲ生ムニ及ビ政長ヲ廢セントス此ニ於テ義就政長相爭フ勝元ハ政長ヲ援ケテ家ヲ嗣ガシメ義就ヲ追ヘリ

(ハ)斯波氏繼嗣爭ヒ　斯波義敏義廉繼嗣ヲ爭フ

(ニ)細川勝元ハ赤松氏ノ再興ニ盡力シ宗全ハ之ニ反對シ此二人恨ヲ結ベリ

斯波畠山兩家ノ內亂ヨリ管領ノ權ハ細川勝元ノ掌握ニ歸セリ山名持豐(宗全)ハ細川氏ト勢力拮抗セリ細川勝元ハ義政ヲ助ケテ義敏政長ヲ立テ義視ヲ將軍ノ嗣トス而シテ夫人富子ハ宗全ニヨリ伊勢貞親ト謀リ義尚ヲ立テントス是ニ於テ義廉義就等宗全ニ依レリ兩黨ノ形勢益切迫セル時ニ當リ貞親義視ヲ義政ニ讒スルニヨリテ義政義視ヲ殺サントセシカバ京師兵ヲ動カシ宗全ハ細川黨ヲ排斥センコトセリ

(四二) 應仁東西兩軍ノ勢力ヲ比較セヨ

應仁元年正月政長義就兩黨京師ヲ爭フヲ以テ戰爭ノ破裂トス今兩軍ノ軍勢ヲ擧

ゲンニ東軍ハ細川勝元ヲ初メトシ兵十六万人西軍ハ宗全ヲ主領トシ兵十一万人ト稱セラレタリ

東軍、義政、義視、及細川政元(阿波參河)師春(備中)元春(和泉)政春(淡路)斯波義敏(越中)畠山政長(紀伊河内)京極持清(隱岐出雲飛彈近江)武田國信(安藝若狹)赤松政則(播磨備前美作)細川勝元(攝津丹波土佐讃岐)

西軍宗全(但馬播磨因幡)族敎幸(伯耆備前)敎清(美作石見)斯波義廉(越前尾張遠江)畠山義統(能登)義就(大和河内紀伊)六角高頼(近江)一色義直(丹波伊勢土佐)土岐成頼(美濃)

(三三) 應仁ノ亂ノ結果

細川勝元山名宗全死亡シ文明九年兩軍兵ヲ解ク京師戰場トナル十一年內裏及有名ノ大刹公卿ノ第宅歷朝ノ典籍寶物悉ト灰燼トナリ京師ノ衰替古今未曾有ナリ諸國ノ守護地頭互ニ封疆ヲ爭ヒ貢租ヲ納レズ天子將軍ノ威地ニ墜チ幕府ノ號令復行ハレズ諸將地ヲ爭ヒテ攻略シ群雄割據ノ兆ヲ呈セリ

(三四) 下剋上(カコクジヤウ)

當時幕府ハ陪臣ニ制セラレ尾大振ハズ下剋上ノ風甚シ下剋上トハ當時ノ通語ニシテ下ヨリ上ヲ凌グノ言ナリ天子ハ將軍ニ制セラレ將軍ハ管領ニ制セラレ管領守護又各其從臣ニ制セラレ諸國ノ內亂漸ク起ル

(三五) 持氏亡後ノ關東

關東ハ持氏亡ビテ上杉氏政ヲ執リケレドモ東人尙持氏ヲ慕ヘルヲ以テ持氏ノ遺子成氏諸侯ニ推サレテ鎌倉ノ主トナリ其執事憲忠ハ憲實ノ子ナリケレバ成氏先代ノ仇ヲ復セントテ憲忠ト戰フ數年ナリキ上杉氏京ニ乞ヒテ義政ノ弟政知ヲ關東公方トシタレドモ人心服セザリシカバ政知ハ伊豆ノ堀越ニ居リ堀越公方ト稱ス成氏ハ憲忠ヲ殺シ父ノ讐ヲ報ゼシカ後利アラズ文明十年上杉氏ト和シ下總ノ古河城ヲ有ツヲ得テ古河公方ト稱セリ

(三六) 關東ノ八將

古河公方ハ千葉、小山、里見、佐竹、小田、結城、宇都宮、那須、ノ八將之ヲ助ケ堀越公方ハ兩上杉氏之カ管領タリ

(三七) 太田道灌

文明十年成氏上杉顯定ト和ヲ講ジ復古河城ニ入レリ顯定ハ山內家ヲ繼ギ上野平井ニ居リ八州ノ成敗ヲ管セリ上杉定正ノ家老ニ太田道灌ト云フモノアリ武州川越ニ在リシガ江戶城ヲ與ヘテ古河ニ備ヘシム八州ノ將士顯定ニ叛キテ定正ニ從フモノ多シ是ニ於テ兩上杉矛盾シ合戰止マザリキ後文明十八年顯定聞ヲ定正ニ行ヒテ家老道灌ヲ殺サシメシカバ定正ノ勢衰ヘタリ

(三八) 足利ノ末ニ起レル宗敎一揆

應仁ノ亂以來中國九州ニテハ爭亂絕エザリシガ北陸ニモ加能越ニハ一向宗ノ一揆起レリ當時本願寺八代ノ主蓮如上人(兼壽)出テ、天下ノ亂ニ乘ジテ兵力ヲ以テ宗敎ヲ弘メシカバ民間ノ徒之ニ雷同シテ勢猖獗當ルベカラズ長享二年高田本願寺ノ兩派相爭ヒ富樫氏(守護)ハ之ヲ制スル能ハザルノミナラズ遂ニ本願寺ノ

爲ニ亡ボサレタリ能登ノ守護畠山氏モ宗徒ト戰ヒ破レシカバ勢益々強ク加能越三州ヲ併セ越前ニ侵入シテ所在ヲ掠略セシカバ朝倉敎景甞戰シテ之ヲ破リシガ高田門徒ハ伊勢三河ノ徒ヲ募リ北陸ニ入リ本願寺派ト戰ヒ爭亂止ム時ナカリキ

（三九）後柏原天皇ノ御代ニ於ケル東國ノ大勢

當時京都及鎌倉ノ勢衰ヘ諸國ノ英傑爭ヒ起リ戰爭止ムコトナク群雄割據ノ時代ニ近キヌ越後ニ長尾氏アリ相模ニ北條早雲アリ子氏綱三浦氏及武藏ノ上杉氏ヲ攻メ國勢益大ナリ安房ニハ里見氏アリ陸奥ニハ伊達氏甲斐ニ武田氏駿河ノ今川氏三河ノ松平氏尾張ノ織田氏美濃ノ齋藤氏伊勢ノ北畠氏アリ一向宗一揆ハ北陸江勢三河ニ割據セリ

（三〇）畿内西國ノ大勢

畿内及近江ハ細川氏ノ爭ヒアリ六角氏京極氏朝井氏起リ朝倉氏ハ越前ニ畠山氏ハ南畿ニ四國ハ下細川氏三好氏細川氏長曾我部氏等起リ中國ニハ備前ノ浦上氏出雲ノ尼子氏中國ノ大内氏安藝ノ毛利氏筑前ノ小貳氏豊後ノ大友氏肥後ノ菊池氏肥前ノ龍造寺氏薩摩ノ島津氏日向ノ伊東氏アリ

（三一）皇室ノ式微

後柏原天皇ノ御代皇室ノ式微甚シク天皇ハ御即位ノ禮ヲ本願寺住職光兼ノ献金ニヨリ行ハセラレタリキ後奈良天皇ハ大内義隆ノ献金ニヨリ御即位アラセラレキ其他朝庭ノ典禮公事癈欠シ宮殿ハ癈頽スルコト甚シク市中ノ兒ハ紫宸殿ノ中ニテ泥ヲヒナシ遊ビシニテモ知ラルベキナリ

（三二）當時朝廷ノ財源

當時朝廷ノ必要ノ用度ハ大概成功ヲ募リテ一時ノ急ヲ救ヒタリ成功トハ昔白河天皇ノ頃ヨリ行ハレタル賣官ノ事ニテ用度多キ時ハ一時ニ二百人ヲ任官セラレタルコトアリキ其他新關ヲ各所ニ立テ、旅人ヨリ關稅ヲ徵集スルヘモアリキ

（三三）朝鮮ノ貿易ト大内氏及宗氏トノ關係

大内氏朝鮮ト貿易ヲ初メタリ以來明トモ通商ヲ初メタリ嘉吉年間宗氏ト朝鮮トノ間ニ通商屢々行ハレシ以來朝鮮貿易ハ宗氏ニヨリテ行ハレシガ年ヲ經テ渡韓者多ク領内ノ舟モ沿海ヲ侵掠セシカバ大内義隆之ヲ禁シ使ヲヤリテ宗氏ハ我管下ナリト朝鮮ニ通ゼシカハ朝鮮對馬船ヲ拒ム宗氏依テ在韓ノ民ト相應ジテ亂ヲナシ朝鮮ノ爲ニ破ラレタリ之ヨリ宗氏ノ貿易ハ大内氏ニ歸シタリ

（三四）大内大友諸氏ノ外敎崇信

天文十七年宣敎師サヴイエー我國ニ渡來シ山口ニ到リ大内義隆ヲ見テ宣敎ヲ乞ヒシカハ義隆之ヲ許シ一年間ニ洗禮ヲ受ケシモノ三千餘人ニ達セリ幾クモナク義隆亂ニ死セリ大友義鎭之ヲ豊後ニ迎ヘ崇信頗ル厚カリシカハ山口博多平戸等ニ天主敎寺ノ建立多クジエシユイツト宗蔓衍セリ

（三五）ジエシイツト宗傳來

永正七年臥亞ヲ取リジエシユイツト敎會ノ禮拜堂ヲ建テ宣敎師ヲ派遣シテ其商船マラッカヨリ明ノ南邊貿易ヲナシ天文十年（足利將軍義晴ノ卄）葡萄牙ノ商船

爲ニ亡ボサレタリ能登ノ守護畠山氏モ宗徒ト戰ヒ破レシカバ勢益々強ク加能越三州ヲ併セ越前ニ侵入シテ所在ヲ掠略セシカバ朝倉敎景奮戰シテ之ヲ破リシガ高田門徒ハ伊勢三河ノ徒ヲ募リ北陸ニ入リ本願寺派ト戰ヒ爭亂止ム時ナカリキ

(三九) 後柏原天皇ノ御代ニ於ケル東國ノ大勢

當時京都及鎌倉ノ勢衰ヘ諸國ノ英傑爭ヒ起リ戰爭止ムコトナク群雄割據ノ時代ニ近キヌ越後ニ長尾氏アリ相模ニ北條早雲アリ子氏綱三浦氏及武藏ノ上杉氏ヲ攻メ國勢益大ナリ安房ニハ里見氏アリ陸奥ニハ伊達氏甲斐ニ武田氏駿河ノ今川氏三河ノ松平氏尾張ノ織田氏美濃ノ齋藤氏伊勢ノ北畠氏アリ一向宗一揆ハ北陸江勢三河ニ割據セリ

(三〇) 畿内西國ノ大勢

畿内及近江ハ細川氏ノ爭ヒアリ六角氏京極氏朝井氏起リ朝倉氏ハ越前ニ畠山氏ハ南畿ニ四國ハ下細川氏三好氏細川氏長曾我部氏等起リ中國ニハ備前ノ浦上氏出雲ノ尼子氏中國ノ大内氏安藝ノ毛利氏筑前ノ小貳氏豊後ノ大友氏肥後ノ菊池氏肥前ノ龍造寺氏薩摩ノ島津氏日向ノ伊東氏アリ

(三一) 皇室ノ式微

後柏原天皇ノ御代皇室ノ式微甚シク天皇ハ御即位ノ禮ヲ本願寺住職光兼ノ献金ニヨリ行ハセラレタリキ後奈良天皇ハ大内義隆ノ献金ニヨリ御即位アラセラレキ其他朝庭ノ典禮公事殘欠シ宮殿ハ廢頽スルニ甚シク市中ノ兒ハ紫宸殿ノ中ニテ泥ヲコナシ遊ビシニテモ知ラルベキナリ

(三二) 當時朝廷ノ財源

當時朝廷ノ必要ノ用度ハ大概成功ヲ募リテ一時ノ急ヲ救ヒタリ成功トハ昔白河天皇ノ頃ヨリ行ハレタル賣官ノ事ニテ用度多キ時ハ一時ニ二百人ヲ任官セラレタルコトモアリキ其他新關ヲ各所ニ立テ、旅人ヨリ關稅ヲ徵集スルニモアリキ

(三三) 朝鮮ノ貿易ト大内氏及宗氏トノ關係

大内氏朝鮮ト貿易ヲ初メテ以來明トモ通商ヲ開ニ通商屢々行ハレシ以來朝鮮貿易ハ宗氏ニヨリテ行ハレシガ年ヲ經テ渡韓者多ク領内ノ舟モ沿海ヲ侵掠セシカバ大内義隆之ヲ禁シ使ヲヤリテ宗氏ハ我管下ナリト朝鮮ニ通ゼシカハ朝鮮對馬船ヲ拒ム宗氏依テ在韓ノ民ト相應ジテ亂ヲナシ朝鮮ノ爲ニ破ラレタリ之ヨリ宗氏ノ貿易ハ大内氏ニ歸シタリ

(三四) 大内大友諸氏ノ外敎崇信

天文十七年宣敎師サヴイエー我國ニ渡來シ山口ニ到リ大内義隆ヲ見テ宣敎ヲ乞ヒシカハ義隆之ヲ許シ一年間ニ洗禮ヲ受ケシモノ三千餘人ニ達セリ幾クモナク義隆亂ニ死セリ大友義鎭之ヲ豊後ニ迎ヘ崇信頗ル厚カリシカハ山口博多平戸等ニ天主敎寺ノ建立多クジエシユイツト宗臺衍セリ

(三五) ジエシイツト宗傳來

永正七年臥亞ヲ取リジエシユイツト敎會ノ禮拜堂ヲ建テ宣敎師ヲ派遣シテ其商船マラッカヨリ明ノ南邊貿易ヲナシ天文十年(足利將軍義晴ノ卄)葡萄牙ノ商船

大隅種子ケ島ニ漂到シ豊後ニ到リシカハ大友義鎮之ヲ優遇セリ

(三三六) 鐵砲ノ傳來

天文十二年南蠻ノ人種子ケ島ニ來リ鉄砲ヲ傳フ島主種子島時堯其法ヲ受ケタリコレ我國ニ鉄砲ノ傳ハリシ初メナリ

(三三七) 足利時代ノ西洋ノ大事件

義政ノ就職十年目享德二年ハ西暦千四百五十三年ニシテモハメツト二世ノコンスタンチノプルヲ陷レ東羅馬帝國滅亡ノ年ニテ支那ニテハ明ノ景宗景泰四年ニ當レリ

西暦千四百四十二年コロンバスガさゐば島ヲ發見セシハ明ノ孝宗弘治五年ニテ足利義植ノ六角高賴ヲ近江ニ伐テシ年ナリ

(三三八) 倭寇ノ沿革

昔弘安ノ役後我國ト支那トハ唯商舶僧徒ノ私ニ相往來スルノミナリシガ南北朝ノ亂ノ頃ヨリ諸國ノ豪族財用ノ缺乏ヲ補ハン爲ニ船ヲ發シテ元及高麗ト交通セシハ前已ニ述ブル如クナリ然ルニ元ノ亂ルヽニ乘ジ我西國ノ流民等元高麗ノ沿海ヲ剽掠シ北ハ遼東ヨリ南ハ閩浙東越ノ濱海ニ出沒シテ剽掠シ明太祖沿海ニ防倭衛所ヲ置キ使ヲ足利將軍ニ遣ハシテ侵寇ヲ禁ゼンコヲ請ヒシガ我之ヲ受ケザリキ明ノ成祖ノ時ニ足利義滿交通セシガ暫ク中絶シ宣宗ノ時勘合符ヲ以テ海賊ヲ絶タントセシガ沿岸ノ侵掠猶止マザルノミナラズ應仁以來益々猖獗ヲ極メタリキ

(三三九) 明代倭寇ノ盛ンナリシ有樣

我後奈良天皇ノ頃明ノ世宗ノ嘉靖三十年ヨリ四十二年間ハ尤モ倭寇ノ盛ンナリシ時代ニシテ南ハ廣東ヨリ北ハ遼東迄閩浙山東沿海ノ郡邑ヲ掠メタリ彼ノ嘉靖三十二年(天文二十一年)ニハ上海蘇州ヲ掠メ其ノ三十三年ニハ乍浦海寧ヨリ淮楊諸州ニ寇シ又紹興ヨリ南京ヲ侵スニ至レリ明廷ニテハ王忬俞大猷戚繼光等ノ諸將ニ命ジ前後進討セシメタリシガ明人不平ノ徒ニシテ海賊汪直徐海等我邦人ニ加ハリ東南ノ爭擾甚ダシカリキ汪直等ノ誅セラルヽニ至リテ浙江ノ地漸ク安カリシガ殘黨尚逃レテ臺灣ヲ占領シタリ

(三四〇) 足利十五代ノ列擧

1 尊氏　2 義詮　3 義滿
6 義敎　7 義勝　8 義政
11 義澄　12 義晴　13 義輝
4 義持　5 義量
9 義尙　10 義植
14 義榮　15 義昭

(三四一) 群雄割據ノ次第

三好氏松永氏ハ近畿ニ根來一揆ハ紀伊ニ北畠氏ハ美濃ニ淺井氏ハ近江ニ朝倉氏ハ越前近江ニ門徒一揆ハ加能越ニ上杉氏ハ越後ニ武田氏ハ甲信ニ今川氏ハ駿遠ニ北條氏ハ豆、相、武、野、上總、下總ニ里見氏ハ安房ニ佐竹氏ハ常陸ニ津輕南部秋田伊達ノ諸侯ハ奥羽ニ山名氏ハ但因ニ浮田氏ハ美作三備ニ尼子氏ハ伯耆出雲ニ毛利氏ハ安藝ニ大內氏ハ長防ニ三好氏ハ阿波ニ細川氏ハ讃岐ニ西園寺ノ老臣河野氏ハ伊豫ニ一條氏ノ老臣長曾我部氏ハ土佐

ニ龍造寺氏ハ二筑及肥後ニ大友氏ハ豊後ニ伊東氏島津氏ハ薩摩大隅ニ割據シ爭亂一日モ止ムコトナカリキ

(三四二) 松永久秀將軍弑逆ノ始末

正親町天皇ノ永祿ノ末年ニハ三好長慶薨シ松永久秀跋扈甚シカリシカバ將軍義輝之ヲ忌ミ密カニ上杉輝虎ヲ召シ上京セシメントス圖ル久秀洩レ聞キテ永祿八年兵ヲ發シテ將軍館ヲ攻ム義輝防戰力及バズシテ殺サレタリ久秀義輝ノ甥義榮ヲ迎ヘテ將軍トスコレ第十四代將軍ナリ

(三四三) 元龜天正二十餘年間ノ重要ナル事件

元龜元年(紀元二千二百三十三年)ニハ信長比叡山ヲ焚キ僧兵ノ暴ヲ制セリ○天正元年ニハ武田信玄卒シ淺井朝倉二氏織田信長ノ爲ニ滅ボサレタリ○天正二年信長耶蘇教ヲ信ジ南蠻寺ヲ建テタリ○同三年ニハ長篠ノ戰アリ○同六年上杉謙信卒ス○十年武田氏滅ビ本能寺ノ變及山崎合戰アリ○十一年賤ケ岳ノ戰アリ○十二年小牧ノ戰アリ○十三年秀吉關白太政大臣トナル○十五年後陽成天皇御即位アラセラル此年九洲平定セリ○十八年後北條氏亡ブ

要スルニ此元龜天正二十餘年間ハ武田上杉北條足利ノ諸氏滅ビテ織田信長四海平定ノ功業半バニシテ沒シ豊臣秀吉天下ヲ平定シテ關白トナリ職ヲ秀次ニ讓リシ迄ノ時代ニシテ史上之ヲ織豊時代ト稱ス

(三四四) 織田氏ノ系圖

織田氏ハ其先平重盛ヨリ出デ其裔織田ノ莊ノ神官ノ苗字ヲ冒セリ後斯波氏ニ仕ヘ應仁ノ亂ニ斯波氏ノ亡滅セシヨリ尾張ヲ領スルニ至レリ

(三四五) 織田信長ノ勳功

信長家ヲ嗣グニ及ビテ今川義元ヲ桶峽間ニ斬リ駿遠參ヲ領シ美濃ノ齊藤氏ヲ亡ボシ益西上ノ策ヲ運ラセシガ武田北條諸雄ノ其ノ後ヲ窺フヲ恐レ德川氏ト結ビテ北條氏ニ備ヘ信玄ト和睦シテ上杉ヲ抑ヘタリ永祿十一年西上シ近江ノ佐々木三好氏ノ殘黨ヲ走ラシ義昭ヲ將軍ニ迎立セリ信長ハ尊王ノ志厚ク應仁以後朝廷ノ衰微甚シカリシカバ先大內ヲ造營シ其後屢獻金シテ朝廷ノ儀式ノ絕エタルヲ興シ或ハ伊勢神宮造營ノ典ヲ擧グル等ノ美事多カリ又京畿ノ關所ヲ廢シ道ヲ修繕シ橋梁ヲ架シヽカバ人民其惠ヲ仰ゲリ

(三四六) 桶峽間ノ戰

永祿三年今川義元已ニ駿河遠江參河ヲ定メ進ンテ尾張ニ入ラントス鷲津丸根ノ守將急ヲ信長ニ告グ信長赴キ援ハント欲シ單騎鞭ヲ揚ケテ發シ行々諸城ノ兵ヲ發シ三千人ヲ得タリ時ニ義元桶峽間ニ陣シ勢甚盛ナリ信長大雷雨ニ乘ジテ夜義元ノ營ヲ襲ヒテ之ヲ斬ルコレヨリ信長ノ威名天下ニ振ヘリ

(三四七) 河中島ノ戰

信濃ノ二大川犀川筑摩ノ相合スル處ヲ河中島四郡トス天文四年ヨリ永祿ノ初年ニ至ル迄武田上杉ノ兩雄兵ヲ交フルコト前後五回ナリキ初メ信濃ノ村上義清信玄

(三三) **信長ノ中國經營**

天正五年秀吉ヲシテ中國ヲ經營セシム當時毛利元就尼子氏ニ克チ因幡備前以西二道十州ヲ管セリ元就卒シテ其孫輝元吉川元春小早川隆景二人ノ輔ケヲ得テ勢甚盛ナリ秀吉播磨美作備前但馬因幡ノ諸州ヲ下シ備中高松城ヲ攻ム毛利氏來リ救ヒ相侍シテ未タ戰ハズ秀吉救ヲ信長ニ乞フ信長赴キ援ハント欲シ途中本能寺ノ變アリ

(三四) **本能寺ノ變**

信長將士ヲ遇スルニ禮節ヲ設ケズ光秀屢爲ニ罵リ辱メラレ心窃ニ之ヲ怨メリ信長曾テ其寵臣森蘭丸ニ光秀ノ領地志賀郡ヲ與ヘンコトヲ約セリ光秀聞キテ大ニ怒リ遂ニ信長ヲ殺サント企デタリ時ニ信長ハ秀吉ヲ援ハントテ旗本ノ小隊ヲ以テ安土城ヲ發シテ京ニ入リ本能寺ニ館セリ今度ノ先鋒タリシ明智光秀軍容ヲ上覽ニ供スト唱ヘ兵ヲ率キテ入京シ俄ニ本能寺ヲ襲ヒケレバ信長左右百餘人ト力戰シテ遂ニ自殺ス子信忠又二條城ニ於テ光秀ノ圍ム所トナリテ自殺シケリ時ニ天正十年ナリ

(三五) **山崎ノ合戰**

天正十年信長ノ殺セラルヽヤ秀吉乃毛利氏ト和シ師ヲカヘシ使ヲ織田信孝丹羽長秀池田信輝ニ遣ハシ尼ケ崎ニ會シ戰ヲ議シ進テ山崎ニ至リ伐テ大ニ光秀ノ軍ヲ敗ル光秀敗走シテ土民ノ爲ニ殺サル

(三六) **賤岳ノ戰**

天正十年信長ノ死セシ後豊臣秀吉ノ威權獨リ盛ナリ織田信孝之ヲ忌ミ柴田勝家瀧川一益等ト謀リ秀吉ヲ除カントス信孝ハ岐阜ニ勝家ハ越前ニ一益ハ伊勢ニ在リテ同盟ニ兵ヲ擧ゲタリ秀吉兵ヲ遣ハシテ越前伊勢ニ向ハシメ自カラ岐阜ニ向ヘリ越前ノ兵近江ニアリテ勝家ト相對セリ勝家ノ將佐久間玄蕃盛政賤ケ岳ヲ敗レリ秀吉之ヲ聞キテ自ラ兵万五千ヲ率キテ賤ケ岳ニ向ヒ戰ヒテ之ヲ敗リ柴田ヲ追ヒテ之ヲ越前ニ滅ボシキ此役ニ加藤清正、福島正、則加藤嘉明、平野長泰、脇坂安治、糟屋武則、片桐且元、軍功アリ所謂賤岳ノ七本槍ナリ

(三七) **清巢會議**

秀吉山崎合戰ニ光秀ヲ誅シ入京シテ柴田勝家丹羽長秀瀧川一益ト清巢ニ會議シテ信忠ノ子三法師ノ嫡孫ナルヲ以テ立テヽ嗣トナス

(三八) **大德寺葬儀**

秀吉信長及信忠ヲ葬リ法會ヲ大德寺ニ修ノ毛利ノ使者及諸侯ヲ會シ養子秀勝(信長ノ第五子)ト之ニ臨ム供張頗盛ナリ信雄信孝及瀧川一益柴田勝家ハ出席セザリキ

(三九) **小牧ノ役長湫ノ戰**

信孝勝家已ニ亡ビテ秀吉ノ威勢日ニ盛ナリケレバ信雄秀吉ヲ忌ミテ之ヲ除カントシ秀吉ト戰ヲ開キタリ時ニ天正十二年ナリ德川家康信雄ノ求メニ應ジ信雄ヲ輔ケテ秀吉ト尾張ノ小牧ニ對陣セリ家康ハ參河駿河甲斐ノ兵一万八千ヲ率キテ秀吉ハ十二万五千ノ兵ヲ率キタリ秀吉德川家康ノ空虛ヲ襲ハントシテ密カニ兵

ノ爲ニ追ハレ越後ニ走リテ謙信ノ救ヲ乞ヘリ謙信之ヲ諾シ信玄ヲ伐タントスコレヨリ河中島ニ兩雄相爭フコト、ナリヌ天文十六年十月信玄謙信共ニ河中島ニ至リ水ヲ挾ミテ陣シ相戰フ數度勝敗未タ決セズ謙信兵ヲ分チテ信玄ノ麾下ヲ襲ヒテ大ニ信玄ノ軍ヲ敗レリ之ヲ第一戰トス弘治三年三月信玄已ニ信濃ヲ定メ謙信ト河中島ニ對陣セリ信玄夜兵ヲ出シテ越後ノ軍ヲ襲ハントセシニ謙信却テ甲軍ノ營ニ迫リシカバ信玄ノ軍敗走セリ時ニ甲軍ハ越後ノ軍ノ後ニ出テシカバ本軍勢ヲ恢復シテ大ニ戰ヒテ越軍ヲ敗ラス之ヲ第二戰トス弘治二年八月謙信河中島ニ出ヅ信玄出テヽ戰ハズ越軍將ニ去ラントセシガ信玄其謀アルヲ知リ追擊セズ掃曉果シテ越軍ノ備ヲ嚴ニシテ待ツヲ見ル信玄兵ヲ山間ニ伏セ戰ヲ挑ミシニ謙信之ヲ擊チシガ兵ヲ收メテ歸レリ之ヲ第三戰トス其後今川義元ノ停調ニヨリ和ヲ講ゼシガ幾モナク和議破レテ永祿四年ニ西條山ノ戰アリ其後謙信信玄ノ兩將相尋キテ病死シ戰遂ニ息ミタリ

（三四八）姉川ノ戰

元龜元年越前ノ朝倉義景近江ノ淺井長政ト連合シテ信長ト戰ヘリ德川家康來リ援ヒ朝倉ノ大軍ヲ引キ受ケ信長ハ淺井ノ陣ニ向ヒタリ家康ノ此時ノ働キ非常ニシテ小勢ヲ以テ朝倉ヲ散々ニ討チ破レリ信長感悅シテ家康ニ謝セリト云フ

（三四九）三形ケ原ノ戰

德川家康信玄ヲ擊タントシテ謙信ト謀ヲ通ジ之ヲ夾擊センコトヲ約ス元龜三年四月鎌倉兵ヲ信濃ニ出シテ家康ヲ救フ十二月信玄三形ケ原ニ陣シ濱松城ヲ攻メシカバ家康出テ戰ハントセシニ諸將ノ諫ムルヲ以テ止メタリシガ幾クモナク信玄佯リ退キシ故ニ家康之ヲ擊退セシニ却リテ兇カルヲ得タリ

（三五〇）信長叡山ヲ焚ク

當時叡山ノ僧兵ハ常ニ淺井朝倉ヲ助ケテ信長ヲ妨ゲシカバ信長大ニ怒リ姉川合戰ノ後意ヲ決シテ叡山ヲ燒キ僧徒及婦女長幼ニ至ル迄悉ク斬殺セリ多年跋扈セシ叡山ノ僧侶モ之カ爲メニ大ニ勢ヲ失ヒシガ一向宗ノ一揆ハ相變ラズ強クシテ石山ノ一揆參河ノ一揆等ハサスガノ信長家康サヘ殆ント困難ヲ極メタル程ナリキ

（三五一）足利氏亡ブ

天正元年淺井朝倉ハ信長ノ爲メニ亡ボサレヌ此ノ戰ニ秀吉大功アリシカバ淺井氏ノ故地ヲ與ヘラレ長濱ノ城主トナリタリ時ニ足利義昭信長ノ功名益高キヲ見テ遂ニ之ヲ除カント計リシガ却テ放逐セラレ西國ニ流浪シテ毛利氏ニ寄寓シ足利氏亡ブ

（三五二）安土城ノ天主閣

天正四年信長近江ノ安土ニ城キテ之ニ居ル天主ノ高サ九丈餘下ニ石臺ヲ築ク高サ七丈二尺凡七層ニシテ壯麗無比ナリ天主閣ハ梵與ノ須彌山ニ象ドル天主トハ帝釋ナリ一說ニ天主ヲ耶蘇ノ天主堂ニ象ドルトノ說ハ非ナリ

(三五三) 信長ノ中國經營

天正五年秀吉ヲシテ中國ヲ經營セシム當時毛利元就尼子氏ニ克チ因幡備前以西二道十州ヲ管セリ元就卒シテ其孫輝元吉川元春小早川隆景二人ノ輔ケヲ得テ勢甚盛ナリ秀吉播磨美作備前但馬因幡ノ諸州ヲ下シ備中高松城ヲ攻ム毛利氏來リ救ヒ相侍シテ未タ戰ハズ秀吉救ヲ信長ニ乞フ信長赴キ援ハント欲シ途中本能寺ノ變アリ

(三五四) 本能寺ノ變

信長將士ヲ遇スルニ禮節ヲ設ケズ光秀屢爲ニ罵リ辱メラレ心窃ニ之ヲ怨メリ信長曾テ其寵臣森蘭丸ニ光秀ノ領地志賀郡ヲ與ヘンコトヲ約セリ光秀聞キテ大ニ怒リ遂ニ信長ヲ殺サント企デタリ時ニ信長ハ秀吉ヲ援ハントテ旗本ノ小隊ヲ以テ安土城ヲ發シテ京ニ入リ本能寺ニ館セリ今度ノ先鋒タリシ明智光秀軍容ヲ上覽ニ供スト唱ヘ兵ヲ率キテ入京シ俄ニ本能寺ヲ襲ヒケレバ信長左右百餘人ト力戰シテ遂ニ自殺ス子信忠又二條城ニ於テ光秀ノ圍ム所トナリテ自殺シケリ時ニ天正十年ナリ

(三五五) 山崎ノ合戰

天正十年信長ノ殺セラルヽヤ秀吉乃毛利氏ト和シ師ヲカヘシ使ヲ織田信孝丹羽長秀池田信輝ニ遣ハシ尼ケ崎ニ會シ戰ヲ議シ進テ山崎ニ至リ伐テ大ニ光秀ノ軍ヲ敗ル光秀敗走シテ土民ノ爲ニ殺サル

(三五六) 賤岳ノ戰

天正十年信長及信忠ヲ葬リ法會ヲ大德寺ニ修ノ毛利ノ使者及諸侯ヲ會シ養子秀勝(信長ノ第五子)ト之ニ臨ム供張頗盛ナリ信雄信孝及瀧川一益柴田勝家ハ出席セザリキ

(三五七) 清巢會議

秀吉山崎合戰ニ光秀ヲ誅シ入京シテ柴田勝家丹羽長秀瀧川一益ト清巢ニ會議シテ信忠ノ子三法師ノ嫡孫ナルヲ以テ立テヽ嗣トナス

(三五八) 大德寺葬儀

秀吉信長及信忠ヲ葬リ法會ヲ大德寺ニ修ノ毛利ノ使者及諸侯ヲ會シ養子秀勝(信長ノ第五子)ト之ニ臨ム供張頗盛ナリ信雄信孝及瀧川一益柴田勝家ハ出席セザリキ

(三五九) 小牧ノ役長湫ノ戰

信孝勝家已ニ亡ビテ秀吉ノ威勢日ニ盛ナリケレバ信雄秀吉ヲ忌ミテ之ヲ除カントシ秀吉ト戰ヲ開キタリ時ニ天正十二年ナリ德川家康信雄ノ求メニ應ジ信雄ヲ輔ケテ秀吉ト尾張ノ小牧ニ對陣セリ家康ハ參河駿河甲斐ノ兵一万八千ヲ率キテ秀吉ハ十二万五千ノ兵ヲ率キタリ秀吉德川家康ノ空虛ヲ襲ハントシテ密カニ兵

天正十年信長ノ死セシ後豊臣秀吉ノ威權獨リ盛ナリ織田信孝之ヲ忌ミ柴田勝家瀧川一益等ト謀リ秀吉ヲ除カントス信孝ハ岐阜ニ勝家ハ越前ニ一益ハ伊勢ニ在リテ同時ニ兵ヲ擧ゲタリ秀吉兵ヲ遣ハシテ越前伊勢ニ向ハシメ自カラ岐阜ニ向ヘリ越前ノ兵近江ニアリテ勝家ト相對セリ勝家ノ將佐久間玄蕃盛政賤ケ岳ヲ敗レリ秀吉之ヲ聞キテ自ラ兵万五千ヲ率キテ賤ケ岳ニ向ヒ戰ヒテ之ヲ敗リ柴田ヲ追ヒテ之ヲ越前ニ滅ボシキ此役ニ加藤清正、福島正、則加藤嘉明、平野長泰、脇坂安治、糟屋武則、片桐且元、軍功アリ所謂賤岳ノ七本槍ナリ

(三六〇) 清巢會議

秀吉山崎合戰ニ光秀ヲ誅シ入京シテ柴田勝家丹羽長秀瀧川一益ト清巢ニ會議シテ信忠ノ子三法師ノ嫡孫ナルヲ以テ立テヽ嗣トナス

(三六一) 大德寺葬儀

秀吉信長及信忠ヲ葬リ法會ヲ大德寺ニ修ノ毛利ノ使者及諸侯ヲ會シ養子秀勝(信長ノ第五子)ト之ニ臨ム供張頗盛ナリ信雄信孝及瀧川一益柴田勝家ハ出席セザリキ

(三六二) 小牧ノ役長湫ノ戰

信孝勝家已ニ亡ビテ秀吉ノ威勢日ニ盛ナリケレバ信雄秀吉ヲ忌ミテ之ヲ除カントシ秀吉ト戰ヲ開キタリ時ニ天正十二年ナリ德川家康信雄ノ求メニ應ジ信雄ヲ輔ケテ秀吉ト尾張ノ小牧ニ對陣セリ家康ハ參河駿河甲斐ノ兵一万八千ヲ率キテ秀吉ハ十二万五千ノ兵ヲ率キタリ秀吉德川家康ノ空虛ヲ襲ハントシテ密カニ兵

ヲ三河ニ遣シシヲ家康早ク知リ兵ヲ率ヰテ大ニ長久手ニ戰ヒテ之ヲ破リ敵ノ大將三人ヲ獲タリ秀吉敗ヲ聞キ自カラ之ニ趣キシガ家康ハ已ニ兵ヲ小牧ニ収メタリキ秀吉遂ニ信雄ト和睦セリ此ノ戰ニテ德川氏ハ其義俠ト其ノ戰略トニ於テ大ニ名譽ヲ博セリ

（三六〇）豐臣秀吉ノ四國九州ノ經略

當時四國ニテハ長曾我部元親本州ノ亂ニ乘ジ全島ヲ一統シ九州ニテハ島津義久薩摩日向大隅ノ三州ニ據リ秀吉ノ命ヲ用ヒザリシカバ天正十三年秀吉四國ヲ征シ翌十四年薩摩ヲ征セリ茲ニ於テ四海平定ス

（三六一）秀吉ノ政略

德川家康ハ征服シ難キ人物ナルヲ以テ之ト和好ヲ結ブニ如カズトテ家康ト和睦シ己レノ妹ヲ家康ニ嫁カシメ母ヲ參河ニ人質トシ家康ノ入朝ヲ促セリ德川ノ臣ハ家康ノ入朝ヲ諫メ秀吉ノ臣ハ人質ヲ止メント諫メシカドモサスガ相方トモ豪傑丈アリテ家康モ承知シテ秀吉ト和セリ秀吉ハ大ニ悦ビタリト此良將ノ心事ハ後日ニ起レル天下ノ形勢ヲ見テ知ルベシ

（三六二）秀吉ノ出自

秀吉ハ尾張國愛知郡中村ノ人織田氏ノ足輕木下彌右衛門ノ子ナリ父ノ死后母ノ再嫁セシ竹阿彌ノ家ニ養ハレ長ジテ遠江ノ松下嘉兵衛ニ仕ヘ二十三歲ノ時木下藤吉ト稱シテ信長ニ仕ヘ立身セシ後羽柴秀吉ト稱シ遂ニ信長ニ代リテ天下ヲ一統シ關白太政大臣ニ陞進セリ

（三六三）聚樂ノ誓

秀吉山城ノ內野ニ第ヲ營ミ名ケテ聚樂ト號シ頗ル壯麗ヲ極メタリ紀元二千二百四十八年（天正十六年）後陽成天皇ノ行幸アリ德川家康織田信雄以下ノ諸大名ヲシテ御前ニ於テ誓ハシムヨク諸大名相共ニ皇室ヲ尊ビ關白ノ命ニ違フコト勿レト

（三六四）秀吉ノ關東奧羽ノ經略

北條氏ハ關八州ニヨリテ入朝セザリシカバ天正十八年三月諸國ノ兵ヲ發シテ大擧小田原城ヲ圍ム四閱月北條氏政自殺シテ城陷ル伊達政宗モ雄ヲ奧羽ニ稱セシガ小田原征討ヲキヽテ恐レ秀吉ノ陣ニ來謁セリ足利義滿以來關東奧羽ハ東方ニ獨立シテ京師ノ制馭ヲ受ケザリシガ此ニ至リ皆服從セリ茲ニ於テ家康ヲ關東ニ上杉景勝ヲ陸奧ニ蒲生氏鄕ヲ會津ニ移シ東國ヲ平定セリ

（三六五）蠣崎氏蝦夷ヲ征服ス

蠣崎信廣松前氏ヲ稱シ子孫蝦夷ト戰ヒ曾孫季廣ニ至リ心ヲ盡クシテ招撫シ酋長二人ヲ東蝦夷奉行トシ商船ニ課稅シテ之ニ俸給ヲ與ヘ居タリ季廣ノ子慶廣京ニ到リ秀吉ニ謁ス秀吉松前蝦夷一圓ヲ領セシメ諸國船ノ貿易スルモノハ其ノ指揮ニ從ハシメタリ

（三六六）文祿ノ檢地及天正ノ石直シ

天正十四年檢田使ヲ發シ五畿七道ノ田ヲ丈量ス舊制ハ六六法トテ三百六十歩ヲ一段トセシガ新檢ノ地ハ六尺三寸ヲ一歩トシ三百歩ヲ以テ一段トス之ヲ五六法

ト云フ石高ヲ以テ田祿ヲ數フルモ此ノ時代ヨリ始マレリ石高ハ收穫ノ籾ノ石數ニテ平均上田一歩ヨリ籾一升ヲ生スルモノトセリ

(三六七) 長束正家

長束　正家ハ宣旨桝(昔シ後三條天皇ノ制定シタマヒシ桝ナリ)ヲ改正シテ方四寸九分深サ二寸七分トシタリ即今ノ京桝ナリ京桝ハ宣旨桝ニ比スレバ稍大ナル故後人種々ノ說ヲナスモノアリト雖思フニ寸法ハ七分及三分シ得ベキ便利ノ數ヲ用ヒシナランカ正家ハ有名ナル數學家ニシテ工賦租稅會計ノ事ヲ掌レル五奉行ノ一人ナリ

(三六八) 五奉行及其職掌

五奉行ハ五人ノ奉行ニシテ前田玄以ハ所司代トナリ庶務會計ヲ掌ドリ長束正家ハ租稅會計ヲ淺野長政增田長盛石田三成ノ三人ハ訟獄ヲ司ドレリ

(三六九) 五大老三中老

德川家康　前田利家　毛利輝元　浮田秀家　上杉景勝　ヲ五大老トシ
生駒親正　中村一氏　堀尾吉晴　ヲ三中老トス

(三七〇) 天正金

貨幣ニハ永樂錢砂金板金等行ハレシガ此等ハ大ニ不便ナル故ニ天正年間大判小判ヲ造リ永樂錢一貫文ヲ小判一枚即金一兩ニ當テ小判十板ヲ大判一枚ニ當テヽ通用セシメタリ又金ノ法馬及丁銀ヲ鑄造ス又天正通寶ト記セル錢ヲモ造リケレドモ其用大ニ備ハリヌ

(三七一) 毛利勘兵衛

秀吉天下ヲ一統セシ後算術ヲ知レルモノ少ナキヲ歎キテ毛利勘兵衛ヲ明國ニ留學セシメタリ勘兵衛京ニ住シ算術ヲ敎授セリ現今用フル球算ノ歸除法等ハ勘兵衛ヨリ始マリシト云フ

(三七二) 朝鮮征伐ノ顚末

秀吉大志アリ信長ノ爲ニ山陽ヲ徇ヘシ時已ニ朝鮮支那ヲ取ランノ志アリ海內統一スルニ及ビテ其念切ナリ時ニ明朱翊均政ヲ失フヲキヽ朝鮮ニ使ヲ遣リ又琉珠王尙寧ヲシテ明主ニ告ゲテ入朝セシム明聽カズ朝鮮王亦從ハズ秀吉怒リテ昔朝鮮我ニ臣タリ中世以後叛キテ貢ヲ修メズ却テ元ノ爲ニ先導シテ我ニ寇セリ大ニ懲膺ヲ加フベシト玆ニ於テ大ニ水陸ノ軍ヲ整フ

文祿元年紀元二千二百五十二年秀吉職ヲ秀次ニ讓リ宇喜多秀家ヲ元帥トシ加藤清正小西行長ヲ先鋒トシ增田長盛石田三成大谷吉隆ヲ參謀トシ陸軍十三万海軍ハ九千二百人ニシテ九鬼嘉隆藤堂高虎之ニ將タリ秀吉自ラ肥前ノ那古屋ニ赴キ諸軍ヲ督ス我軍連戰連勝勢益々盛ンナリシカバ明人沈惟敬ノ勸メニヨリテ和ヲ結ビ慶長元年明使大阪ニ來リシガ國書無禮ナルヲ以テ秀吉大ニ怒リ使ヲ逐ヒ再征ノ命ヲ下セリ

(三七三) 碧蹄館ノ戰

我軍ノ勢強クシテ八道其ノ席卷スル處トナル明國大ニ驚キ租承訓ヲシテ來リ援ふシメ行長ノ爲メニ破ラル明ノ宰臣恐レ說客沈惟敬ヲ遣ハシテ和ヲ講ゼシメン

トス然ルニ明將李如松自ラ勇武ヲ恃ミ主戰論ヲ唱ヘ二十万人ヲ以テ來リ小早川隆景毛利秀包立花宗茂等之ヲ碧蹄館ニ激ヘ戰ヒ大ニ之ヲ敗ル李如松僅ニ身ヲ以テ免カレ徹夜痛哭敗軍ヲ收メテ去ル明韓ノ諸軍沮喪セリ此役ヤ斬首一万明軍ノ水ニ溺ルヽ無數ナリキ

(三六四) **朝鮮再討ノ顚末**

慶長二年紀元二千二百五十七年再ヒ征韓ノ師ヲ興セリ元帥小早川秀秋副元帥毛利秀元浮田秀家參謀ニハ黑田孝時先鋒ニハ加藤清正小西行長ナリ此役ニ有名ナルハ蔚山ノ籠城ト島津義弘ノ泗川ノ戰ナリキ慶長三年秀吉病ミテ薨ズ在韓ノ諸將遺令ニヨリテ兵ヲ收ム

(三六五) **關ケ原ノ大戰**

石田三成秀吉ニ信任セラレ才能ヲ恃ミテ驕恣ナリシガ秀吉薨ジ尋デ前田利家薨ジ天下ノ威望ハ德川氏ニ歸セリ三成家康ノ秀賴ノ爲メニ利アラザルヲ以テ之ヲ除カントシ密ニ會津ノ上杉景勝ト心ヲ協ハセ軍備ヲ整ヘシカバ家康之ヲ責メ兵ヲ率ヰテ下野ニ赴キケレバ三成急ニ佐和山ヨリ大坂ニ到リ家康ノ違法ヲ責メ兵ヲ起シ毛利輝元宇喜多秀家小西行長等ヲ初メ三十六人ノ大名ト共ニ進ミテ伏見城ヲ陷レ美濃ニ入レリ家康之ヲ聞キ結城秀康ヲ宇都宮ニ留メテ軍ヲ回ラレ慶長五年九月十五日大ニ關ケ原ニ戰ヘリ小早川秀秋叛キテ東軍ニ應ゼシカバ西軍大敗セリ三成行長ヲ斬リ大ニ刑賞ヲ行ヒ輝元景勝ノ罪ヲ宥シテ其封ヲ削レリ此戰ヲ德川氏天下分ケ目ノ戰ト云ヘリ

(三六六) **江戸開府**

紀元二千二百六十三年慶長八年家康征夷大將軍ニ任セラレ淳和奨學兩院ノ別當源氏ノ長者トナリシカバ玆ニ於テ始メテ幕府ヲ江戸ニ開ケリ

德川氏ノ系圖及家康ノ人ト爲リヲ述ベン二德川氏ハ新田氏ノ支流ニシテ世良田氏トモ云ヒ上野ノ得川ニ居リ中頃參河ニ移リ父ヲ廣長ト云ヒ祖父ヲ淸康ト云ヘリ幼時今川氏ニ質タリシガ義元死後自立スルヲ得タリ其ノ人トナリ擧錯縝密ニシテ事體ヲ辨シ大義ニ通シ剛氣不撓ナリ秀吉在世ノ時諸將罪過アル毎ニ譴責ヲ受クレバ家康間ニ居テ循々陳謝シ因テ宥免セラルヽコト多ク遂ニ天下ノ威望ハ家康ニ歸スルニ至リヌ

(三六七) **鐘銘事件**

秀吉方廣寺ヲ造リテ大佛ヲ安置セシガ慶長元年ノ震災ニ罹リシヲ以テ家康秀賴ニ勸メテ再建セシメ莫大ノ金額ト許多ノ歲月ヲ費ヤサシメキ後水尾天皇慶長九年四月落成ス其ノ鐘銘ニ國家安康トアルヲ咎メテコレ我ヲ咒詛セルモノナリトテ大ニ怒リ秀賴ノ生母ヲ質トセンコトヲ要メシガ爲メ遂ニ大坂ノ戰トハナリヌ

(三六八) **片桐且元**

大佛ノ再建ヲ大野治長等ハ贊成セザリシガ且元ハ家康年已ニ七十暮クソノ旨ニ任セテ他日ヲ待タントテ建立セシニ家康ノ方ヨリ鐘銘ニツキ大坂ニ照會セシカバ且元ハ大ニ驚キ種々陳謝シタリシカドモ如何セン淀君ノ寵臣大野治長驕慢ニ

シテ大坂ノ堅固ト秀吉ノ餘威トヲ賴ミ
ニ豊臣氏ノ滅亡ヲ招クニ至レリ

（三七九）　金地院崇傳

崇傳ハ寺社奉行タリシガ鐘銘ノ作者僧清韓ヲ鞫問シテ崇傳ヲ京ニ遣ハシ五山ノ僧徒ヲ集メテ鐘銘ヲ批判セシム五山ハ金地院ノ配下ナレハ衆僧皆威ヲ懾レ銘不吉ナルヲ述ヘタリト崇傳ハ博學ニシテ細川幽齋ト共ニ法度書ヲ起草シ其他家康ノ爲メニ書作スル處多カリキ

（三八〇）　大坂ヲ亡ボス策略

初メ秀吉大坂城ヲ築キテ落成セシ時諸侯ニ誇リテ云ヒケル樣大坂城ハ堅牢無雙ナレバ幾万ノ大兵ヲ以テ攻ムルモ容易ニ落ッベキニアラズ卿等如何ト衆之ヲ贊セシニ秀吉曰ク唯此城ヲ攻ムルニ二術アリ大軍長年月ノ圍ミニテ糧盡クルヲ待ツカ若クハ一旦和睦シテ隍ヲ埋メ塀ヲ除キ重ネテ責ムルノ策是レナリト嗚呼大閤ノ放言後日家康ノ用アル處トナラントハ大坂城ハ秀吉自ラ亡ボシタルモノト云フベキナリ

（三八一）　大坂陣

慶長十九年十月秀賴兵ヲ擧グ關原以後潛伏セル諸國ノ浪士等集マルモノ六万人ナリ此ニ於テ家康秀忠ト諸大名ヲ率ヒテ之ヲ攻ムル兵十五万人ナリシカ幾久モナクシテ一旦和議ヲ調ヘ堀濠ヲ埋メテ圍ヲ解キタリ之ヲ冬ノ陣ト云フ翌年（元和元年）ニ至リ大野治長眞田幸村等再擧ヲ謀リ兵十五万人ヲ得タリ五月家康父子

直ニ攻メ向ヒ戰フ二三日ニシテ城陷リ秀賴以下自殺シ豊臣氏亡ブ之ヲ夏ノ陣ト云フ時ニ紀元二千二百七十四年ナリ

（三八二）　三家ノ說明

家康第六子義直ヲ尾張ニ七子賴宣ヲ伊紀ニ八子賴房ヲ水戸ニ封シ之ヲ御三家ト稱シ其中尾張紀伊二藩ハ領地大ニシテ宗家嗣ナキ時ハ入リテ宗家ヲ嗣キ將軍トナルコヲ得水戸ハ領地少ナク宗家ヲ嗣グコトヲ得ザレドモ副將軍トシテ旗本八萬騎ヲ指揮シテ他ノ二家ヨリ宗家ノ嗣ヲ撰ブ權ヲ與ヘラレタリ

（三八三）　譜代ノ說明

譜代ハ三河以來臣屬ノ家柄ニテ重職ニ登ルノ榮譽アレドモ其祿ハ多カラズシテ壹萬石以上ヲ譜代大名ト云ヒ萬石以下ヲ旗本ト云ヒ卒ヲ御家人ト云フ譜代ノ臣ニ限リ諸職ニ任ゼラル

（三八四）　外樣ノ說明

外樣トハ譜代ニアラザレバ大名ニテ各其國ニ自主シ政治其舊ニ依ル加賀ノ前田島津等ヲ云フ此等ハ七十万石以上ヲ食メドモ政權ニ預カラシメザリキ

（三八五）　家門ノ說明

家康ノ庶長子秀康ヲシテ結城氏ヲ繼ガシメ越前ヲ領セシム之ヲ家門ト稱セリ

（三八六）　諸大名ノ配置

家康ノ諸大名配置ノ法ハ江戸ヲ中心トシ其ノ周圍ニ古河（下總）關宿（下總）岩槻

（武藏）河越（武藏）小田原（相摸）等ニ譜代ノ大名ヲ置キ己レガ子ヲ尾紀及水戸ニ置キテ藩屏トシ東海東山二道ニ宿將ヲ置キ其他北國中國九州四國ニ親藩姻戚等ノ大名ヲ巧ミニ排置シテ加州長州薩州土州ノ外樣大名ヲ押ヘントセリ

（三八七）**幕府ノ諸侯ヲ駕御セシ政略**

諸大名ヲシテ城壘ヲ毀タシメ領内一城ニ過グルヲ得ザラシメ大小各藩封内ヲ治メ兵備財用訟獄ハ委任シ幕府ハ軍事造幣運輸ノ要網ヲ總ベ監督スルニ過ギズ諸侯ノ繼嗣ヲ嚴ニシ繼嗣ノ男ナキトキハ絕家セシメ諸侯ノ邸ヲ江戸ニ構エ妻子ヲ質トシ參勤交代ノ制ヲ定メ財用ヲ費ヤサシム又皇室幕府ノ大土木ハ大名ニ課シテ國力ヲ罷弊セシム

（三八八）**公家法度**

元和偃武ノ後二條昭實ト議シ朝廷ノ令條ヲ定メタリ天子ハ第一學問ヲ務トセラレ古道和歌ヲ學バルベシ武家ノ官位ヲ員外トス朝臣ハ異姓ヲ繼嗣スルヲ得ズ服章ハ等ヲ踰ユルヲ得ズ等ノ十七條アリ朝臣ニ賢行ノモノアラバ超擢シ門望資格ニ拘ルベカラズ朝廷ハ官位ノ與奪神官僧尼等人ニ榮譽ヲ與フルヿヲ總ベ土地兵馬訴訟財用驛遞等ハ幕府ノ掌ドル所トス

（三八九）**四親王家**

親王家ハ伏見宮有栖川宮桂宮閑院宮ニシテ世襲親王ト稱ス伏見宮ハ崇光院ノ御子榮仁親王ヨリ出テ小松山階久邇北白川華頂梨本ノ宮ハ其御分レナリ桂宮ハ正親町天皇ノ御子陽光院ヨリ出デ有栖川宮ハ後陽成天皇ノ御子好仁親王ヨリ出デタリ

閑院ノ宮ハ東山天皇ノ御子直仁親王ヨリ出デタリ

（三九〇）**武家法度**

家康林信勝等ト評議シテ新式十三條ヲ定ム、曰ク文武ノ道ヲ修ムルコトヲ怠ル勿レ。遊佚群飲ヲ禁ズ。法ヲ犯スモノハ釋スコト勿レ。反ヲ謀リ若クハ人ヲ殺スモノハ告ゲザル勿レ。私ニ婚姻スベカラズ。諸大名ノ參勤ニ過分ノ衛從ヲ用フル勿レ。衣服ノ制公卿以上ハ白綾諸大夫以上ハ白小袖ヲ着スルヲ許シ紫色及練無紋ノ小袖ヲ禁ズ家臣藩士ハ綾羅錦繡ヲ用フル勿レ。乘輿ハ朝臣僧侶ノ外万石以上五十歳以上及醫師陽陰師ニ限リ許スフコト勿レ。國主ノ人ヲ任ズル政務ノ器用ヲ撰ハザル勿レ。耶蘇ヲ信スル勿レ。諸國諸士儉約ヲ厭置クナカレ。新ニ城郭ヲ築ク勿レ。

（三九一）**參勤交代及江戸諸侯ノ證人**

諸侯江戸ニ邸宅ヲ起シ妻子ヲ居住セシメテ人質ニ擬シ隔年ニ告暇シテ領地ニ還ルヿヲ參勤交代ト云フヿ此等ハ家光ノ時ニ制定セラレタリ

（三九二）**旗下及交代寄合**

譜代ノ臣ニテ萬石ニ及バザルモノヲ旗本ト稱シ將軍ノ麾下ニ屬ス小普請組ト云フハ毎年金ヲ出シテ工役ヲ助ク何レモ無役ナリ旗下ニハ守トナル身分ヲ諸大夫（タイブ）ト云ヒ赤トンボト稱スル褒束ヲ着スルモノヲ布衣（ホイ）ト云ヒ目見エ以上ノ別アリ諸大夫以上ハ將軍之ヲ命ジ以下ハ老中之ヲ命ズルコトヽナレリ旗下ノ中ニテ最上氏生駒氏ハ參觀交代ヲナシ其待遇大名ニ准ズルヲ以テ交代寄合

ト云フ

(三九三) 德川幕府ノ職制

幕府ノ職制ハ家光ノ時ニ制定セラレタリ大政ヲ總理スルモノヲ大老ト云ヒ公文ニ連署シ禁裏仙洞宮門跡公家諸大名ノ事ヲ掌ドル寛永年間若年寄五人ヲ置キテ旗下諸士ノ事ヲ掌ラシム老臣ノ秘書官ヲ表御右筆奥御右筆ト云ヒ文書ヲ掌ドル京都ニ所司代大坂ニ城代ヲ置キ譜代大名ヲ補ス寺社奉行勘定奉行町奉行ノ三奉行アリ大目付目付アリ大御番ハ外ヲ衛リ御書院番ハ内ヲ衛ル御小性組番ノ三ヲ三番ト云ヒテ各番頭(バンカシラ)アリ吉良武田ハ高家ト云ヒテ禮式ヲ主ドリ將軍ノ近習ニ仕ヘテ命令ヲ吐納スルニハ御側用人御側御用取次御側衆御小性御小納戸(衣服掛リ)アリ御奥ニハ老女上﨟中﨟ノ女官及廣敷用人廣敷番頭アリ其他鷹匠御馬方御舟方等ノ諸官備ハラザルコトナシ

(三九四) 三奉行ノ職權

寺社奉行ハ寺社及神官僧侶ノコトヲ掌ドリ町奉行ハ江戸町人ノ事ヲ掌トル其下ニ與力同心アリ勘定奉行ハ租賦財用ノコトヲ掌トリ勘定所ノ長官ナリ公事方勝手方ノ二ツニ分ル公事方ニハ評定所留役組頭アリ勝手方ニハ御殿御勘定組頭アリ

(三九五) 江戸評定所ノ組織

江戸評定所ハ辰ノ口ニアリテ訟訴ヲ掌ドル老中若年寄寺社奉行町奉行勘定奉行等毎月三度立合ヒ訟訴ヲ聽ク大目付目付モ臨監ス奉行等支配下ノ訴訟ハ其官宅ニテ聽斷スルコトヽナレリ

(三九六) 所司代ノ職權

所司代トハ禁裡守護ト中國四國九州ノ支配ヲ兼ネ西國諸大名ノ動靜ヲ察セシムル重職ナリ故ニ譜代大名中ニテ其器ヲ撰ミテ任用セリ板倉伊賀守勝重其子内膳正周防守重宗等相及ボシ名望殊ニ高カリキ寛永ノ頃ヨリ禁裡附仙洞附ナル職ヲ置キ宮廷若シ事アラバ所司代ニ報ジ所司代ハ事ヲ關東ニ報ズ幕府ヨリ事ヲ奏上スルトキハ老中連署シテ所司代ニ通ジ所司代之ヲ傳奏ニ達シ傳奏ハ關白ヲ經テ上奏スル手續ナリ

(三九七) 諸大名ノ席次

諸大名ノ位列ヲ席ト云ヒ大廣間(國守大名二十万石以上)柳ノ間(外樣大名)帝鑑ノ雁間(ガンノマ)菊ノ間(此ノ三ツノ間ハ譜代大名万石以上トス)トス譜代大名ノ上席ヲ溜リノ間ト云ヒ高松會津彦根三家ノ席トス其他万石以下旗下ノ席ニハ芙容間山吹間躑躅間梗桔間アリ

(三九八) 幕府ノ顯職ニ補セラルベキ家柄

德川氏施政ノ方針ハ政權ハ高少キ譜代ノモノニ掌握セシメタリ高多キ大名ハ重要ノ役トナルヲ得ザルナリ譜代大名ハ大老老中若年寄寺社奉行奏者番側用人大坂城代加番大番頭ニ任ゼラレ松平　井伊　酒井　本多　板倉　水野　安藤　土井　堀田　阿部　大久保　戸田　久世　青山ノ諸家ハ役ニ補セラルヽ家柄ナリ

(三九九) 幕府ノ土地人口統轄ノ大要

幕府ハ大名ニ各封内ノ政刑ヲ獨斷スル權ヲ委任シ造幣運輸等ノ網領ヲ提ケテ監督スルニ過キズ全國各地ニ天領朱印地アリテ幕府ノ直轄トス海内土地人民ヲ統轄スル制ハ千住品川板橋四谷ヲ限リ其内ヲ府内トシ其町地町人ハ勘定奉行掌ド リ上方八ケ國（遠近丹波播磨及五畿内）ハ京坂町奉行ドリ若年寄ハ旗下及其知行地老中ハ諸大名ノ領地ヲ管ス其他穢多非人ノ類ノ賤民ニハ各頭アリテ之ヲ支配シ秩序整然タリキ

（四〇〇）**慶長金銀**

家康金座役ヲ置キ大判小判（大判ノ四分ノ一）一分判（小判ノ四分ノ一）ノ三種ノ金幣ヲ造リ銀座是定ニ命ジ餘ノ品位ヲ改定シテ丁銀（テウギン）小粒銀（コツボ）ヲ鑄ル大久保長安ノ建議ニヨリテ佐渡伊豆ヨリ盛ニ採堀セリ世ニ慶長小判トテ珍重スル雜色少ナク品質精良ナルヲ以テナリ

（四〇一）**家康ノ外交**

家康豊臣氏征韓ノ後ヲ受ケ朝鮮ノ怨恨ヲ懷ケンコトヲ慮リ俘虜ヲ送還シテ和平ヲ計リ宗義智ヲシテ其旨ヲ諭サシムコレヨリ朝鮮ハ德川氏ヲ德トシテ來聘スルコト永ク絕ヘザリキ

家康ハ又琉球ヲ媒トメ書ヲ支那ニ贈リタリ明政府ハ答ヘザリシカド商船ハ常ニ長崎港ヨリ往來交易セリ琉球亦來聘セザリシカバ島津氏ニ命ジテ征服セシメキ

（四〇二）**歐洲人ノ東洋政略ノ一班**

我紀元二千二百五十五年文祿四年西曆千五百九十五年即チ第十六世紀ノ後半期ニ當ル當時和蘭人ハ喜望峰ヲ廻リテ東印度ニ達シ慶長五年ニハ英人東印度會社ヲ設立シ慶長六年ニハ葡萄牙人オーストラリヤヲ發見シ慶長七年ニハ和蘭印度會社ノ創立セラレタル時ナリ

（四〇三）**御朱印船**

家康ハ海外貿易ヲ希望シ海外ニ航スル商船ニ朱印狀ヲ渡セリ之ヲ御朱印船ト稱セリ最初ハ九艘アリ京師堺長崎等ノ豪商之ヲ有シタリシガ十三年間ニ百九十四艘ノ多キニ及ベリ

（四〇四）**慶長年間通商貿易セシ諸國**

朝鮮。明。安南。暹羅（暹羅ノ一部）

占城。（安南ノ隣ニアリ）大泥（馬剌加半島ノ一小部）

瓜哇。呂宋。廣東。臥亞。

のひすぱん（新西班牙、即チメキシコ）英國等ナリ

（四〇五）**蘭人やんやうす**

關ケ原ノ戰ノ和蘭船初メテ堺浦ニ到ル幕府之ヲ浦賀ニ送リ其船ヲ毀チ船長ヤンヤウスヲ江戸ニ召シテ海外ノ事情ヲ問ヒ始メテ亞細亞亞非利加歐羅巴ノ三大洲アルヲ知リ大ニ通商ノ利ヲ開カント欲セリ「ヤンヤウス」ニ宅地（今東京麹町區八重洲町）及俸米ヲ賜フ八重州町ノ名ハ「ヤンヤウス」ヨリ起レリ

（四〇六）**山田長政**

山田長政ハ通稱ヲ仁左衛門ト云ヒ商船ニ乘ジテ臺灣ヨリ暹羅ヘ渡リ國王ノ依頼

ヨリテ六昆ノ軍ヲ敗リテ偉功ヲ建テシカバ國王其女ヲ妻ハセリ長政遂ニ暹羅ノ政ヲ參決セリ當時暹羅ニ日本人ノ部落ヲナセル處アリテ日本町ト稱セリ遺跡今猶存ス

（四〇七）濱田彌兵衛

長崎ノ人ニテ商業ヲ營ム當時臺灣ニアリシ海賊ハ勢衰エ蘭人臺灣ニアリテ我商船ヲ掠奪セリ彌兵衛百餘人ヲ率キテ住キテ蘭人ヲ責メ船長ヲ捕ヘ先ニ奪ヒシ貨物ヲ賠償セシメ其ノ質子ヲ携ヘ歸レリ

（四〇八）切支丹宗ノ來歴

有馬大友二氏ハ早クヨリ切支丹宗ヲ信ジ使ヲ羅馬ニ遣ハシヽコトアリキ信長ノ南蠻寺ヲ京師ニ建テシコトアリシガ秀吉ノ時南蠻寺ヲ毀チテ其教ヲ禁シタリシモ尚民間ニ信者少カラザリキ家康ニ至リテヤンヤウスヨリ其陰謀アルヲ聞キ此教ノ害アルコトヲ覺リシカバ慶長十六年禁令ヲ發布シテ岡本大八有馬直純等ノ信徒ヲ刑シ內藤如安高山友祥等ヲ呂宋ニ放チ宣教師ヲ追ヒテ教法ヲ嚴禁セリ當時蘭ト葡萄牙ト軋轢アリテ蘭人ハ葡萄牙人ノ船ヲ捕ヘテ教徒ノ德川ヲ亡ボサントノ密書アルヲ內報セシカバ一層教禁ヲ嚴禁セリ

（四〇九）支倉常長（ハシクラ）

伊達政宗ハ宣教師「ソテロ」ヲ仙臺ヨリ西洋形船ニ乘セ耶蘇信者ヲ裝ヒテ慶長十八年紀元二千二百七十三年支倉常長ヲシテ九月十五日牡鹿郡月浦ヲ出帆セシメテ羅馬ニ遣ハシ歐州ノ狀ヲ窺ハシメ八年ヲ經テ歸國セリ

（四一〇）支倉ノ渡航セシ道筋

慶長十八年九月月浦ヲ出帆シ十月呂宋ニ着シ十九年一月「アカプルコ」（メキシコ西岸ノ港）ニ着シ北アメリカ州ヲ東ニ横リ「ペラクルーヅ港」ニ着シソレヨリ「キユーバ島」ニ着シ大西洋ヲ横ギリ西班牙西南「ガタルクイベル」河口ノ「サンルカル港」ニ着シ「ゴルドバ」。「マドリツド」。「サボナ」。「セノア」。ヲ經テ翌二十年十月羅馬ニ着セリ支倉常長ノ肖像及參考品ハ東京上野ナル帝國博物館ニ陳列セラル

（四一一）文學勃興

家康ハ大平ヲ維持センニハ文學ヲ興スニアリテ學校ヲ伏見ニ開キ孔子家語東鑑貞觀政要等ノ書ヲ活字ニテ印行セシメ藤原惺窩ヲ伏見ノ學頭トシ其門人林道春ヲ儒職トセリ又文書史乘ノ散亂セルヲ以テ古書ヲ蒐集セシメキコレヨリ文敎彬々トシテ興レリ

（四一二）藤原惺窩

名ハ肅播磨ノ人定家卿ノ後裔ニメ下冷泉爲佐卿ノ男ナリ幼ニシテ僧トナリ警敏強記古今ノ書ヲ博覽シ後ニ儒者トナリテ終身齊家治國ノ道ヲ講ゼリ家康ニ聘セラレ大ニ儒學ヲ興起セリ元和五年歿ス門人ニ林道春石川丈山等ノ學者少カラズ

（四一三）林道春

道春名ハ信勝羅山ト號ス惺窩ノ門人ニシテ博學強記家康ノ顧問トナリ政治法律ノ制定ニ力アリキ明曆三年歿ス子孫世々德川家ノ儒官トナリ大學頭トナル本朝

通鑑等著書頗フル多シ

(四一四) 僧天海

天海ハ家康父子ニ信任セラレ幕府ノ政務ニ參與セリ天海比叡山ニ擬シ江戸忍ケ岡ニ寛永寺ヲ建ツ東叡山寛永寺是レナリ天海又秀忠ニトキ皇胤一人ヲ請ヒ日光山門主トシテ天下ノ變ニ備ヘシメタリ

(四一五) 細川幽齋

細川藤孝ハ幽齋ト號シ足利十二代將軍義晴ニ近侍セリ十三代將軍義輝ノ弑セラルヽヤ其弟ノ僧トナレルモノヲ扶ケテ出奔セシメタリコレ後ニ十五代將軍義昭ト稱セシ人ナリ幽齋博學ニシテ歌ヲ善クシ又足利ノ故實ニ通ズルノ故ヲ以テ家康ノ爲メニ招カレテ武家法度制定ニ盡力セリ慶長十五年八月卒ス

(四一六) 武家ノ服裝

上下ハ武家ノ禮服タリ無位無官ノ士ハ絹ヲ用フルヲ禁ズ因テ麻布ヲ用ヒ麻上下ト云フ大禮ノ時五位以上ハ束帶シ無位ノモノハ布衣(ホイ)ヲ用フ平常ハ着袴シテ必ス兩刀ヲ帶ブ脫刀ハ士道ヲ失フモノトセリ然シ農ハ佩刀ヲ禁ゼラレタリ

(四一七) 工藝及音樂

大和ノ人中井正次ハ木工ヲ以テ有名ナリ家康ニ寵セラル慶長年間羅紗ヲ織リタルモノアリ家屋モ此頃ヨリ板葺瓦葺ナド增加スルニ至レリ家康ハ古風ヲ保存セン爲ニ謠、能、ヲ舞樂トシタリ當時俗間ニハ阿國歌舞伎淨璃瑠三味線等行ハレタリ

(四一八) 武藝ノ進歩

古來武田小笠原ハ弓馬ノ家トテ武家故實ヲ傳フルニ止マリテ技術ノ達人ナリ僅カニ弓ニ日置流馬ニ大坪流アリシノミナリシガ慶長ノ頃ニ至リ神陰流ノ元祖上泉伊勢守及其門人柳生宗嚴柳生流ヲ始メ宮本武藏ハ二刀術ヲ始メ塚原卜傳ノ門人本間流ヲ開キ寶藏院ノ鎌鎗等武術ノ達人出デタリ砲術ハ田付宗鐵アリ小具足トテ捕縛術ヲ始メタルモノアリ又柔術モ此ノ頃ヨリ始マリタリ

(四一九) 伊奈熊藏

伊奈熊藏ハ檢地莫勘收稅等地方ノ政務ニ係ルモノヲ當時經濟學ト稱セリ氏ハ此ノ術ニ長ジタル人ナリ伊奈流彦坂流ノ二派アリケルガ德川ノ末迄地方役人皆伊奈流ヲ用ヰタリ

(四二〇) 交通ノ狀況

東海道ニ五十三驛ヲ置キ信長ノ遺ヲツギ三十六町毎ニ一里塚ヲ置キタリ道路ヲ修繕シ交通ヲ便ニセシガ唯大井川ト箱根ノミハ修繕セズ東海道ノ難所トセルハ江戸ノ要害トセシ故ナリ

(四二一) 角倉了以

角倉了以ハ土木工事ノ名人ニテ慶長十一年嵐山麓大堰川ヲ浚ヘ京ヨリ舟ヲ丹波ニ通ジ翌十二年駿河ノ富士川ヲ浚ヘテ甲斐ト交通ヲ開ケリ方廣寺ノ普請ノ時高瀨川ヲ堀リ伏見トノ間工場用材巨石ヲ運搬シ易カラシメタリ

(四二三) 德川家光ノ外交及切支丹宗門御停止及踏繪ノ法

徳川家康ハ開港主義ノ人ナリシガ三代將軍家光ハ耶蘇敎禁ヲ犯スモノ止マザルニヨリテ鎖港主義ノ政略ヲトリ寛永十二年海外航通ヲ禁ジ朱印船ヲ造ルヲ禁ジ犯スモノハ死ニ處セリ又海外諸國ノ船ヲ拒絶シ和蘭及明ニ限リ長崎一港ノミヲ貿易場ト定メ禁書ト云ヒテ耶蘇敎書ハ焚キ棄テ踏繪トテ聖十字架ヲ踏ミテ耶蘇宗門ニアラザルヲ誓ハシメ宗門簿ヲ設ケテ國民ハ必ス佛敎ヲ奉ゼシメタリキ

(四三) 天草一揆

きりしたん宗門ノ我國ニ渡來スルヤ三四十年間ニシテ全國ニ遍ク殊ニ四國九州京大坂仙臺ハ信者多カリキ元和偃武後小西大友及諸國浮浪ノ徒多ク豊後ハ最モ迷信者ノ多キ處ナリ寛永十四年肥前ノ島原ノ領主政ヲ失フニ乘ジ切支丹敎徒蘆塚忠大夫天草四郎等同地ノ民ヲ煽動シテ天草島ニ據リテ叛シ應ズルモノ三万五千人ナリ家光板倉重昌ニ命ジ鎭西諸藩ヲ督シテ之ヲ伐ツ兵十二万人ナリ賊勢猖獗重昌戰死セシカバ松平伊豆守信綱ヲシテ賊ヲ討タシム信綱攻圍三ケ月ニシテ城陷リ亂平ラグ

(四四) 寛永時代ノ佛敎

切支丹宗門ヲ嚴禁シ宗門改役ナド設ケテ全國ノ民貴賤ヲ論セズ必ズ佛敎ノ一宗ヲ信ゼシメ祖先ノ忌日ニ參拜セザルモノハ寺ヨリ告訴スルヲ許シ子生ルレバ宗門簿ニ記入シ本寺本山門跡ニテ各宗派ノ寺院ヲ統轄セシムル等幕府ハ一時殆ント佛敎ヲ國敎トセシ有樣ナルヨリ佛敎ノ勢隆盛トナレリ當時ノ宗旨ハ法相、眞言、天台、禪、淨土、眞宗、融通念佛、日蓮、時宗、ノ十一宗ニシテ寺四十万アリ斯ク佛敎ハ興隆セリト雖モ家綱ノ時明僧隱元ノ爲ニ宇治ノ萬福寺ヲ建立シ禪ニ黃蘗ノ一派ヲ生ゼシノミニテ他ニ新シキ宗派ハ起ラザリシナリ

(四五) 鄭成功

明ノ遺臣鄭芝龍平戸ニ寓シ邦人ノ女ヲ娶リテ成功ヲ生ム兩人兵擧ゲ書ヲ幕府ニ送リテ援兵ヲ乞ヒ明ノ恢復ヲ圖ランコトヲ請セシガ幕府應セズ事遂ニ寢ム尋テ成功死シ明亡ビテ清ノ世トナリヌ

(四六) 寛永時代ノ支那

家光就職ノ年ハ滿州ノ愛親覺羅氏起リテ國ヲ清ト號シ太宗瀋陽ヲ陷レシハ家光ノ元和九年ナリ明ハ喜宗皇帝ノ代ニシテ流賊四方ニ起リ李自成京ヲ陷レ明帝煤山ニ自刄セシハ後光明天皇正保元年(紀元二千三百四年)ニ當ル

(四七) 家光將軍ノ成蹟

家光將軍トナルヤ諸侯ヲ集メテ言ヒ渡シケルヤウ余カ父祖ハ曾テ卿等ノ力ニヨリテ天下ヲ一統セシ故ニ客禮ヲ以テ遇セシガ余ハ襁褓ヨリノ將軍ナレバ今ヨリ臣下ヲ以テ卿等ヲ遇センモシ不平ナラハ各國ニ歸リ我旗ノ至ルヲ待テト諸侯恐怖シテ退ケリ幕府ノ威權此ニ於テ固シ家光又計略ヲ以テ諸侯ヲ試ミシカバ諸大名ノ妻子ヲ已レガ家ヲ全フセンコトヲ計レリ參覲交代ノ制ヲ定メ大名ノ妻子ヲ證人トシテ江戸ニ置カシメ幕府ノ職制ヲ制定シ通貨ノ錢質粗ナルヲ以テ寛文年中文錢ヲ鑄造シ永樂錢(外國錢)ノ通用ヲ止メシム家光ハ在職中四十藩五百萬石ヲ削奪セシカハ諸侯各政務ヲ勵ミタリ

(四八) 寛永時代ノ美術工藝文學

天下ノ太平ハ天下ヲシテ華美ノ風ニ長ゼシムルニ至レリ有名ナル日光廟江戸城寛永寺等ノ普請ハ建築術上大ニ見ルベキモノアリ彫刻ニハ左甚五郎アリ土佐又平ハ浮世繪ヲ初メ尊朝法親王(南北朝ノ頃ノ人)ノ流ヲ汲ミテ書ヲ能クシ徳川時代ノ公私文書ハ皆此御家流ヲ用ヒキ又京燒九谷燒等モ此頃ヨリ始マレリト云フ漢學益々盛ニシテ林道春ハ忍岡ニ學校ヲ立テタリ尾張中納言義直ハ學ヲ好ミ藩内ノ學制ヲ定メタリ民間ニハ學問徳行ヲ以テ鄉人ヲ感化セシ近江聖人ノ稱アル中江藤樹アリ

(四二九) **家光ト足利義滿トノ比較**

足利幕府ノ威權ハ義滿ノ時ニ定マレリ金閣寺ハ義滿ノ華美ニ耽リシヲ表ハスニ足レリ家光ハ慶長以來風俗ノ華花ニ傾ケルヲ慨シテ奢侈ヲ禁ゼシガ猶日光廟寛永寺ノ大工事ヲ起セリ然リト雖モ義滿ノ家光ニ及バザル點アリ何ゾヤ曰ク義滿ハ明ノ封冊ヲ受ケ大ニ國体ヲ辱カシメシガ家光ハ嘗テ曰ヘリ内國ニテ他姓ノ代ルハ徳川ノ恥ナリ寸土ヲ外國ニ失フハ日本ノ恥ナリト家光ノ國家的精神義滿ノ受封兩々對シ來レバ雲泥ノ差アラン是レ足利幕府ト徳川幕府トノ年數ニ差異アル所以ナランカ

(四三〇) **由井正雪**

慶安四年家光薨ジ家綱幼ナルヲ以テ保科正之輔佐タリ大老井伊直孝、土井利勝、酒井忠勝松平信綱阿部忠秋等ノ名臣賢相心ヲ協セテ政ヲ執リケルガ正雪將軍ノ薨去ニ乘ジ正雪ハ駿府ニ丸橋忠彌ハ江戸ニ各浪人ヲ集テ事ヲ擧ケント企テシガ事露ハレテ刑セラル

(四三一) **後光明天皇ノ御叡明**

後光明天皇ハ後水尾天皇ノ御子明正天皇ノ御弟ニマシ〳〵テ寛永二十年御即位アラセラル天資英敏大度ニシテ仁慈ノ心ニ富マセ給ヒ常ニ政權恢復ノ御志アリシカバ心ヲ學問ニ用ヒタマヒ嘗テ曰ハク人君ハ無用ノ學ヲ修ムベカラズトテ朝山意林庵ト云ヘル儒者ヲ召サレテ進講セシメラレ朝臣ノ柔弱ニ流ルヽハ源氏物語和歌等ニ耽ルガ爲メナリトテ好ミタマハズ劍道ヲ御嗜ミアリキカク剛明ノ聖主上ニマシマセシカバ幕府ハ懾レ憚レリトゾ

(四三二) **河村安治(瑞賢)**

家綱ノ時大坂繁昌シテ西國ノ物産ノミニテハ間ニ合ハザルヲ以テ奥羽ノ物産ヲ運輸セントセシガ通路ノ不便ナリシカバ巨商河村安治ハ幕命ヲ受ケテ海運ヲ開キシ人ナリ安治ハ出羽酒田ヨリ瀬郡内海ニ出テ江戸ニ達スル航路ヲ開キ途中ニ漕務場ヲ置キ案内船ヲ備ヘ烽火ニテ危險ヲ報ズルノ法ヲ設ケタリ此ニ於テ奥羽米ヲ江戸ニ運ブヲ得タリ幕府大ニ其功ヲ賞セリ大坂ハ水害多キヲ以テ川々ヲ修メ安治川ヲ堀リ其ノ土ヲ河口ニ堆積シテ山ヲ築キ航路ノ標識トス此ノ山ヲ瑞賢山ト稱シ河ヲ安治川ト稱セリ

(四三三) **徳川家綱**

將軍家綱ハ保料正之ノ輔佐ニヨリ治績多カリキ上古垂仁天皇ノ時殉死ヲ禁ゼラレタルガ亂世ニ至リ近臣等主人ノ死ヲ哀ムノ餘リ殉死スルノ俗武家ノ間ニ行ハ

レタリシカバ此ニ至リテ之ヲ嚴禁セリ

(四三四) 水戸光圀

水戸藩主德川光圀ハ德行文學ヲ以テ著ハル明曆三年史局ヲ設ケ明ノ歸化人朱之瑜ヲ聘シ其他才俊ヲ招致シ大日本史二百卷禮儀類典五百卷扶桑拾葉集三十卷ヲ撰ミ契沖阿闍梨ニ命ジテ萬葉代匠記ヲ作ラシメ湊川ニ楠氏ノ墓碑ヲ建テ君臣ノ大義名分ヲ明ニセリ

(四三五) 玉川清右衛門

江戸清水ニ乏シケレバ町人清右衛門莊右衛門ノ二人多摩川ノ水ヲ引カント請フ老中松平伊豆守信綱命ジテ工ヲ起サシメ羽村ヨリ十二里餘ノ渠ヲ堀リ四谷ニ至ル万金ヲ費ヤシテ工ヲ准シ其水ヲ城内及市街ニ通ジテ市民ノ飲料ニ供ス今ノ玉川上水是レナリ幕府其ノ功ヲ賞シ姓玉川ヲ賜ヘリ

(四三六) 綱吉將軍時代ノ天變地異

貞享年間伊豆大島噴火シ元祿九年大地震アリ房總豆相武ノ諸國ニテ十五万餘人ノ死者アリキ寶永四年十月畿内南海東海東山ニ大地震アリ十一月富士山噴火シ武相駿ニ灰ヲ雨ラスコト丈餘此時寶永山盆出セリ

(四三七) 赤穗浪士ノ復讐

播磨城主淺野内匠頭長矩勅使饗應ヲ命ゼラレシガ高家吉良上野介義央ニ侮辱セラレ殿中ニテ義央ヲ傷ケタルヲ以テ死ヲ賜ハリ領地ヲ沒收セラレタリ淺野内匠頭ノ遺臣大石良雄等主家再興ヲ圖リシガ成ラザルヲ以テ同志四十七士ト共ニ元祿十四年十二月十四日吉良義央ノ本所ノ邸ヲ襲ヒテ義央ヲ斬リ舊主ノ讐ヲ復セリ幕府良雄等ニ死ヲ賜ヒシガ世稱シテ義士ト云ヒ賞讃止マザリキ

(四三八) 犬公方(殺生禁斷)

將軍綱吉子ナキ故祈禱ヲ行ヒ子ヲ擧ゲンコトヲ求メタリ戌歳ニ生レタルヲ以テ護持院ノ僧隆光ノ言ヲ聽キ犬ヲ殺スヲ禁ズ狗十万頭ヲ中野ニ飼養ス狺々ノ聲日夜絶エズ犬ヲ殺傷シテ刑セラルヽモノ多シ世ニ犬公方ト稱ス又其他ノ殺生ヲ禁ゼリ然レドモ遂ニ嗣子ナク在職二十九年ニシテ寛永五年薨ゼリ常憲院ト號シ東叡山ニ葬ル

(四三九) 綱吉時代ノ文學

綱吉忍ケ岡ノ聖堂ヲ湯島臺ニ移シ大成殿ト書セル額ヲ揭ケ春秋二期ニ釋奠ヲ行ヒ學舍設ケ林信篤(信勝ノ子)ヲ大學頭トシテ之ヲ掌ラシメ從來學問ハ緇衣ノ徒ニ歸シタリシヲ以テ儒者ハ制外ト稱シテ圓顱僧衣士流ニ列スルヲ得ザリシガ茲ニ至リテ信篤ヲ蓄髮セシメ士分ヲ以テ待遇スルニ至レリコレヨリ文學勃興シテ學者輩出セリ

(四四〇) 綱吉時代ノ文學者

伊藤仁齋ハ性温順謙遜ノ學者ニシテ德行ノ名高ク古學ノ一派ヲ開キ其子東涯ハ博識ヲ以テ名アリ荻生徂徠ハ江戸ノ人苦學シテ古文辭ヲ修メ博學ノ名一世ニ高カリキ木下順庵モ有名ノ學者ニシテ門人ニ新井君美(白石)室直清(鳩巢)雨森芳洲祇園南海等ノ名儒アリ細井廣澤ハ山陵ヲ穿鑿セル人ニテ文學武藝ニ通ゼリ芭

黨ハ俳偕ノ宗匠ヲ以テ有名ナル人ナリ

（四一）常憲院時代物

當時工藝美術ハ大ニ進歩セリ殊ニ蒔繪ハ其進歩著シクシテ常憲院時代物ト稱シテ珍重セリ浮世繪ニハ菱川師宣アリ繪草紙錦繪等此派ヨリ出デタリ刀劍ノ業モ華美裝飾ニ流ルヽニ至レリ

（四二）元祿金

綱吉華奢ヲ好ミ財政困難ニ趣キ日光廟參拜ノ費用サヘ辨シ難キニ至リシカバ止ムヲ得ズ家康ノ時不時ノ用トテ備ヘタリシ金法馬ヲ銷シテ通貨トナスニ至リタレドモ尚不足ナリシカバ慶長以來殆ト百年門通用セシ金銀貨幣ヲバ勘定奉行荻原重秀ノ建議ニヨリテ金五二銀四五銅三ノ割合ニ混シテ吹キ替ヘ其數ヲ二倍ニシタリコレ元字金寶字金トテ錢質ノ惡シキ貨幣ナリシ故民間ニテハ辛フジテ五分ノ一相當ニ通用シタリ又寶永通寶ノ如キハ背文ニ永久通用ノ文字アレドモ民間ニテハ通用スルモノナキニ至レリ又諸藩私ニ紙幣ヲ造リテ國用ヲ足セシカバコレヨリ物價騰貴シテ人民大ニ苦メリト云フ

（四三）元祿時代ノ風俗

戰國以後優柔ナルヲ上方風ト云ヒ豪華ナルヲ町人風ト稱シ錢勘定ノコトヲ談ルヲ士ノ恥トシ武器ノ利鈍等ヲ談シ優柔ナルモ猿樂茶道ノ談ニ過ギザリシガ元祿ノ頃ニ至リ泰平ノ打續クト共ニ武樸ノ風ハ消磨シ宴安ニ流レ士風一變スルニ至レリ諸士相集リテ淨瑠璃音曲ノ巧拙ヲ評シ衣服器翫ノ好惡ヲ談ルニ至リ其ノ風俗江戸ヨリ各地方ニ波及セリ足袋ハ明曆以前ハ皮ヲ用ヒ白足袋ハ踊子ノ用タリシガ此頃ヨリ白足袋ヲ用ヒ紙捻ノ代リニ元結ヲ用ヒ伽羅ノ油等ヲモ用ヒタリ婦人ノ帶ハ其幅廣クナリテ八九寸ノモノヲ用ヒ振袖ノ長サハ二尺以上トナレリ世風華奢ニ赴クニ從ヒ江戸工藝品ノ起リタルモ此時ナリシトゾ

（四四）男立テノ由來

寬文以來男兒ノ一言トテ然諾ヲ重ンジ性命ヲ輕ンズルノ氣性ハ任俠ノ徒ヲ生ズルニ至レリ當時男伊達ト稱シテ市井無賴ノ徒ニテ爭鬪ヲ事トシ少シノ行違ヒヨリ黨ヲ結ビテ切合ヲナシ都下ヲ橫行シテ政敎ヲ害セリ貞享三年其徒二百人ヲ捕ヘ十一人ヲ斬リシカバ此風大ニ衰エシガ變シテ元祿懦弱ノ風トハナリヌ又幡隨院長兵衛水野十郎右衛門等ハ俠客ノ頭領トモ稱スベキモノナリ

（四五）新井白石

白石ハ江戸ノ人ニテ木下順庵ヲ師トシ博學多才識見絕倫ナリ折たく柴の記藩幹譜、采覽異言西洋紀聞等ノ著書頗ブル多シ

將軍家宣ニ仕ヘ間部越前守詮房室鳩巢ヲ薦メ前代綱吉ノ幣政ヲ改革シテ制度ヲ建テタリ朝鮮使來聘ノ時儀式ヲ改定シ外國貿易ノ爲ニ長崎ヨリ金銀流出スルコト莫大ナルニヨリ正德長慶新令ヲ發シ貿易價格（淸船ハ三十艘蘭船ハ二艘）ヲ定メ勘定奉行荻原重秀ハ財政ヲ紊亂セシヲ以テ之ヲ黜ケ金銀ヲ改鑄シ藩札ヲ禁ジ一大新興例ヲ創メントセシモ家宣ノ在職少ナキ爲計畫ヲ遂ケ得ズシテ止メタリ

(四四六) 吉宗ノ中興

德川吉宗ハ文武兼備ノ將軍ニシテ德川中興ノ將軍ト稱スベキ人ナリ今其治績ヲ擧グレバ(一)享保金ヲ鑄造シテ前代ノ惡貨幣ヲ改メ(二)懦弱ノ士風ヲ矯メンガ爲放鷹ヲ復シ諸士ノ游泳放銃諸士ノ調馬ヲ閱シ劍術ヲ奬勵セシカバ士風大ニ改マレリ(三)小石川ニ施藥院ヲ設ケテ貧民ノ病ヲ救治シ(四)天文臺ニ自カラ簡天儀ヲ製シテ備ヘ付ケ(五)學問ノ普及ヲ計リ六諭衍義ヲ板行シテ人民ニ頒テリ(六)農業ニ心ヲ留メ砂糖製法ヲ起シ木蠟、染法墨、藍、蜜柑、鰹節、食鹽等ノ國產物モ大概此ノ時ヨリ興レリ(七)刑法ヲ改定セリ

(四四七) 吉宗將軍足高(タシダカ)ノ制

幕府ノ諸士職ヲ命ゼラル、場合ニ祿ヲ增サバ子孫襲受シテ歲入支ヘ難キニヨリ任職者ノ官俸ヲ定メ祿少ナキモノハ役高ニ滿タザル分ヲ增給シ職ヲ止ムレバ原祿ニ復ス此ク人材登用ノ法ヲ定メ官禀不足ノ憂ナシ之ヲ足高ト云フ

(四四八) 天文學及地理學ノ發達

吉宗天文學ヲ究メ司天臺ヲ設ケ自ラ簡天儀ヲ製シテ備ヘ付ケ安井算哲ノ貞享曆ヲ補訂シテ寶曆曆ヲ行ヘリ家光ノ時正保古國繪圖アリ吉宗製圖法ヲ授ケ奉行ニ命ジテ日本總圖ヲ製セシム並河永ハ五畿內志六十一卷ヲ編シ家治ノ時長久保玄珠ハ日本輿地路程全圖ヲ製セリ

(四四九) 大岡忠相

大岡忠相ハ江戶町奉行トナリ吏務ニ通ジ獄ヲ斷ズル公平ナリシカバ世名奉行ト稱セリ功ヲ以テ諸侯ニ列セラル忠相又江戶ノ火災多キヲ以テ伊呂波四十六組ノ消防組ヲ每街ニ配置シ消防方トス江戶町火消ハコレヨリ初マル又吉宗ノ命ヲ受ケテ家康以來ノ法度書(ハットガキ)十五卷ヲ編セリ

(四五〇) 德川時代ノ刑法

德川時代ノ法律ハ道德ヲ準トシテ定メタルモノナリ吉宗ノ時ニハ明律ヲ參考シテ改正ヲ行ヘリ敲 追放。遠島。死罪。及ヒ墨。晒。闕所。等ノ處刑アリ輕罪ニ手錠。過料。戶締。アリ士ハ遍塞(ヒッソク)閉門。墊居。改易。切腹。ノ五刑アリ死罪ニハ斬罪獄門火災。磔。鋸挽。等ノ殘酷ナルモノアリ罪人ヲ白狀セシメン爲ニ拷問ヲ用ヒタリ

(四五一) 租稅ノ制

德川氏ノ租法ハ大抵十分ノ四ヲ採ル即チ四公六民ノ法ト云フベク之ヲ取ルニ定免、見取ノ二法アリ定免トハ數年ノ秋成ヲ平均シテ定法トシテ收納スル法ニテ見取トハ每年秋ニ至リ代官ヲシテ地ヲ檢シ年ノ豐凶ニヨリテ斟酌スルノ法ナリ吉宗ニ至リ見取ノ弊多キヲ以テ定免ノミヲ用ヒタリ其ノ稅ニ浮役トテ山野河海等ニ課スルモノト冥加金(營業稅)公役(家ノ間口ニ課稅ス)國役職工ノ課役ニテ疊町ニ疊ヲ課シ大工町ニ大工ヲ課スル如シ

(四五二) 傳馬助鄕加助鄕

諸道ニ傳馬所アリ武士往來ノ年々增加シ宿驛常設ノ人馬不足セルヲ以テ沿道近村ニ人馬ヲ課ス之ヲ助鄕ト云フ後ニ至リ尙不足セシカバ傍近五六里乃至十里內

外ノ各村ニモ課賦セリ之ヲ加助郷ト稱セリ

(四五三) 三郷

吉宗ハ德川氏ノ繼嗣ノ絶エザラン爲ニ二男宗武三宗尹家重ノ子吉宗ノ孫重好ヲ田安一ツ橋清水ノ三郷ヲ造リ十万石ヲ給シ家事ハ幕吏ヲシテ主ラシム此ノ田安一ツ橋清水ヲ三卿ト稱シ尾州紀州ト同ジ資格トナシヌ

(四五四) 德川時代社會ノ階級

士農工商ニ分レ僧儒醫ハ此ノ外トシ穢多非人ト稱スル賤民モアリキ士ハ上級ニ位シ侍又御家中(カチユウ)ト稱シ苗字ヲ呼ビ佩刀ヲ許サレ無禮ノモノハ切リ捨ツルヲ得タリ羽織袴ヲ通常服トシ麻上下(アサカミシモ)ノ下ニ小袖トテ紋服ヲ着ス士ニ馬上格徒士(カチ)小人(コビト)足輕等ノ名アリ民ハ苗字ナク單ニ名ヲ稱シ百姓何某何屋何某ト稱ス商人ハ最下級トシタリ士ハ算勘ノ事ヲ語ルヲ恥辱トセシ程ナリキ

(四五五) 五節句及服制

正月七日三月三日五月五日七月七日九月九日之ヲ五節句ト稱ス正月三ケ日ハ大名旗下拜賀三日ハ謠ヒ初メニテ夜都城ス十一日ハ具足ノ祝三月上巳ニハ勅使ノ公卿歲首ヲ賀シ高家上洛シテ賢ヲ上申シ六月十六日ハ嘉定(カヂヤウ)十月一日ハ玄猪(ゲンジヨ)ト云ヒ夜都城シ將軍ヨリ五色ノ餅ヲ賜ハル例ナリ服制ハ三ケ日ハ裝束布衣以上ハ長袴三月三日ハ長袴五月五日嘉定ハ染帷子長袴七月七日八朔ハ白帷子長上下九月九日玄猪ハ染小袖長袴等着用ノ季節ヲ定メ違ヘバ失禮ヲ

譴メラル

(四五六) 大名ノ供廻リ

大名ノ行列ニ制アリ供廻リト云フ槍ハ羅紗、革、羽毛ヲ以テ鞘ヲ飾リ挾箱ハ黑塗ニテ家々ノ紋章ヲ金色ニテ表ハシ金紋先箱(キンモンサキハコ)ト稱シ又牽馬乘物薙刀茶辨當臺弓鐵砲等家格ニヨリテ制アリ孰レモ華麗ヲ競フ諸侯ノ江戸ヲ行クニ衆先槍鞘箱紋ヲ見テ某侯ナルヲ知ルト云フ元祿享保以來江戸ノ工藝ノ盛ニナリシハ武器及供廻リノ具ニ華奢ヲ競フニヨレリ

(四五七) 遊藝ノ狀況

辻講釋相撲淨瑠璃ハ殊ニ流行セリ芝居モ江戸全盛時代ヨリ行ハレタリ京傳馬琴等ノ草紙及能狂言茶の湯挿花等モ流行セリ當時ハ力士ヲ重ンシ大名ニ扶持セラレシモ芝居俳優ハ瓦乞食トテ甚ダ賤メラレキ

(四五八) 田沼意次

寶曆四年家重職ヲ家治ニ讓ル田沼意次寵アリ老中トナリ其子意知ハ若年寄トナリテ權ヲ專ニシ賄賂行ハレ奢侈風ヲ成シ租稅重クナリヌ明和安永天明ノ間ニ災異ハ頻リニ起リ殊ニ天明ノ大饑饉ハ有名ノモノナリキ上下恟々幕府中興ノ政衰ヘタリ家齊立チテ田沼氏ヲ黜ケ其財ヲ沒收セリ

(四五九) 勤王論ノ始

延享四年後桃園天皇御即位アリキ時ニ浪人竹內式部山崎派ノ神道ヲ主張シ常ニ慨論シテ曰ク當時將軍アルヲ知テ天皇アルヲ知ラザルモノ多キハ君臣ノ不學ニ

ヨル若シ君臣學アラバ公家一統ノ世トナラント朝臣ノ學ヲ講ジ武ヲ習フモノ多シ幕府式部ニ敎ヘヲ受シ公卿十七人ヲ咎メ式部ヲ追放セリ當時幕府ノ權威益盛ナリシカバ往々公室ノ式微ヲ嘆ズルモノアリ式部ノ友人藤井右門山縣大貳等モ勤王ノ事ヲ論ジタリトカニテ三人共刑セラレタリ勤王論漸ク起ル

(四六〇) 堀勝名

勝名ハ肥後國守細川重賢ノ家老ニテ重賢心ヲ政事ニ留メ學校ヲ起シ農事ヲ勸メ備荒貯蓄ヲナシ領内ノ刑法ヲ改正セリ當時諸藩ノ治績アルモノ多シト雖モ肥後ノ刑律ハ尤モ精良ナリトノ評アリ

(四六一) 塙保己一

保己一ハ武藏國兒玉郡保木野村ノ人ナリ幼ニシテ明ヲ亡ヒ音曲ヲ學ビテ成ラズ遂ニ心ヲ學ニ專ニシ博聞强記ナリ萩原宗固賀茂眞淵ノ門ニ遊ビ業益進ム寬政五年幕府和學講談所ヲ置キテ保己一ヲ長トス著ス所群書類從六百餘卷武家名目抄等アリ文政五年七十八歲ニシテ歿ス

(四六二) 松平定信

松平定信ハ白河ノ城主ニシテ英才博學嘗テ封内ヲ治メテ治績アリシカバ家齊ノ老中トナリ吉宗ノ遺制ニ遵ヒ武備ヲ治メ冗費ヲ省キ賢才ヲ擧ゲ勵精治ヲ圖レリ天下稱シテ聖天子(光格天皇)極ニ臨ミ關東ニ賢相出ヅト云ヒ隆治ヲ想望セリ天明八年火アリ皇居炎上セシ故定信ハ皇居ヲ造營シ規模ヲ擴張セリ諸藩ニ令シテ米ヲ蓄ヘシメ兒荒ニ備ヘ旗本ノ窮乏ヲ救ハン爲ニ棄捐法トシテ六年以前ノ負債ハ棄捐シ五年以後ハ限年法ニテ償還セシム又學制ヲ改定シ海防ヲ嚴ニセリ世稱シテ寬政ノ治ト云フ後致仕シテ集古十種花月草紙等著書頗ル多シ

(四六三) 近藤守重

守重ハ古川古松軒ヲ師トシテ學ビタリ是ヨリ先キ千島からふとヨリ千島ヲ侵食シタリシガ魯國ハからふとヨリ千島ヲ侵食シ標柱ヲ建テタリ寬政十年魯人北邊ニ寇ス家齊近藤守重ニ命ジテ千島探險ヲナサシム守重氷雪ヲ冒シテ擇捉ニ到リカムツカオイ山頂ニ大日本領ノ標柱ヲ建テタリ又邊要分界圖考ヲ著シテ北邊ノ地理ヲ述ベタリ

(四六四) 定信ノ海防策

文政文化ノ間ろしあ船屢々我邊海ヲ窺ヒ我漂民ヲ送リ交通ヲ乞ヒシカバ幕府ハ薪水ヲ給シテ交易國禁ノ旨ヲ告ケテ謝絕セリ然レドモ魯人遂ニ蝦夷ニ寇セリ尋テ英船長崎ノ海邊ヲ剽掠シタリシカバ幕府ハ命ジテ益海防ヲ嚴ニシテ黑船ハ見止メ次第ニ打拂フコトヲ命ゼリ

(四六五) 佐藤信淵

信淵ハ醫師ニテ農政ヲ研究シテ宇田川槐園ノ門ニ入リテ蘭學ヲ治メ經史ヲ涉獵シ天文地理歷史測量兵法火技ヲ研究シ三銃用法論海防策ノ著アリ又小金ケ原ニ牧場ヲ設ケ上總ノ漁撈法ヲ論ジ筑後川ノ水害ヲ防ク爲ニハ頭牛ノ制ヲ設ケ毛利家ノ爲ニ三田尻海岸ノ塩田ヲ設クルヲ論ジタル如ヶ實業社會ノ經綸家ト云フベシ著ス所農政本論種樹法經濟問答秘記西洋列國史略禦侮儲言等著書頗ル多シ

(四六六) 高田屋嘉兵衛

寛政十一年幕府北邊ノ事ニ憂フル所アリ御書院番頭松平忠明定奉行石川忠房ヲシテ千島諸島ヲ巡視セシメテ邊防ノ方略ヲ定メシメン爲ニ海技ニ熟スル有志者ヲ募ル嘉兵衛勇奮其行ニ加ハリ國後ニ十數ケ所ノ漁場ヲ設ク享和年間官船ノ長トナリ千島諸島ヲ往來シ貿易漁業ヲ振起シ擇捉ノ海路ヲ開ケリ魯人ノ爲ニ捕ヘラレかむさつかニ到ル氣節ヲ持シテ國体ヲ恥カシメズ日魯ノ衝突ヲ免ルヽニ至リタルハ嘉兵衛ノ力多キニヨレリト云フ

(四六七) 伊能忠敬(イノウタヾユキ)

忠敬ハ三左衛門ト云ヒ北總香取郡ノ人ニシテ家世々酒造ヲ業トセリ寛政ノ頃幕府ノ暦官高橋至時ニツキテ天文測量暦法ヲ學ビ幕命ヲ受ケテ蝦夷五畿七道ヲ測量シ大日本國實測大圖沿海實測錄等ノ著アリ碑ハ東京芝公園丸山ノ丘上樹木蓊欝ノ間東京灣ヲ臨下スル處ニ建テリ

(四六八) 國學ノ四大人

我國史國文ノ學ハ漢學ノ餘業ニ過ギザリシカ水戸光圀明暦三年史局ヲ置キテ大日本史扶桑拾葉集ヲ撰シ僧契沖ハ萬葉代匠記ヲ著シタリコレヨリ國語ノ學始メテ明カナリ元祿中荷田東麿ハ大ニ國史律令ヲ究メ門人加茂眞淵ハ其志ヲ承ケ古史ヲ明ニシ我古風ヲ說ケリ眞淵ノ弟子本居宣長ハ字音言調ノ學ニ精シク博覽洽識一世ヲ蔽ヒ神道ノ說ヲ立テ其門人ニ平田篤胤アリ春滿眞淵宣長篤胤ヲ四大人ト云フ此四大人ハ當時ノ儒者漢ヲ尙ビ我ヲ卑シメ內外本末ヲ誤レルヲ批難シ大義名分ヲ明ニシ尊王愛國ヲ學問ノ骨主トスベキコトヲ說ケリ

(四六九) 寛政異學ノ禁

幕府ノ儒學ハ程朱學ヲ主トス享保以來伊藤仁齋荻生徂徠等ノ學者復古說ヲ唱ヒタルヨリ淺學ノ輩僅ニ書ヲ讀メバ先哲ヲ罵詈スルニ至リシカバ官儒柴野栗山ノ建議ニヨリ宋學ノ外ヲ異學ト稱シテ之ヲ禁ジ昌平校ノ學制ヲ更メ庶民ノ參聽ヲ許セリ茲ニ於テ正異ノ辨紛々タリ

(四七〇) 寛政ノ三奇士

三奇士トハ高山正之蒲生君平林子平ノ三人ヲ云フ正之ハ上野ノ人奇節アリ皇室ノ式微ヲ慨シ京ニ入リ公卿ニ出入シ諸國ノ名士ニ交リ大ニ興復ヲ圖リシガ志ヲ得ズメ自殺セリ○君平ハ下野ノ人國史ヲ研究シ歷朝山陵ノ修マラザルヲ慨シ諸國ヲ跋涉メ山陵志ヲ著セリ○林子平ハ仙臺ノ人慷慨大志アリ四方ヲ周遊シテ民俗政刑ヲ視察シ尤モ心ヲ海防ニ留メ海國兵談三國通鑑ヲ著ハシテ外寇ヲ論セリ

(四七一) 蘭學ノ沿革

西洋ノ學ハ蘭船長崎入港ヨリ新井白石ハ宣教師ニツキテ彼ノ國情ヲ問ヒ西洋紀聞等ノ著アリ將軍吉宗學術ノ精密ナルニ感ジ醫書ニ限リテ讀ムコトヲ許シ青木敦書西川如見ヲシテ蘭學ヲ學バシム此ヨリ以後前野良澤杉田玄白桂川甫周大槻玄澤等ノ醫家刻苦シテ蘭學ヲ研究セリ大槻玄澤ノ蘭學階梯前野ノ解体新書渡邊華山高野長英ノ和交論等ハコレゾ我國開明文運ノ指導者ニゾアルコレヨリ世人往々五大洲ノ形勢ニ着目スルニ至レリ

(四七二) 寛政ノ頃歐米諸國ノ形勢

當時林子平ノ邊防論ノ刋行ヲ禁ジ子平ヲ禁錮セリコレヨリ海防論起ル是ヨリ先キ十五年前安永五年(西暦千七百七十六年)ハ北亞米利加合衆國ノ英國ノ覊絆ヲ脫シテ獨立ヲ宣言シタル年ナリ寛政四年(西暦千七百九十二年)子平ノ禁錮セラレタル年ハ有名ナル佛蘭大革命ノ起リタル年ニテルイ十六世ノ巴里ヲ逃レタル途中ニテ捕ハレタル年ナリキ歐洲ノ風雲ハ將ニ一大擾亂ヲ起サントスルノ機迫レリ我國ニテハ米船ノ熊野ニ漂着スルアリ魯國ハ我漂民ヲ長崎ニ送リ來リテ互市ヲ乞ヘリ幕府諭シテ還ラシム松平定信安房伊豆上總ノ沿海防禦ヲ嚴ニセリ

(四七三) 文化年中北地ノ變

文化元年魯國ノ使節レサノツト長崎ニ來リテ互市ヲ乞フ幕府拒絶ス一年ヲ過ギ重ネテ來リ蝦夷ニ寇ス幕府東陲ノ諸藩ニ命ジテ兵備ヲ嚴ニシ松前奉行ヲ置キ蝦夷樺太ヲ管轄セシム十年魯國ノ使者「イリコル」蝦夷ニ來リテ前年ノ入寇ヲ謝シテ曰ク先年エトロフ島ニ寇セシハ我屬島民ノナス處ニシテ國帝ノ知ル所ニアラズ今玆ニ臣ヲシテ來リ謝セシムトテ前ニ捕ヘラレタリシ魯人ヲカヘサンコトヲ請フ幕府之ヲ許シ薪水ヲ給シテ再ビ寇セザルコトヲ誓ハシメタリ此ヨリ復來寇セズ幕府モ亦警備ヲユルメタリ

(四七四) 文化文政ノ極治

文化文政五十餘年間ハ將軍家齊ノ時ニテ上ニ叡聖ナル仁孝天皇ヲ戴キタルヲ以テ外ニハ北邊ノ變アリト雖天下泰平ヲ歌ヒタリ會津ノ松平藝州ノ淺野備前ノ池田米澤ノ上杉等賢良ナル藩主出デシカバ海内平穩德川氏衰微ノ兆モ此時ニ胚胎シケリ

(四七五) 文化文政頃ノ士風

家齊晩年政ヲ怠リ遊樂ニ耽リ天下泰平ノ久シキ風俗漸ク奢侈ニ傾キ三絃淨瑠璃ヲ弄テ遊ブモノアリ花街酒樓ニ豪遊ヲ誇ルモノアリ士風漸ク廢衰シテ武事ヲ修ムルモノ少ナク德川氏ノ政衰フ

(四七六) 大鹽平八郎

天保七年諸國大雨五穀ミノラズ餓莩道ニ横ハル多キモ幕府ノ舊記ヲ守固シテ因循シテ救護セザリシカバ大坂ノ與力ニ大鹽平八郎ナルモノアリ王陽明ノ學ヲ修メ獄ヲ斷ズル嚴酷ナリシカバ其名大ニ著ハレタリ文政ノ頃役ヲ退キテ敎授セシガ餓民ノ窮亡ヲ救ヒ上書シテ貧民ヲ賑ハサンコトヲ建白セシニ町奉行省セザリシカバ大ニ怒リテ濟民ヲ名トシテ兵ヲ擧グ近畿ノ民集マルモノ數百人火ヲ市街ニ放ツ幕府兵ヲ出シテ之ヲ平ラグ平八郎自盡シ事平グ

(四七七) 水野越前守ノ改革

天保八年家齊薨ヲ家慶ニ讓ル十二代將軍是ナリ水野越前守忠邦ヲ老中トス忠邦英邁經世ノ心ヲ抱キ寛政ノ治ニ復セント欲シ儉約ヲ行ヒ武備ヲ修メ風俗ヲ矯正セント欲シ奢侈ノ衣服食物小說ヲ禁ジ男女ノ混浴ヲ禁ジ劇場遊廓ヲ一定ノ場所ニ移シ旗下後家人ノ風ヲ挽回セント欲シ高島四郎大夫ヲシテ砲術ヲ練習セシメ武術ヲ奬勵シテ有用ノ書籍ヲ出版セシムル等施政上大ニ見ルベキモノ多カリシ

が惜イカナ改革餘リ急激ニ過ギ部下ニ其人ヲ得ザリシカバ漸ク天下ノ恨ヲ招キテ職ヲ免ゼラレタリ

(四七八) 天保弘化嘉永時代ノ西洋及東洋ノ形勢

當時支那ニテハ阿片戰爭アリテ天保十三年支那ノ宣宗皇帝ノ道光二十二年ニハ南京條約アリテ英國ノ爲ニ香港ヲ取ラレタル年ナリ弘化四年ニハ「ナポレヨン」三世佛國大統領トナレリ

(四七九) 外艦邊海ニ出沒ス

弘化元年和蘭ノ使節長崎ニ來リ海外ノ事情ヲ述ベテ開港ノ利アルヲ說ケリ之ヨリ先歐州諸國ハ通商貿易ヲ擴張シ印度支那南洋ニ及ヒ米國モ亦力ヲ東洋ニ延ベントスルノ形勢ナリシカバ洋舶近海ニ出沒スルモノ益々多キヲ加ヘ弘化三年ニハ英船ノ琉球ニ來リ互市ヲ乞フアリ次デ米艦浦賀ニ來リ嘉永元年ニ至リ外國船ノ東洋ニ來ルモノ益多キヲ以テ幕府議シテ打拂ヒノ命ヲ發セントス人心洶々擾

(四八〇) 德川齊昭

齊昭ハ水戸藩祖賴房ヨリ九代ノ主ニシテ英邁學ヲ好ミ夙ニ攘夷ノ說ヲトリ弘道館ヲ設ケ文武ヲ進メ大砲ヲ鑄造シ藤田東湖會澤安等ノ學者ヲ用ヒ海防ノ忽ニスベカラザルヲ主張セリ

(四八一) 米艦渡來

嘉永六年紀元二千五百十三年光明天皇ノ御代六月米國ノ使節ペルリ兵艦四艘ヲ率ヒテ浦賀ニ來リ大統領「フヒルモール」ノ國書ヲ齎ラシ互市ヲ乞フ幕府外船ヲ禁ズルノ旨ヲ述ベケレ共應ゼザリケレバ「ペルリ」ニ諭シテ明年反答スベキ由ヲ告ゲテ歸ラシメ京師ニ奏問シ又諸藩ノ意見ヲ問ヒ砲臺ヲ品川灣ニ築キ武相房ノ海岸ヲ守ラシメタリ

(四八二) 假條約締結ノ次第

安政三年米國ノ使節「ペルリ」來リテ通商ノ約ヲ結バント乞フ時ニ大老井伊直弼勅許ヲ待タズシテ米魯佛蘭英ノ五國ト假條約ヲ結ベリ

(四八三) 櫻田ノ變

井伊直弼ハ勅許ヲ待タズシテ條約ヲ許シ、ヲ以テ大ニ天下ノ物議ヲ惹キ起シ朝廷ノ密使ヲ齊昭ニ給ヒタリ直弼ハ齊昭及公卿政ヲ論ゼシ賴三樹三郎吉田寅次郎等ノ志士ヲ幽閉セリ孝明天皇ハ深ク國事ヲ慮ラセタマヒ攘夷ノ敕ヲ下シテ將軍ノ上京ヲ促シ給ヒシニ直弼ハ將軍家茂ヲ擁シテ命ヲ奉ゼス茲ニ於テ水戸浪士等直弼ヲ櫻田門外ニ殺セリ時ニ萬延元年三月三日ナリ

(四八四) 尊王攘夷說

諸國ノ志士攘夷ヲ唱フルモノ益々多ク毛利慶親等公卿ト共ニ攘夷ヲ主張シ鎖港ノ命ヲ幕府ニ下ス時ニ浪士御殿山ノ公使館ヲ襲ヘリ又生麥村ニテ英人ヲ斬リシヨリ英國ト兵端ヲ開キ長藩ハ米佛蘭三國ノ船ヲ下ノ關ニ砲擊セシガ遂ニ和ヲ講ジ償金ヲ出シテ事平ラグ時ニ諸國ノ浪士東西奔走シテ尊王ヲ唱ヘ攘夷ヲ說キ幕

府ノ失体ヲ咎メ開國ノ說ヲ唱フルモノヲ斬殺スルナド天下紛亂セリ

(四八五) 長州征伐

天皇幕府ノ敕ヲ奉ゼザルヲ怒ラセタマヒ大和ニ行幸シテ親征ノ敕ヲ下シ給フ朝議急ニ變ジテ長藩ノ禁衛ヲ止メシム長藩士ハ藩主ノ冤ヲ訴ヘント欲シ兵ヲ率井テ京ニ入リシガ會津薩摩ノ兵ト衝突シテ戰破レテ國ニ歸リ家老以下數人ヲ斬リテ罪ヲ謝シ事平ラギシガ藩士高杉晉作等大ニ怒リテ恭順黨ヲ斬ル之ニ於テ將軍家茂兵ヲ發シテ長州ヲ伐チシガ戰利アラズタマ〳〵將軍家茂薨ジ慶喜第十五代將軍トナル茲ニ於テ長州征伐ノ軍ヲ解キタリ

(四八六) 太政奉還

慶應三年今上天皇御位ニ即カセタマフ適々兵庫開港ノ期逼リシカバ慶喜奏上シテ開港ヲ許セリコノ時ニ當リテ內外多事ナリシカバ山內容堂等ノ意見ニ從ヒ公武一致ノ外國ニアタラントテ將軍慶喜ニ政權ヲ奉還スルヲ進ムルモノ多シ十月十四日慶喜意ヲ決シテ上表ノ政權ヲ還シ奉レリ時ニ紀元二千五百二十七年鎌倉幕府創立ヨリ六百八十二年家康將軍トナリシヨリ十五代二百六十五年ヲ經タリ

(四八七) 維新前後歐米各國ノ狀況

安政五年我國ノ米魯英佛蘭ト條約ヲ結ビシトキ有名ナル天津條約ナリ佛國安南ヲ討伐セリ萬延元年我櫻田ノ變アリシ年ニハ「リンコルン」合衆國大統領トナリ米國南北戰爭始マレリ英佛ノ兵北京ヲ攻ム翌文久元年(西曆千八百六十一年)ニハ伊太利ノ統一ナレリ

慶應三年ニハ日耳曼聯邦會議アリ「ルキセンボルグ」問題起リ巴里ニ萬國博覽會アリ明治元年紀元二千五百二十八年戊辰ハ清ノ同治七年ニテ穆宗皇帝ノ世ニシテ「グラットストン」氏英ノ首相トナル○明治三十年九月普佛戰爭アリテ「セダン」陷リ「ナポレオン」三世降伏セリ明治四年普魯西亞王「ウヰリヤム」一世日耳曼ノ帝位ニ登リ佛國ニテハ「チエール」大統領トナリタリ(明治元年ヨリ現今ニ至ル)

第六編 今代史之部

(四八八) 王政維新

慶應三年朝廷コトゴトク舊來ノ官職ヲ廢シ新ニ總裁議定參與ノ三職ヲ置キ有栖川熾仁親王ヲ總裁トシ諸政ヲ改革シ天皇敕シテ萬機ヲ親裁シ廣ク公議ヲ取ル旨ヲ告ゲ給フ

(四八九) 戊辰ノ役

明治元年戊辰正月慶喜兵ヲ率キテ君側ヲ清ムルヲ名トシ將ニ京ニ入ラントス薩長ノ兵出テ、鳥羽伏見ニ防戰ス慶喜破レテ江戶ニ歸レリ朝廷諸藩ノ兵ヲ召シテ有栖川熾仁親王ヲ大總督トシ東海東山二道ヨリ進テ江戶ニ向ハシム慶喜城ヲ出テ寬永寺ニ閉居シテ罪ヲ謝ス朝廷慶喜ヲ水戶ニ幽セリ殘黨ノ朝命ヲ奉ゼザルモノ彰義隊ヲ組織シ寬永寺ニヨリテ官軍ニ抗セシカバ官軍攻メテ之ヲ破レリ寬永寺ノ伽藍僧坊灰燼トナリ殘兵房總地方ニ脫走ス時ニ明治元年五月ナリ

(四九〇) 五箇條ノ御誓文

明治元年三月十四日天皇南殿ニ御シ公卿諸公ヲ率ヒテ天神地祇ヲ祭リ五事ヲ誓

約シ給フ(一)、廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシ(二)、文武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシムヘシ(四)、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ(五)、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ

(四九一) **全國平定**

幕臣不服ノ徒東叡山白河口越後口ノ戰破レタル後殘兵東北諸藩會津藩ト共ニ若松城ニヨリテ官軍ニ抗セシガ會津降伏ノ後榎本武揚大鳥圭介等諸方ノ脫兵ヲ集メテ函館五稜廓ニヨリ軍艦ヲ以テ目醒マシク官軍ニ抗セシカド遂ニ出テ降レリ茲ニ於テ全國平定シテ萬民洽ク皇化ニ沾フコトヽナレリ時ニ明治三年三月ナリ

(四九二) **軍制ノ沿革**

長州征伐ノ時長兵ハ歐州式操練ヲ採用セシ結果大ニ諸藩ノ兵ヲ破レリコレ諸藩ノ兵ハ猶甲冑劍槍陣羽織陣笠等ノ出立ニテ東洋古風ノ戰法ヲ用ヒシ故ニ長軍ノ爲ニ打破セラレタルヲ以テ諸藩競ヒテ當時歐州ヲ風靡セシ「ナポレオン」三世ノ兵式ヲ學ビ吳絽ニテ製セルつヽぱだんぶくろトテ今ノ洋服ノ寬ヤカナル如キ軍服ヲ着用シ或ハ筒袖陣羽織ニテ義經袴ヲ着ケゲベル銃ヲ用フルニ至レリコレ我國兵制ノ一大變革ナリ

(四九三) **郡縣ノ制**

德川氏封建ノ政ハ亡ビテ天下ノ政權朝廷ニ歸セリ木戸孝允建議シテ諸侯ハ土地ヲ私有スベカラズトテ藩籍奉還ヲ諸藩ニ勸メタリ茲ニ於テ府藩縣ノ制ニ改メ舊藩主ヲ藩知事トシ參事ヲ置キテ地方政ヲ行ハシメタリシガ明治四年藩ヲ廢シ府縣ノ制ヲ定メ公卿及舊主ヲ華族トシ其家臣ヲ士族トシ公債證書ヲ賜ヒテ祿ヲ廢セラレタリ

(四九四) **維新ノ元勳**

西鄉隆盛木戸孝允大久保利通三條實美岩倉具視等ハ王政維新ノ大改革ヲ行ヒ我國今日文明ノ指導者トシテ偉勳アリシ人々ナリ

(四九五) **征韓論**

我國嘗テ朝鮮ニ修好ヲ勸メシニ朝鮮受ケズ又使ヲ遣ハシテ對馬貿易船ヲ罷ムルヲ報ジ漂民ヲ送リ還セシニ朝鮮漂民ヲ受ケテ答ヘズ明治八年我軍艦朝鮮江華島ニ碇泊シ薪水ヲ求メタルニ彼ヨリ砲擊セシカバ我兵應戰シテ之ヲ破レリ茲ニ於テ朝鮮ノ無禮ヲ怒リ征韓ノ論盛ナリ西鄉隆盛江藤新平後藤象次郎板垣退助等其ノ說ノ行ハレザルヲ以テ官ヲ辭シタリ

(四九六) **學制頒布**

明治六年大木喬任文部卿トナリ大學區中學區小學區ヲ分チ學齡ヲ定メ全國ノ男女六歲以上ニ至レバ士農工商ノ別ナク普通敎育ヲ受ケシメ大學校及師範學校ヲ設ケラレタリ我國敎育ノ基礎大ニ定マル

(四九七) **臺灣征伐**

臺灣ハ支那ニ屬シ生蕃熟蕃ノ二部アリ明治四年生蕃我漂民ヲ虐殺セシカバ我政府ハ支那ニ談判セシニ化外ノ民ナリトテ答ヘザリシカバ明治七年西鄉從道兵三

約シ給フ(一)、廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシ(二)、上下心ヲ一ニシ盛ニ經綸ヲ行フベシ(三)、文武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシムヘシ(四)。舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ(五)、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ

(四九一) 全國平定

幕臣不服ノ徒東叡山白河口越後口ノ戰破レタル後殘兵東北諸藩會津藩ト共ニ若松城ニヨリテ官軍ニ抗セシガ會津降伏ノ後榎本武揚大鳥圭介等諸方ノ脫兵ヲ集メテ函館五稜廓ニヨリ軍艦ヲ以テ目醒マシク官軍ニ抗セシカド遂ニ出テ降レリ茲ニ於テ全國平定シテ萬民洽ク皇化ニ沾フコトヽナレリ時ニ明治二年三月ナリ

(四九二) 軍制ノ沿革

長州征伐ノ時長兵ハ歐州式操練ヲ採用セシ結果大ニ諸藩ノ兵ヲ破レリコレ諸藩ノ兵ハ猶甲冑劍槍陣羽織陣笠等ノ出立ニテ東洋古風ノ戰法ヲ用ヒシ故ニ長軍ノ爲ニ打破セラレタルヲ以テ諸藩競ヒテ當時歐州ヲ風靡セシ「ナポレオン」三世ノ兵式ヲ學ビ吳絽ニテ製セルつヽぱだんぶくろトテ今ノ洋服ノ寬ヤカナル如キ軍服ヲ着用シ或ハ筒袖陣羽織ニテ義經袴ヲ着ケゲベル銃ヲ用フルニ至レリコレ我國兵制ノ一大變革ナリ

(四九三) 郡縣ノ制

德川氏封建ノ政ハ亡ビテ天下ノ政權朝廷ニ歸セリ木戸孝允建議シテ諸侯ハ土地ヲ私有スベカラズトテ藩籍奉還ヲ諸藩ニ勸メタリ茲ニ於テ府藩縣ノ制ニ改メ舊藩主ヲ藩知事トシ參事ヲ置キテ地方政ヲ行ハレタリシガ明治四年藩ヲ廢シ府縣ノ制ヲ定メ公卿及舊主ヲ華族トシ其家臣ヲ士族トシ公債證書ヲ賜ヒテ祿ヲ廢セラレタリ

(四九四) 維新ノ元勳

西鄉隆盛木戸孝允大久保利通三條實美岩倉具視等ハ王政維新ノ大改革ヲ行ヒ我國今日文明ノ指導者トシテ偉勳アリシ人々ナリ

(四九五) 征韓論

我國嘗テ朝鮮ニ修好ヲ勸メシニ朝鮮受ケズ又使ヲ遣ハシテ對馬貿易船ヲ罷ムルヲ報ジ漂民ヲ送リ還セシニ朝鮮漂民ヲ受ケテ答ヘズ明治八年我軍艦朝鮮江華島ニ碇泊シ薪水ヲ求メタルニ彼ヨリ砲擊セテ朝鮮ノ無禮ヲ怒リ征韓ノ論盛ナリ西鄉隆盛江藤新平後藤象次郎板垣退助等其ノ說ノ行ハレザルヲ以テ官ヲ辭シタリ

(四九六) 學制頒布

明治六年大木喬任文部卿トナリ大學區中學區小學區ヲ分チ學齡ヲ定メ全國ノ男女六歲以上ニ至レバ士農工商ノ別ナク普通敎育ヲ受ケシメ大學校及師範學校ヲ設ケラレタリ我國敎育ノ基礎大ニ定マル

(四九七) 臺灣征伐

臺灣ハ支那ニ屬シ生蕃熟蕃ノ二部アリ明治四年生蕃我漂民ヲ虐殺セシカバ我政府ハ支那ニ談判セシニ化外ノ民ナリトテ答ヘザリシカバ明治七年西鄉從道兵三

千ヲ率ヒ蕃民ヲ討チテ之ヲ敗ヲシニ支那政府ハ臺灣ハ支那ノ版圖ナリトテ出兵セシカバ大久保利通ヲ大使トシテ談判セシガ和議殆ント破レントセシヲ英國公使ノ仲裁ニヨリテ清國ヨリ被害民恤撫及軍費トシテ五十万兩ヲ償ハシメテ我軍凱旋セリ

(四九八) 西南戰爭

明治十年二月西南亂起ル初メ西郷隆盛征韓ノ議合ハズ官ヲ辭シテ鄉里鹿兒島ニ歸リ私學校ヲ建テ其ノ徒ヲ養フ不服ノ徒來リ集マリ桐野利秋篠原國幹等共ニ隆盛ヲ擁シテ兵ヲ擧ク賊勢猖獗熊本籠城田原坂ノ戰等官軍苦戰セシガ遂ニ之ヲ破リ城山ノ一戰ニ隆盛以下自刃シ七ケ月ニシテ鎭定セリ此役ヤ軍費四千二百萬圓ヲ費セシカバ政府ハ紙幣二千七百万圓ヲ增發シテ之ヲ補ヘリ軍ニ從フモノ六万餘死亡五千人幾ント全軍十分ノ一ナリ賊軍ハ薩肥併セテ三万人ニ下ラズ又全軍三分ノ一ヲ失ヘリ

(四九九) 憲法及皇室典範ノ發布

明治元年ニ詔シ給ヘル五ケ條ノ御誓文ニ基キ明治十四年詔シテ明治二十三年ヲ期シ國會ヲ開クベキヲ以テセラルカクテ伊藤博文ヲシテ憲法取調ノタメ歐羅巴各國ヲ巡視セシメ明治十八年ニハ國會開設ノ準備トシテ官制改革ヲ行ヒ明治二十二年即チ紀元二千五百四十九年憲法及皇室典範成ル此年二月十一日紀元節ノ日ヲ以テ憲法ヲ發布シタマヘリ

憲法ハ國家ノ大經ヲ擧ケ臣民ノ分義ヲ明ニスルモノニテ天皇ノ大權竝臣民ノ權利義務立法行政司法ノ機等ヲ規定ス皇室典範ハ皇位繼嗣、皇族、及皇室御料等ヲ規定セラル二十三年天皇帝國議會ニ臨ミ開院式ヲ擧ラルコレヨリ我國ハ立憲政體トナレリ

(五〇〇) 明治二十七八年ノ日清戰爭

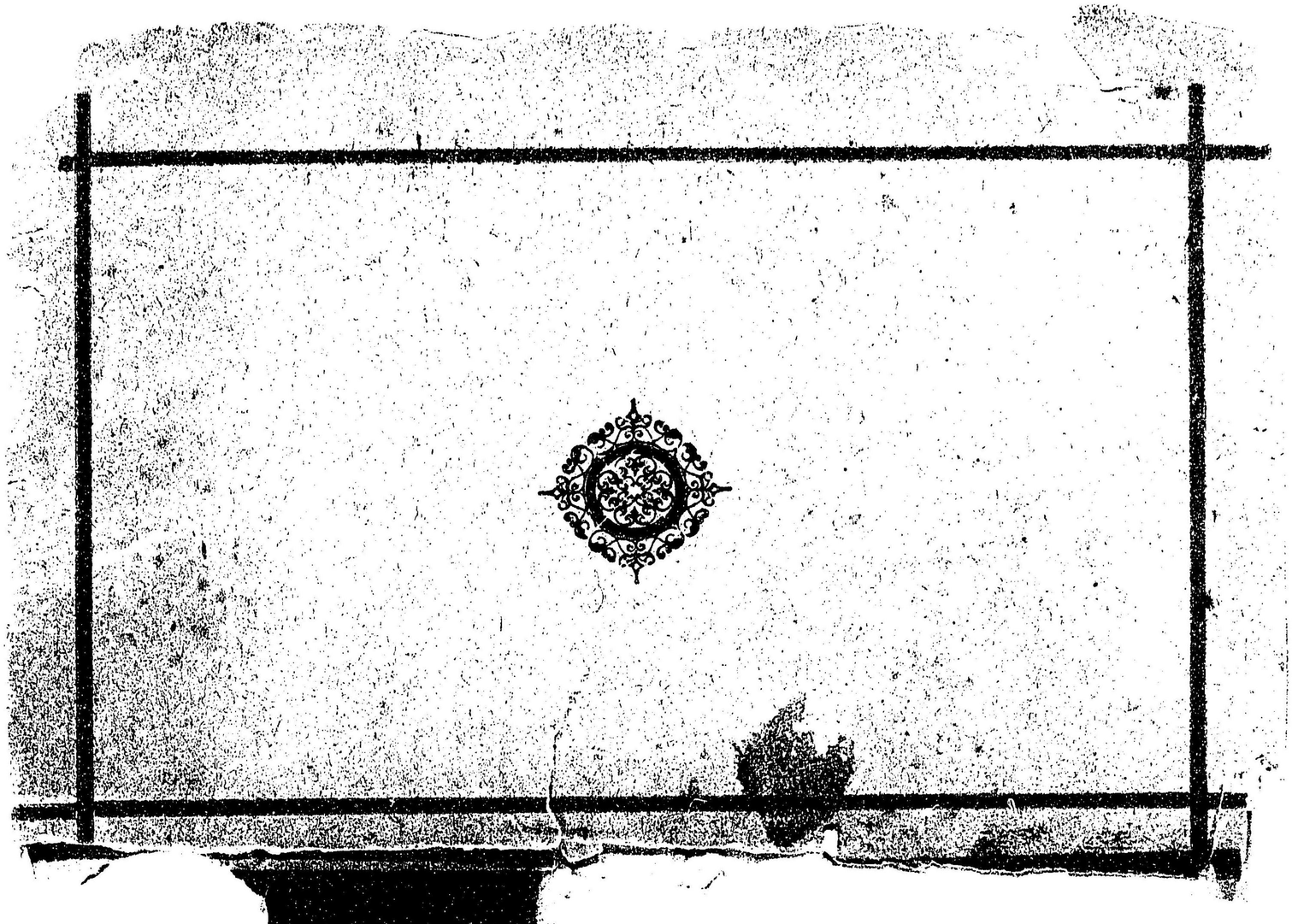
朝鮮ハ我帝國ガ其ノ始ニ啓誘シテ列國ノ伍伴ニ就カシメタル獨立ノ一國タリ然ルニ清國ハ以テ其屬邦ト稱シ陰ニ陽ニ其內政ニ干涉シタリ明治二十七年東學黨ノ亂アリ朝鮮政府之ヲ鎭定スルコト能ハズ是ニ於テ清國ハ口ヲ屬邦ノ拯難ニ籍リ恣ニ兵ヲ朝鮮ニ出セリ我レニ於テハ東洋ノ平和ヲ維持センガ爲メ再三清廷ニ向ヒテ忠告スル所アリシ然ルニ清國ハ悉ク忠言ヲ用井ザルノミナラズ却テ益々大兵ヲ韓土ニ派シ遂ニ我艦ヲ韓海ニ要擊シ殆ンド亡狀ヲ極メタリ是ニ於テ八月一日ノ宣戰ノ詔勅トナリ次テ大纛ヲ廣島ニ進メ給フ牙山、平壤、黃海、旅順、威海衛等連戰連勝清國ノ海軍ヲ全滅シ將ニ清京ニ迫ラントスルノ勢ナリシガ清國和ヲ請フヲ以テ我大使伊藤博文陸奧宗光清國ノ大使李鴻章等ト長門下ノ關ニ講和條約ヲ結ビ償金二億兩ト臺灣島ヲ割與セリ二十八年五月車駕凱旋シ給フ全國民ノ歡聲沸クガ如ク東洋ノ妖雲イツシカ排シ去リテ國威ヲ世界ニ宣揚スルノイヤ目出度帝國トハナリヌ

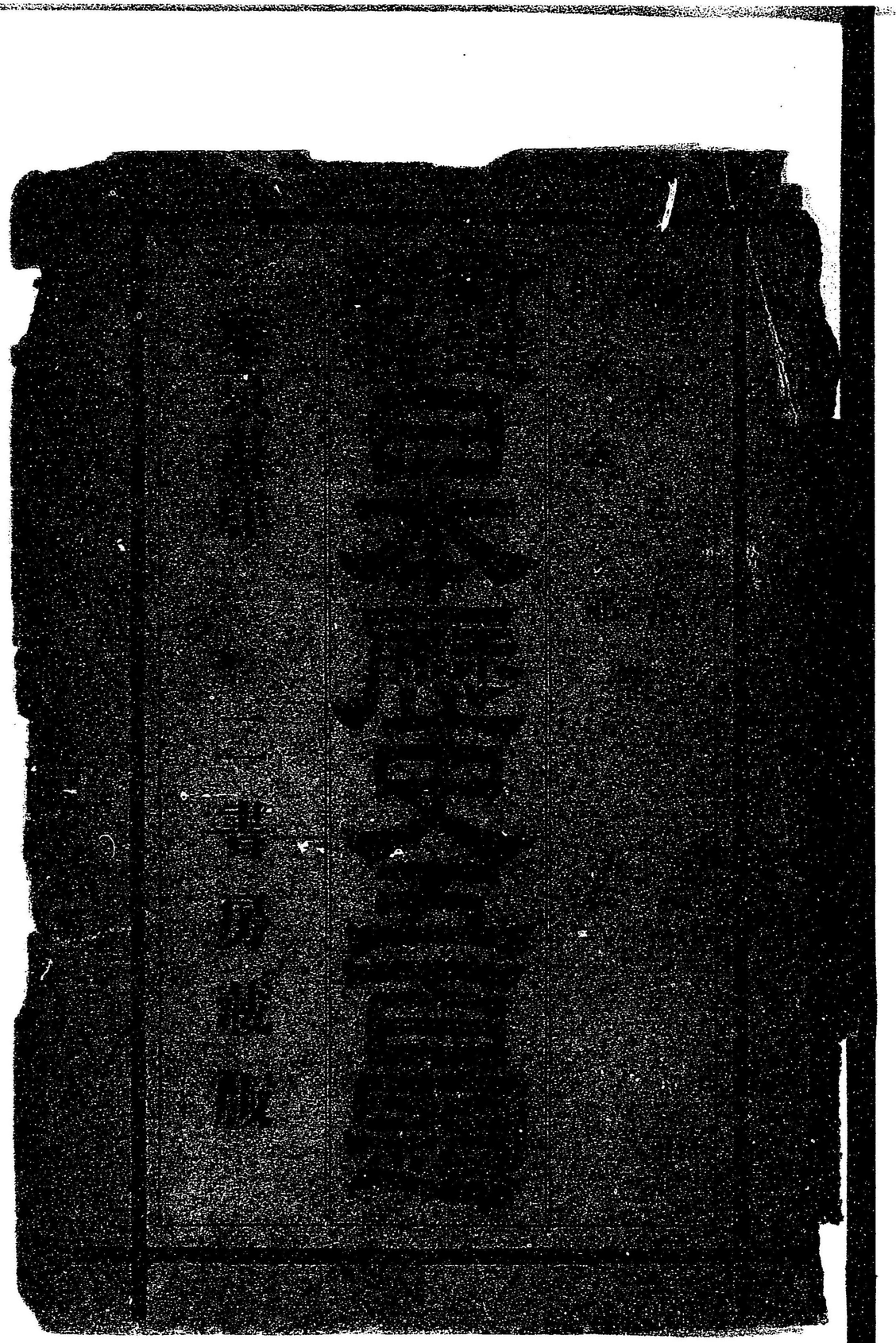
明治三十二年二月廿五日印刷
明治三十二年三月廿五日發行

版權所有

定價金拾五錢

著者　鈴木乙治
著者　八木金一郎
發行者　山岸鉞次郎
東京市赤坂區青山南町四丁目廿八番地
印刷者　小川寅松
全市京橋區南紺屋町十八番地
發行者　平島曠
全市日本橋區上槇町十六番地
發行所　赤心社書店
全市赤阪區青山南町四丁目二十八番地
發行所　小川尚榮堂
全市京橋區南紺屋町十八番地





049631-000-4

特61-229

日本歴史五百題（新撰問答）

鈴木　乙治

八木　金一郎／著

M32

BEM-0334